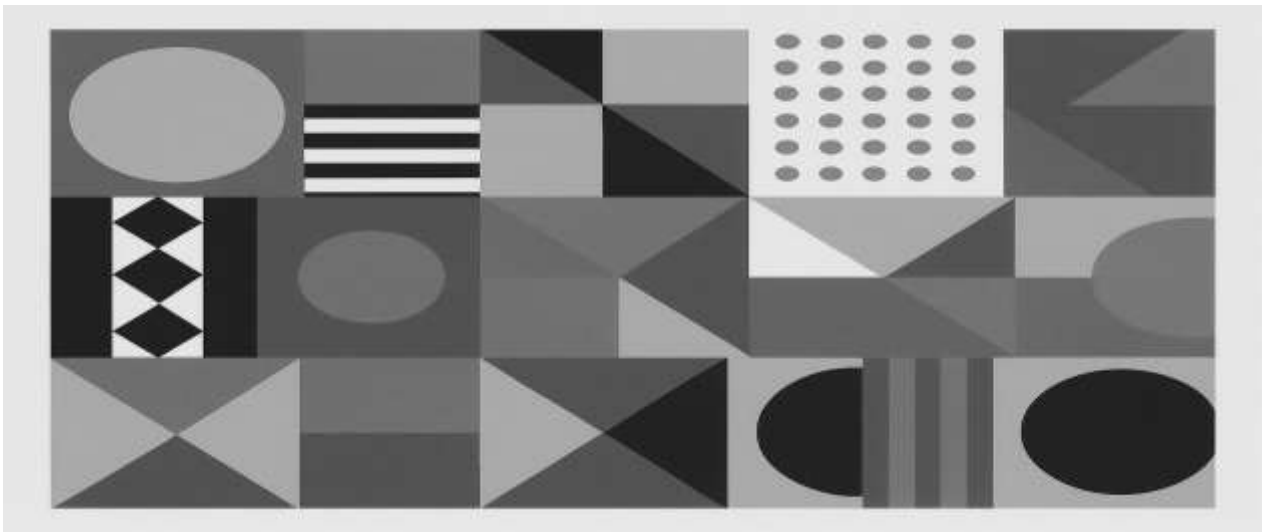


知的障害者の文化芸術と学び

발달장애인의 문화예술과 배움



神戸大学大学院人間発達環境学研究科
고베대학 대학원 인간발달환경학연구과

韓国ナザレ大学リハビリテーション研究所
한국 나사렛대학교 재활연구소

社団法人ラハプ
사단법인 라하프

後援 兵庫県教育委員会
후원 효고현 교육위원회

JSPS 科研費 24K00368

目 次

障害者の生涯学習を支える制度と実践	津田英二	1
장애인의 평생교육을 지원하는 제도와 실천	쯔다에이지	7
キム・ジェウン 김 재은		
発達障害者の文化芸術活動の教育効果と変化		13
발달장애인의 문화예술활동의 교육효과와 변화		
久保内 加菜 구보우치 가나		
知的障害者の芸術文化活動が美術館と学びを変える：教育からエンゲージメントへ		41
지적장애인의 예술문화활동이 미술관과 배움을 바꾸다: 교육에서 참여로		
キム・ミジン 김 미진		
韓国における発達障害者の障害教育の現状と課題		61
한국의 발달장애인 평생교육 현황과 과제		
ウ・ジュヒョン 우 주형		
한국에서 발달장애인의 문화·예술 활동 진흥의 의미와 효과		115
韓国における発達障害者の文化芸術活動振興の意味と効果		121
チェ・ユギョン 최 유경		
発達障害者の文化芸術発展の意味と効果		125
발달장애인의 문화예술 발전의 의미와 효과		
津田 英二 쯔다 에이지		
知的障害者の文化芸術活動振興の意味と効果		142

知的장애인의 문화예술활동 진흥의 의미와 효과

障害者の生涯学習を支える制度と実践
～多様な人たちが学びあうインクルーシブな社会に向けて～
(『都市問題』Vol. 116、2025 年 9 月号、pp. 21-26)

津田英二

1. なぜ障害者の生涯学習か

1) 「インクルーシブな生涯学習」

2006 年に国連総会で採択され、2014 年に日本政府も批准した「障害者権利条約」は、各国政府に「インクルーシブなすべての段階の教育システム及び生涯学習の確保」を求めている。障害者にも、学校教育の保障にとどまらず、「生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習すること」¹⁾を保障していく方針が示されている。

このような考え方の背景には、生涯学習の重要性が強調されてきた国際的な合意がある。平和、自由、社会正義の理想の実現に寄与する生涯学習は、数多くの困難に直面する人類にとって必要不可欠なものと考えられているのである。すべての人が、それぞれの力を高めそれを発揮することで、人類が直面するさまざまな課題に取り組もうとする姿勢は、例えば 2019 年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にも明確に表れている。このアジェンダでは、「誰一人取り残さない」という理念が繰り返され、SDGs という語で広く知られるようになった持続可能な開発目標が示された。そして、それらのうち 4 つめの目標には、「すべての人に、インクルーシブで公平、かつ質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」とある。「障害者権利条約」がインクルーシブな生涯学習の確保を求めている背景には、障害者を取り残すことなく、すべての人が担い手として参加する社会をめざすという理念があると理解することができる。

日本においても、政策理念として「共生社会」が掲げられている。共生社会を説明する際に、障害者基本法第 1 条にある「誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会」というフレーズが引用されることが多い。また、社会福祉行政においては、支援の受け手であっても地域づくりの主体となって参画する地域共生社会がめざされている。

他方、生涯学習推進政策においては、「学習成果が様々な形で活用でき、生涯学習による生きがい追求が創造性豊かな社会の実現に結びつくようにしていかなければならない」²⁾とされるなど、学びを通じた価値の創出が期待されている。

こうした状況を俯瞰するならば、インクルーシブな生涯学習や障害者の生涯学習が提起される背景には、障害者を一方的なサービスの受給者とみなすのではなく、新たな時代を切り拓いていく社会の担い手として参画する主体であるとする内外の動向がある。そして、こうした動向は、人口減少、財政逼迫、低成長、家族や地域社会の質的变化などの外在的な圧力が、人権意識の高まりなどとも呼応して生まれていると理解することができる³⁾。

2) 何を学ぶか、どのように学ぶか

2017 年、障害者の生涯学習推進を担当する部署として「障害者学習支援推進室」が文部科学省内に設置された。翌 2018 年度には、「学校卒業後における障害者の学びの推進に関す

る有識者会議」において、この推進室の取り組みの方針が協議された。その報告書に、障害者の生涯学習推進の理念として、“障害の有無にかかわらず、一人一人が、生涯にわたり学びを通じてその能力を維持向上し続けるとともに、その成果を個人の生活や地域での活動等に生かしつつ共に生きることのできる「共生社会」の実現”と記された⁴⁾。

この動きが始まった当初、「特別支援教育の生涯学習化」という語が用いられていた⁵⁾。確かに、障害者が学校教育から排除されてきた長い歴史があり、ようやく 20 世紀末になって後期中等教育段階までの学校教育が形式的に保障されるようになった。その観点からは、学校教育を更に延長していく必要があるとする意見にも合理性がある。かねてより、障害児の学習権保障を求める立場からは、「最も学ぶのに時間がかかる人が、最も短い時間しか学べない」⁶⁾状況への批判があり、大学等に進学する障害者が少ないことを課題として捉えることができる。

しかし、その一方で、生涯学習を学校教育モデルで捉えるだけでは不十分だとする主張もある。前掲の有識者会議報告書では、「障害者が、一人一人の特性に応じて、得意分野の能力を開花させ、就労の場を含め、社会の中で誇りを持って活躍する可能性を広げられるよう、ICT も積極的に活用しつつ、多様な学びの場づくりに多様な主体が連携して取り組むことが必要」と述べられている。障害者の生涯学習推進政策においては、仕事や生活の中での学び、さまざまな活動や他者との関係の中での学びにも焦点が当たっているのである。

また、同報告は、「障害の有無にかかわらず、共に交流し学び合う環境を整備することが重要」とも述べている。障害者の生涯学習の文脈には、非障害者の学びが必ず付随する。障害者の学びを支援するサポーターを養成する必要があるということもあるが、それ以上に、社会の担い手として障害者と協働することを学ばなければならないのは、社会の主流で活躍している人たちだからである。しかも、そもそも障害者と非障害者との境界さえ明確ではないことも、念頭に置かなければならない⁷⁾。

2. 障害者の学びをいかに支えるか

1) 学校卒業後の生活と学び

兵庫県内の知的障害者を対象に 2021 年に実施したアンケート調査では、回答者の 6 割以上が、「自由時間に何か有意義な活動をしたいと思っているが、実際には何もできていない」と答えている。回答書の多くは、自由時間がたくさんある（回答者の 6 割以上が平日の自由時間が 4 時間以上、休日は 10 時間以上と回答）ものの、ほとんどの時間を家でテレビを見たりゲームをしたりして過ごしている。自由回答記述には、「自宅と作業所だけの世界です」「何をしたらいいのかわからない」「施設に入ったら食べて寝るだけです」といった深刻な状況を示す回答が並んでいた⁸⁾。



図1 知的障害者の自由時間における活動意欲と活動実態との関係
(兵庫県障害者の生涯学習に関する実態調査結果より)

学ぶ機会から障害者を遠ざける要因は、さまざまにある。交通手段がないこと、参加できる活動についての情報がないこと、学びの場まで同行する支援者がいないこと、学びの場に受け入れてもらえないのではないかと不安に思うなど心理的な障壁、経済的な余裕がないこと、そもそも参加できる学びの場がないことなど、障壁は多様でかつ重層的である。

これまでも、いくつもの実践が、こうした状況に変化をもたらそうとしてきた。

社会教育の領域で最も組織的に実践されてきた取り組みに、障害者青年学級がある。高度経済成長期の東京で、障害児学級のアフターケアとして始まった実践で、徐々に社会教育施設で地域が担い手となって開催されるようになり、関東一円に広がっていった。自治体によって特色のある取り組みとして発展してきており、障害の有無にかかわらず青年たちが集い、地域づくりを指向する実践や、表現活動を柱にした活動を展開する実践、障害者が自分たちで運営する自主グループを支援する実践など、優れた事例も多くある⁹⁾。しかし、障害者青年学級の実践は関東以外にはあまり広がらなかった。

障害者青年学級の実践以外にも、特別支援学校高等部卒業後にも学校教育を保障しようとする動向もある。専攻科をもつ特別支援学校の数はいくつか少ないが、近年では、自立訓練事業や就労移行支援事業などの障害者福祉サービスのメニューを活用した福祉型専攻科と呼ばれる取り組みが全国に広がっている¹⁰⁾。

障害者の生涯学習を推進しようとする際、学校教育をモデルとする学びの場づくり以外にも、さまざまなタイプの学びの場を想定する必要がある。市民による自発的なサークル活動、社会福祉事業が提供する活動、当事者の会や親の会などの自助グループの活動、社会教育施設で実施されている通常の活動などを視野に入れて、総合的に展開を図ることが望ましい¹¹⁾。

2) 障害者の生涯学習推進のための協働

文部科学省に置かれた先述の障害者学習支援推進室は、2020年度から都道府県レベルで、障害者の生涯学習推進の広域的なモデル開発に取り組んでいる。この年に名乗りを上げた

のは北海道、秋田県、兵庫県、秋田県で、その後につき自治体の範として、それぞれ独自の展開をしてきている。

これらの自治体のうち兵庫県の取り組みに焦点を当てて、障害の生涯学習推進の広域展開とその課題に触れることにする。

障害者が参加できる学びの場を増やしていくことが、この取り組みの使命であるが、それを進めるためには、まずは担い手を募り組織化する必要がある。行政もネットワークの中核として役割を果たす必要があるが、その他にも当事者や親の会、学校やPTA、大学、社会福祉事業所、文化芸術やスポーツ関係の団体などがコンソーシアムを結成し、それぞれが取り組みを進めつつ、連携体制を創ることが望ましい。兵庫県の場合、兵庫県教育委員会と神戸大学がそれぞれの長所を生かして事務局体制を構築し、推進役を果たすこととなった。

最初に取り組んだことは、コンソーシアムのメンバーが現状認識を共有し、政策ターゲットを明確にするための調査であった。この調査は、知的障害者を調査対象として実施し、811件の有効回答数を得た。その結果の概要は先述のとおりである。障害者が参加できる学びの場の絶対的な不足、支援者の不足、学習情報の不足など、深刻な状況が浮かび上がった。

同時に、障害者が参加できる学びの場の情報を収集し、それをまとめて発信する作業も行った。当時 100 件足らず（現在は 130 件超）の実践情報を集め、そのデータベースを検索アプリとして配信した（兵庫県生涯学習学び場検索アプリ）。このアプリは、障害者や家族が参加したい、あるいは参加できる学びの場を探せるようにするために開発したものであるが、同時に、実際に動いている学びの場を可視化することで、人的交流が生まれ、地理的な偏りや活動内容の偏りなどが可視化されるという副次的な効果があった。

このアプリであぶり出された最大の課題は、地域格差である。学びの場の多くが人口密集地域（神戸、阪神地域）に集中し、人口減少が続く広大な地域には学びの場が極めて少ないということが如実になった。その後のコンソーシアムの取り組みには、この地域格差を少しでも埋めることが求められることとなった。

こうして、2022 年度以降のコンソーシアムでは、地域に分散している公共的な学びの場が有効な機能を果たすように働きかけることが課題となった。地域に広く分散しており、また専門的な職員がいる公共的な学びの場としてコンソーシアムがターゲットにしたのは、博物館であった。それぞれの地域において障害者が学ぶことのできる施設として中核的な役割を果たしてもらうよう、博物館に働きかけることとした。コンソーシアムでは、この取り組みをミュージアム・インクルージョン・プロジェクトと名付けた。このプロジェクトでは、協力を名乗りを上げてくれた県内各所の博物館に、障害者を中心に結成した調査隊を派遣し、事務局を介して博物館と調査隊が対話を行った。2023 年度までに、このプロジェクトの一定の成果が表れたところで、次の段階として、2024 年度からは、それぞれの地域に協力博物館を中心とした学びの場づくりのネットワークを形成していく方向に展開した。それぞれの地域で、障害者の生涯学習推進に関心のある関係者が集まり、博物館を活用した新しい学びの場づくりなどについて協議する取り組みが始まっている¹²⁾。

3. 相互に学びあい成長しあう社会に向けて

神戸大学では、2019 年度から文部科学省障害者学習支援推進室からの委託を受けて、知的障害者に学教育を提供する「学ぶ楽しみ発見プログラム」を実施している。大学の後期の約 4 カ月、週 3 日夜間に授業を行い、知的障害学生十数名がキャンパスにやってくる。曜日

によって内容が異なり、月曜日は大学教員によるオムニバスの授業で、それぞれの教員が自身の取り組んでいる専門領域の話題をゆっくりとわかりやすく教授する。火曜日は神戸大学の通常の授業に参加し、神戸大学の一般の学生と共に学ぶ挑戦をする。木曜日は知的障害学生がメンター学生（知的障害学生の学修をサポートする神戸大学の学生）のサポートを受けながら、話し合いを中心にした学びを展開する。

今年7年目となる取り組みだが、このプログラムに関わった教員や学生は異口同音に、知的障害学生の学ぶ意欲の高さを指摘する。よほどのことがない限り休むこともなく、仕事を終えた後にバスに乗ってキャンパスまで足を運ぶだけでなく、授業でも教員に積極的に質問や意見をぶつける知的障害学生が多い。質問の内容も知的障害学生のこだわりが表れるものが多く、自分の専門を別の角度から見直す契機になったと感じる教員も多い。また、知的障害学生が楽しそうに学ぶ姿に刺激を受けた神戸大学の学生たちからは、自分自身が成長する喜び得られるものが学びだという初心に返るという報告も聞かれる。

「学ぶ楽しみ発見プログラム」に取り組むことで、私たちは、障害者の生涯学習推進が引き起こしえる効果の広がりを実感している。知的障害学生の親からは、「寡黙だった子どもがよくしゃべるようになった」「学ぶことに意欲的になった」「職場での人間関係がよくなった」といった報告が語られる。教員や学生の学びにも波及効果がある。ある学生は、報告書に次のような文を寄せてくれた。

“彼らに接することで障害のこと、ひいては共生について、自分の立場について、今の社会のことについて考えるきっかけを、その場にいるだけでも持つことのできる稀有な学びの場であったと思います。”¹³⁾

障害者の生涯学習推進を迫られる自治体からは、「何をすればよいのかわからない」という声が聞こえてくる。しかし、障害者の生涯学習推進政策は、一株の苗が多くの果実をもたらす取り組みになりえる政策である。1949年に制定された社会教育法に「すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら実際生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努めなければならない」とあるにもかかわらず、その後75年を経てようやく、いまだに学ぶ機会から排除されている人たちが大量に存在してきたという事実がスポットが当たっているのである。活力のある社会を維持・発展させていくという観点からも、障害者の生涯学習推進を起爆剤として、多様な人たちが相互に学びあう社会へと向かうようにすることが求められているのではないだろうか。

〈注〉

- 1) 教育基本法第3条における生涯学習の理念の記述。
- 2) 生涯学習審議会答申『学習の成果を幅広く生かす』1999年
- 3) 障害者の生涯学習推進政策の政治・経済・社会的背景については、津田英二「障害者の生涯学習推進政策の概念枠組みと未来社会に関する素描」（『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』12（2）、2019年、pp. 77-89）で詳細に論じた。
- 4) 学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議『障害者の生涯学習の推進方策について―誰もか、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して―（報告）』2019年

- 5) 2017 年当時の松野文部科学大臣が、特別支援学校を訪問して保護者から学校卒業後の問題を聞き取ったことから、「特別支援学校の生涯学習化に向けて」と題する大臣メッセージを発したとされている。
- 6) 例えば、大石洋子は 1975 年に、“町田市の青年学級をはじめるにあたっておこなった家庭訪問の中で、「障害が重ければ重いほど長く教育の機会を必要とするのに、障害児には高校も大学もない」という訴えや、「日曜日や夜は家の者もどのように扱っていいかわからず、ただテレビを見ているだけなのですよ」という話を聞き、学習する権利どころか、「遊ぶ力」さえ奪われているということを知りました”と述べている（大石洋子「青年期の障害者の発達保障と社会教育」『月刊社会教育』213、1975 年 7 月、p. 43）。
- 7) 障害の概念をめぐるのは、障害者権利条約に、“障害が、機能障害を有する者とこれらの者に対する態度及び環境による障壁との間の相互作用であって、これらの者が他の者との平等を基礎として社会に完全かつ効果的に参加することを妨げるものによって生ずることを認め”とあるように、社会的障壁の大きさが重視されるようになってきている。したがって例えば、障害者手帳を持っているかどうかだけで障害の有無を判断することはできない。
- 8) 兵庫県学校卒業後の障害者の学びを支援するための地域連携コンソーシアム「兵庫県障害者生涯学習アンケート集計結果のご紹介」2021 年；<https://www2.kobe-u.ac.jp/~zda/resources/hyogo-survey-result2021all.pdf>
- 9) 障害者青年学級については、寄林結・高橋智「生涯学習時代における障害者青年学級の役割」（『東京学芸大学紀要 総合教育科学系Ⅱ』63、pp. 31-55）などを参照されたい。
- 10) 特別支援学校専攻科、福祉型専攻科については、田中良三他編『障がい青年の学校から社会への移行期の学び』（クリエイツかもがわ、2021 年）などを参照されたい。
- 11) 多様な実践に目を向けることの重要性については、津田英二「障害者の生涯学習支援推進の考え方」『社会教育』No. 870、2018 年 12 月、pp. 6-12）も参照されたい。
- 12) 兵庫県学校卒業後の障害者の学びを支援するための地域連携コンソーシアムの取り組みについては、津田英二『生涯学習のインクルージョン』（明石書店、2023 年）も参照されたい。
- 13) 神戸大学大学院人間発達環境学研究科『神戸大学・学ぶ楽しみ発見プログラム』2025 年、p. 99；<https://www2.kobe-u.ac.jp/~zda/resources/KUPI2024Report.pdf>

장애인의 평생학습을 지원하는 제도와 실천

다양한 사람들이 함께 배우는 포용적인 사회를 향해
(『도시문제』 Vol. 116, 2025 년 9 월호, pp. 21-26)

쓰다 에이지

1. 왜 장애인의 평생학습인가

1) 「포용적인 평생학습」

2006 년 유엔 총회에서 채택되고 2014 년 일본 정부도 비준한 「장애인 권리 협약」은 각국 정부에 「포용적인 모든 단계의 교육 시스템 및 평생학습의 보장」을 요구하고 있다. 장애인에게도 학교 교육의 보장뿐만 아니라, 「평생에 걸쳐, 모든 기회에, 모든 장소에서 학습할 수 있도록」¹⁾ 보장해 나가는 방침이 제시되어 있다.

이러한 사고방식의 배경에는 평생학습의 중요성이 강조되어 온 국제적 합의가 있다. 평화, 자유, 사회 정의의 이상 실현에 기여하는 평생학습은 수많은 어려움에 직면한 인류에게 필수불가결한 것으로 여겨지고 있다. 모든 사람이 각자의 역량을 높이고 발휘함으로써 인류가 직면한 다양한 과제에 대처하려는 자세는, 예를 들어 2019 년 유엔 정상회의에서 채택된 「지속가능한 발전을 위한 2030 어젠다」에도 명확히 드러나 있다. 이 어젠다에서는 「누구도 소외되지 않도록」이라는 이념이 반복되며, SDGs 라는 용어로 널리 알려지게 된 지속가능발전목표가 제시되었다. 그리고 그중 네 번째 목표에는 “모든 사람에게 포용적이고 공정하며 질 높은 교육을 보장하고 평생 학습 기회를 증진한다”고 명시되어 있다. ‘장애인 권리 협약’이 포용적인 평생 학습 보장을 요구하는 배경에는 장애인을 소외시키지 않고 모든 사람이 주체로서 참여하는 사회를 지향한다는 이념이 있다고 이해할 수 있다.

일본에서도 정책 이념으로 ‘공생사회’가 내걸려 있다. 공생사회를 설명할 때 장애인기본법 제1조에 있는 “누구나 상호 인격과 개성을 존중하고 서로 지지하며, 사람들의 다양한 존재 방식을 상호 인정할 수 있는 전원 참여형 사회”라는 문구가 자주 인용된다. 또한 사회복지 행정에서는 지원의 수혜자라 할지라도 지역 만들기의 주체가 되어 참여하는 지역 공생사회가 지향되고 있다.

한편, 평생학습 추진 정책에서는 “학습 성과가 다양한 형태로 활용될 수 있도록 하고, 평생학습을 통한 삶의 보람 추구가 창의성 풍부한 사회 실현으로 이어지도록 해야 한다”²⁾고 하는 등, 학습을 통한 가치 창출이 기대되고 있다.

이러한 상황을 조망해 보면, 포용적 평생학습이나 장애인의 평생학습이 제기되는 배경에는 장애인을 일방적인 서비스 수급자로 보는 것이 아니라 새로운 시대를 열어가는 사회의 주역으로 참여하는 주체로 보는 국내외 동향이 있다. 그리고 이러한 동향은 인구 감소, 재정 압박, 저성장, 가족 및 지역사회의 질적 변화 등의 외재적 압력이 인권 의식 고조 등과 맞물려 생겨난 것으로 이해할 수 있다³⁾.

2) 무엇을 배우는가, 어떻게 배우는가

2017 년, 장애인의 평생학습 추진을 담당하는 부서로 「장애인학습지원추진실」이 문부과학성 내에 설치되었다. 이듬해인 2018 년도에는 「학교 졸업 후 장애인의 학습 추진에 관한 유식자 회의」에서 이 추진실의 추진 방침이 협의되었다. 그 보고서에

장애인 평생학습 추진의 이념으로 “장애 유무에 관계없이, 한 사람 한 사람이 평생에 걸쳐 학습을 통해 그 능력을 유지·향상시키면서, 그 성과를 개인의 생활이나 지역 활동 등에 활용하며 함께 살아갈 수 있는 ‘공생사회’의 실현” 이라고 기록되었다⁴⁾.

이 움직임이 시작된 초기에는 ‘특별지원교육의 평생학습화’라는 용어가 사용되었다⁵⁾. 확실히 장애인이 학교교육에서 배제되어 온 오랜 역사가 있으며, 겨우 20 세기 말에 이르러 후기 중등교육 단계까지의 학교교육이 형식적으로 보장되게 되었다. 그 관점에서 학교교육을 더욱 연장해 나갈 필요가 있다는 의견에도 합리성이 있다. 예전부터 장애아동의 학습권 보장을 요구하는 입장에서는 “가장 배우는 데 시간이 많이 걸리는 사람이 가장 짧은 시간밖에 배울 수 없는”⁶⁾ 상황에 대한 비판이 있었으며, 대학 등에 진학하는 장애인이 적다는 점을 과제로 파악할 수 있다.

그러나 한편으로는 평생학습을 학교교육 모델로만 파악하는 것은 불충분하다는 주장도 있다. 앞서 언급한 전문가 회의 보고서에서는 “장애인이 각자의 특성에 따라 장점 분야의 능력을 꽃피우고 취업의 장을 포함해 사회 속에서 자부심을 가지고 활약할 가능성을 넓힐 수 있도록, ICT 도 적극적으로 활용하면서 다양한 배움의 장 마련에 다양한 주체가 협력해 나가는 것이 필요하다” 고 기술하고 있다. 장애인의 평생학습 추진 정책에서는 일과 생활 속의 배움, 다양한 활동과 타인과의 관계 속에서의 배움에도 초점이 맞춰져 있다.

또한 동 보고서는 “장애 유무에 관계없이 함께 교류하고 배우는 환경을 조성하는 것이 중요하다” 고도 언급하고 있다. 장애인의 평생학습 맥락에는 비장애인의 학습이 반드시 수반된다. 장애인의 학습을 지원하는 서포터를 양성할 필요가 있다는 점도 있지만, 그 이상으로 사회의 주역으로서 장애인과 협업하는 법을 배워야 하는 것은 사회의 주류에서 활약하는 사람들이기 때문이다. 게다가 애초에 장애인과 비장애인 사이의 경계조차 명확하지 않다는 점도 염두에 두어야 한다⁷⁾.

2. 장애인의 학습을 어떻게 지원할 것인가

1) 학교 졸업 후의 생활과 학습

효고현 내 지적장애인을 대상으로 2021 년에 실시한 설문조사에서는 응답자의 60% 이상이 “자유 시간에 의미 있는 활동을 하고 싶지만 실제로는 아무것도 하지 못하고 있다” 고 답했다. 응답서의 대부분은 자유 시간이 많음에도(응답자의 60% 이상이 평일 자유 시간 4 시간 이상, 휴일 10 시간 이상이라고 응답) 대부분의 시간을 집에서 TV 를 보거나 게임을 하며 보내고 있었다. 자유 응답 기재에는 “집과 작업장만의 세계입니다”, “무엇을 해야 할지 모르겠습니다”, “시설에 들어가면 먹고 자는 것뿐입니다” 와 같은 심각한 상황을 보여주는 답변이 나열되어 있었다⁸⁾.

장애인이 배움의 기회에서 멀어지게 하는 요인은 다양하다. 교통수단이 없다는 점, 참여 가능한 활동에 대한 정보가 없다는 점, 배움의 장소까지 동행해 줄 지원자가 없다는 점, 배움의 장소에서 받아들여지지 않을까 하는 불안감 등 심리적 장벽, 경제적 여유가 없다는 점, 애초에 참여 가능한 배움의 장소가 없다는 점 등 장벽은 다양하고 중첩적이다.

지금까지도 여러 실천들이 이러한 상황에 변화를 가져오려 노력해왔다. 사회교육 분야에서 가장 조직적으로 실천되어 온 노력으로 장애인 청년 학습이 있다.

고도경제성장기 도쿄에서 장애아 학급의 애프터케어로서 시작된 실천으로, 점차 사회교육 시설에서 지역이 주체가 되어 개최되게 되었고, 관동 일대에 퍼져나갔다. 지자체별로 특색 있는 노력으로 발전해 왔으며, 장애 유무에 관계없이 청년들이 모여 지역 만들기를 지향하는 실천이나, 표현 활동을 기동으로 한 활동을 전개하는 실천, 장애인이 스스로 운영하는 자조 그룹을 지원하는 실천 등 우수한 사례도 많다 9). 그러나 장애인 청년 학급의 실천은 관동 이외 지역에는 크게 확산되지 못했다.

장애인 청년 학급 실천 외에도, 특별지원학교 고등부 졸업 후에도 학교 교육을 보장하려는 동향도 있다. 전공과를 가진 특별지원학교의 수는 적지만, 최근에는 자립훈련사업이나 취업이행지원사업 등의 장애인 복지 서비스 메뉴를 활용한 복지형 전공과라 불리는 시도가 전국으로 확산되고 있다¹⁰⁾.

장애인의 평생학습을 추진할 때에는 학교교육을 모델로 한 학습장 조성 외에도 다양한 유형의 학습장을 상정할 필요가 있다. 시민에 의한 자발적 서클 활동, 사회복지사업이 제공하는 활동, 당사자 모임이나 부모 모임 등의 자조 그룹 활동, 사회교육시설에서 실시되는 일반 활동 등을 시야에 두고 종합적으로 전개하는 것이 바람직하다¹¹⁾.

2) 장애인의 평생학습 추진을 위한 협력

문부과학성에 설치된 앞서 언급한 장애인학습지원추진실은 2020 년도부터 도도부현 수준에서 장애인의 평생학습 추진을 위한 광역적 모델 개발에 착수했다. 이 해에 참여 의사를 밝힌 곳은 홋카이도, 아키타현, 효고현, 아키타현이었으며, 이후 지방자치단체의 모범 사례로 각각 독자적인 전개를 해오고 있다.

이들 지자체 중 효고현의 노력을 중심으로 장애인의 평생학습 추진의 광역적 전개와 그 과제에 대해 살펴보겠다.

장애인이 참여할 수 있는 배움의 장을 늘려가는 것이 이 노력의 사명이지만, 이를 추진하기 위해서는 우선 주체를 모집하여 조직화할 필요가 있다. 행정 기관도 네트워크의 핵심으로서 역할을 수행해야 하지만, 그 외에도 당사자 및 가족 모임, 학교 및 학부모회, 대학, 사회복지사업소, 문화예술 및 스포츠 관련 단체 등이 컨소시엄을 구성하여 각자가 추진 활동을 진행하면서 협력 체계를 구축하는 것이 바람직하다. 효고현의 경우, 효고현 교육위원회와 고베대학이 각자의 장점을 살려 사무국 체제를 구축하고 추진 역할을 맡게 되었다.

최초로 추진한 일은 컨소시엄 구성원들이 현황 인식을 공유하고 정책 타깃을 명확히 하기 위한 조사였다. 이 조사는 지적장애인을 대상으로 실시하여 811 건의 유효 응답을 얻었다. 그 결과 개요는 앞서 언급한 바와 같다. 장애인이 참여할 수 있는 학습 공간의 절대적 부족, 지원자 부족, 학습 정보 부족 등 심각한 상황이 드러났다.

동시에 장애인이 참여할 수 있는 학습 장소 정보를 수집하여 이를 정리해 발신하는 작업도 진행했다. 당시 100 건 미만(현재는 130 건 초과)의 실천 정보를 모아 그 데이터베이스를 검색 앱으로 배포했다(효고현 평생학습 학습장 검색 앱). 이 앱은 장애인과 가족이 참여하고 싶거나 참여할 수 있는 학습 장소를 찾을 수 있도록 개발한 것이지만, 동시에 실제로 운영 중인 학습 장소를 가시화함으로써 인적 교류가 생기고 지리적 편중이나 활동 내용의 편중 등이 가시화된다는 부수적 효과가 있었다. 이 앱을 통해 드러난 최대 과제는 지역 격차이다. 학습 장소의 상당수가 인구 밀집

지역(고베, 한신 지역)에 집중되어 있고, 인구 감소가 지속되는 광대한 지역에는 학습 장소가 극히 적다는 점이 여실히 드러났다. 이후 컨소시엄의 노력에는 이 지역 격차를 조금이라도 해소하는 것이 요구되게 되었다.

이렇게 하여 2022 년도 이후 컨소시엄에서는 지역에 분산되어 있는 공공적인 학습 장소가 효과적인 기능을 수행하도록 유도하는 것이 과제가 되었다. 지역에 널리 분산되어 있으며 전문적인 직원이 있는 공공 학습 장소로서 컨소시엄이 타깃으로 삼은 것은 박물관이었다. 각 지역에서 장애인이 배울 수 있는 시설로서 핵심적인 역할을 수행하도록 박물관에 촉구하기로 했다. 컨소시엄은 이 노력을 '박물관 포용 프로젝트(Museum Inclusion Project)'라고 명명했다. 이 프로젝트에서는 협력 의사를 밝힌 현내 각지 박물관에 장애인을 중심으로 구성된 조사대를 파견하고, 사무국을 통해 박물관과 조사대가 대화를 진행했다. 2023 년도까지 이 프로젝트의 일정한 성과가 나타난 시점에서, 다음 단계로 2024 년도부터는 각 지역에 협력 박물관을 중심으로 한 학습 공간 조성 네트워크를 형성해 나가는 방향으로 전개했다. 각 지역에서 장애인의 평생 학습 추진에 관심 있는 관계자들이 모여 박물관을 활용한 새로운 학습 공간 조성 등에 대해 협의하는 노력이 시작되고 있다 12).

3. 상호 학습과 성장을 위한 사회를 향해

고베대학은 2019 학년도부터 문부과학성 장애인 학습 지원 추진실의 위탁을 받아 지적 장애인에게 학문 교육을 제공하는 「배움의 즐거움 발견 프로그램」을 시행하고 있다. 대학 후기의 약 4 개월 동안 주 3 일 야간에 수업을 진행하며, 지적 장애 학생 십여 명이 캠퍼스를 찾는다. 요일별로 내용이 다르며, 월요일은 대학 교원들의 옴니버스 수업으로 각 교원이 자신이 연구하는 전문 분야의 주제를 천천히 알기 쉽게 가르친다. 화요일은 고베대학의 정규 수업에 참여해 고베대학 일반 학생들과 함께 배우는 도전을 한다. 목요일은 지적 장애 학생들이 멘토 학생(지적 장애 학생의 학습을 지원하는 고베대학 학생)의 도움을 받으며 토론 중심의 학습을 진행한다.

올해로 7 년째를 맞는 이 프로그램에 참여한 교수진과 학생들은 입을 모아 지적 장애 학생들의 높은 학습 의욕을 지적한다. 특별한 사정이 없는 한 결석하지 않으며, 일을 마친 후 버스를 타고 캠퍼스까지 찾아올 뿐만 아니라 수업 중에도 교수에게 적극적으로 질문과 의견을 제시하는 지적 장애 학생이 많다. 질문의 내용도 지적 장애 학생들의 고집이 드러나는 경우가 많아, 자신의 전문 분야를 다른 각도에서 재검토하는 계기가 되었다고 느끼는 교원도 많다. 또한 지적 장애 학생들이 즐겁게 배우는 모습에 자극을 받은 고베대학 학생들로부터는, 스스로 성장하는 기쁨을 얻을 수 있다는 배움의 본질로 돌아간다는 보고도 들려온다.

「배움의 즐거움 발견 프로그램」에 참여함으로써 우리는 장애인의 평생 학습 추진이 가져올 수 있는 효과의 확대를 실감하고 있다. 지적 장애 학생의 부모로부터는 “과묵하던 아이가 말을 잘하게 되었다”, “배움에 의욕적이 되었다”, “직장 내 인간관계가 좋아졌다”는 보고가 전해진다. 교직원과 학생의 배움에도 파급 효과가 있다. 한 학생은 보고서에 다음과 같은 글을 기고해 주었다.

“그들과 접촉함으로써 장애에 대해, 나아가 공생에 대해, 자신의 입장에 대해, 지금의 사회에 대해 생각할 계기를 그 자리에 있기만 해도 가질 수 있는 희귀한

배움의 장이었다고 생각합니다.” 13)

장애인 평생학습 추진을 요구받는 지자체에서는 “무엇을 해야 할지 모르겠다”는 목소리가 들려온다. 그러나 장애인 평생학습 추진 정책은 한 그루의 묘목이 많은 열매를 맺는 노력이 될 수 있는 정책이다. 1949년 제정된 사회교육법에는 “모든 국민이 모든 기회, 모든 장소를 이용하여 스스로 실제 생활에 부합하는 문화적 교양을 높일 수 있는 환경을 조성하도록 노력해야 한다”고 명시되어 있음에도 불구하고, 그로부터 75년이 지난 지금에야 비로소 여전히 배움의 기회에서 배제된 사람들이 대량으로 존재해 왔다는 사실에 주목하고 있다. 활력 있는 사회를 유지·발전시켜 나간다는 관점에서, 장애인의 평생학습 추진을 기폭제로 삼아 다양한 사람들이 상호 배우는 사회로 나아가도록 하는 것이 요구되고 있지 않을까.

〈주〉

- 1) 교육기본법 제3조에서의 평생학습 이념 기술.
- 2) 평생학습심의회 답변서 『학습의 성과를 폭넓게 살리자』 1999년
- 3) 장애인의 평생학습 추진 정책의 정치·경제·사회적 배경에 대해서는, 쓰다 에이지 「장애인의 평생학습 추진 정책의 개념적 틀과 미래 사회에 관한 스케치」 (『고베대학 대학원 인간발달환경학연구과 연구기요』 12(2), 2019년, pp. 77-89)에서 상세히 논했다.
- 4) 학교 졸업 후 장애인 학습 추진에 관한 유식자 회의 『장애인의 평생학습 추진 방안에 관하여—누구나, 장애 유무에 관계없이 함께 배우고 살아가는 공생사회를 지향하며—(보고)』 2019년
- 5) 2017년 당시 마츠노 문부과학대신이 특별지원학교를 방문하여 보호자로부터 학교 졸업 후 문제를 청취한 것을 계기로, 「특별지원학교의 평생학습화 방향」이라는 제목의 장관 메시지를 발신한 것으로 알려져 있다.
- 6) 예를 들어, 오오이시 요코는 1975년 “마치다시의 청년 학급을 시작함에 있어 실시한 가정 방문에서, ‘장애가 심할수록 오래 교육의 기회가 필요한데, 장애아에게는 고등학교도 대학교 없다’는 호소나, ‘일요일이나 밤에는 집안 사람들도 어떻게 대해 줘야 할지 몰라, 그냥 텔레비전만 보고 있을 뿐이에요’라는 이야기를 듣고, 학습할 권리는커녕, ‘놀 권리’조차 박탈당하고 있다는 사실을 알게 되었다”고 진술하고 있다(오오이시 요코 「청년기 장애인의 발달 보장과 사회교육」 『월간 사회교육』 213호, 1975년 7월, p. 43).
- 7) 장애 개념에 관해서는, 장애인 권리 협약에 “장애가 기능 장애를 가진 자와 이들에 대한 태도 및 환경적 장벽 사이의 상호작용으로 인해 발생하며, 이들이 다른 사람들과 평등을 바탕으로 사회에 완전하고 효과적으로 참여하는 것을 방해하는 것”이라고 명시된 바와 같이, 사회적 장벽의 크기가 중요시되고 있다. 따라서 예를 들어, 장애인 수첩을 소지하고 있는지 여부만으로 장애 유무를 판단할 수 없다.
- 8) 효고현 학교 졸업 후 장애인의 학습을 지원하기 위한 지역 연계 컨소시엄 「효고현 장애인 평생학습 설문조사 집계 결과 소개」 2021년;
<https://www2.kobe-u.ac.jp/~zda/resources/hyogo-survey-result2021all.pdf>

- 9) 장애인 청년 학급에 대해서는, 기린 유이·다카하시 사토시 「평생학습 시대에 있어서의 장애인 청년 학급의 역할」 (『도쿄학예대학기요 종합교육과학계Ⅱ』 63, pp. 31-55) 등을 참조하시기 바랍니다.
- 10) 특별지원학교 전공과, 복지형 전공과에 대해서는 다나카 료조 외 편 『장애 청년의 학교에서 사회로의 이행기 학습』 (크리에이즈 카모가와, 2021 년) 등을 참조하시기 바랍니다.
- 11) 다양한 실천에 주목하는 것의 중요성에 대해서는 츠다 에이치 「장애인의 평생학습 지원 추진의 사고방식」 『사회교육』 No. 870, 2018 년 12 월, pp. 6-12)도 참조하시기 바랍니다.
- 12) 효고현 학교 졸업 후 장애인의 학습을 지원하기 위한 지역 연계 컨소시엄의 노력에 대해서는, 츠다 에이치 『평생학습의 인클루전』 (아카시 서점, 2023 년)도 참조하시기 바랍니다.
- 13) 고베대학 대학원 인간발달환경학연구과 『고베대학·배움의 즐거움 발견 프로그램』 2025 년, p. 99: <https://www2.kobe-u.ac.jp/~zda/resources/KUPI2024Report.pdf>
- 13) 고베대학 대학원 인간발달환경학연구과 『고베대학·배움의 즐거움 발견 프로그램』 2025 년, p. 99: <https://www2.kobe-u.ac.jp/~zda/resources/KUPI2024Report.pdf>

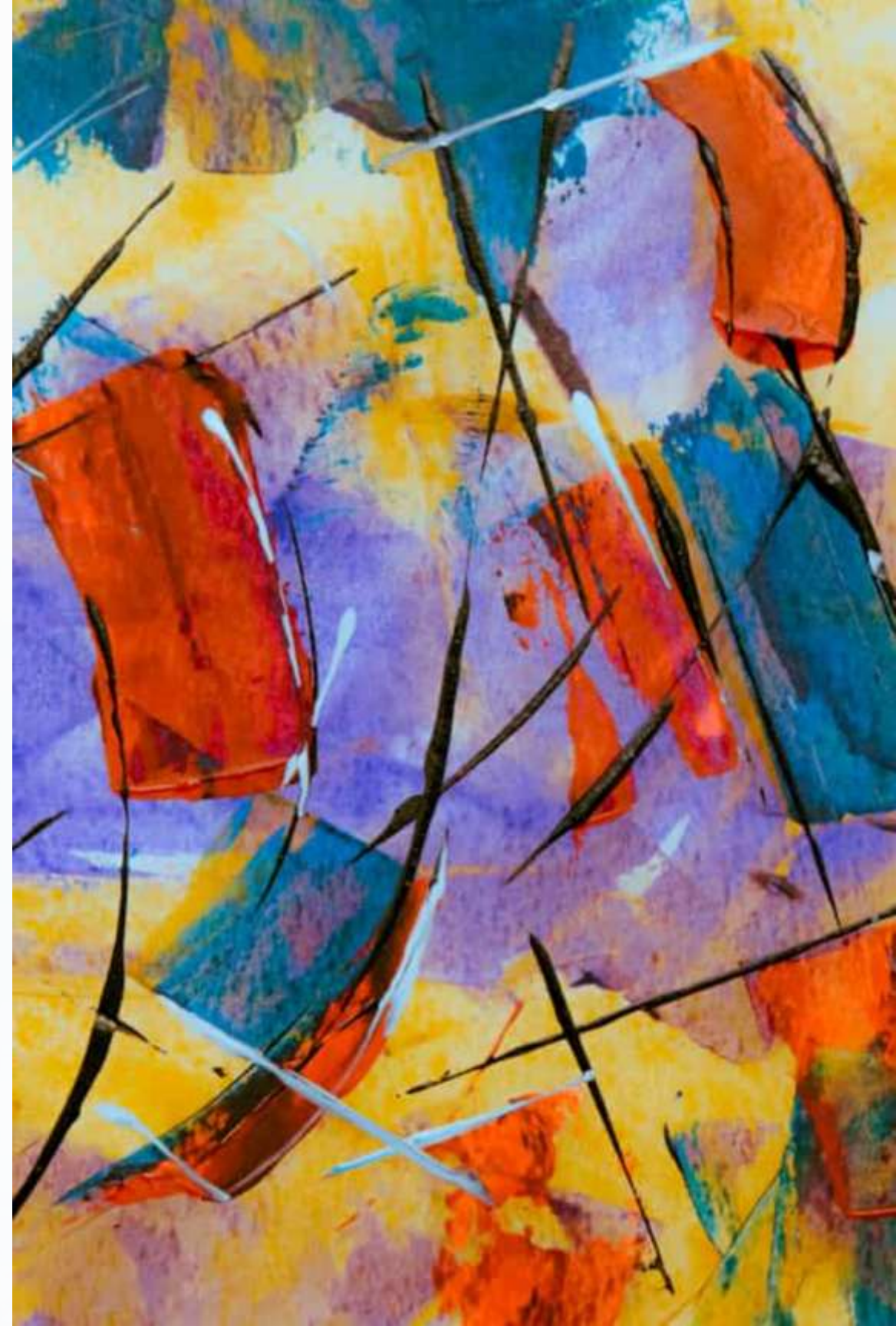
I . 발달장애인의 문화예술 활동의 교육효과와 변화

I . 発達障害者と文化芸術活動の理解

김재은 (金在恩)

나사렛대학교 일반대학원 재활학 박사과정

NPO Theatre Lahaph



예술 (Art / 芸術)

예술의 정의를 그리스어 표현으로 시작하며, 그 깊은 의미를 탐구합니다. 그리스어로 "τέχνη" (테크네)는 **기술**, **기예**, **예술**을 의미합니다. (ギリシャ語で「τέχνη」(テクネ)は技術、技芸、芸術を意味します。)

그리스어 τέχνη (techne)의 의미와 어원을 설명하자면, 이는 단순한 기술을 넘어 인간의 숙련된 솜씨와 창조적인 능력을 포괄하는 개념이었습니다. (ギリシャ語の「τέχνη」(テクネ)の意味と語源を説明すると、これは単なる技術を超えて、人間の熟練した腕前と創造的な能力を包含する概念でした。)

예술은 시대를 초월하여 인간의 **창조적 표현**이자 깊은 **소통의 수단**임을 강조합니다. 개인의 내면을 드러내고, 공동체의 가치를 공유하며, 세상을 이해하는 다양한 방식을 제공합니다. (芸術は時代を超えて人間の創造的な表現であり、深いコミュニケーションの手段であることを強調します。個人の内面を明らかにし、共同体の価値を共有し、世界を理解する多様な方法を提供します。)

특히 발달장애인에게 예술은 자신을 표현하고 세상과 연결되는 특별한 의미를 갖습니다. 언어나 기존의 소통 방식에 어려움이 있을지라도, 예술을 통해 자신만의 목소리를 찾고 온전한 존재로서 인정받을 수 있습니다. (特に発達障害を持つ人々にとって、芸術は自己を表現し、世界と繋がる特別な意味を持っています。言語や既存のコミュニケーション方法に困難があっても、芸術を通じて自分自身の声を見つけ、完全な存在として認められることができます。)



목차 (Contents / 目次)

- Ⅰ. 발달장애인과 문화예술활동의 이해 (発達障害者と文化芸術活動の理解)
 - 1. 한국 장애인 유형 (韓国 of 障害者類型)
 - 2. 발달장애인이란? (発達障害者とは?)
 - 3. 장애 문화예술 활동 지원 법률 및 제도 (障害文化芸術活動支援法・制度)
 - 4. 장애예술인 문화예술 활동 지원 방향 (障害芸術家文化芸術活動支援方向)
- Ⅱ. 발달장애 예술 교육 (発達障害芸術教育)
 - 1. 발달장애 예술 교육의 구성 요소 (発達障害芸術教育の構成要素)
 - 2. 장애예술 지원 체계 (障害芸術支援システム)
 - 3. 예술 분야 입문 및 전문 교육 기관 (芸術分野入門および専門教育機関)
 - 4. 복지기관 예술교육 지원 (福祉機関芸術教育支援)
 - 5. 한국장애인문화예술원을 통한 문화예술교육 (韓国障害者文化芸術院を通じた文化芸術教育)
 - 6. 발달장애인을 위한 학교예술교육 (発達障害者のための学校芸術教育)
 - 7. 평생교육원을 통한 장애 문화예술 교육 (生涯教育院を通じた障害文化芸術教育)
 - 8. 장애 예술의 포용적 예술 관점 (障害芸術の包容的芸術観点)
 - 9. 발달장애 문화예술교육의 한계 (発達障害文化芸術教育の限界)
- Ⅲ. 발달장애 예술 활동 (発達障害芸術活動)
 - 1. 취미로 하는 예술 활동 (趣味として行う芸術活動)
 - 2. 직업 예술인으로서의 활동 (職業芸術家としての活動)
 - 3. 장애예술인 및 예술단체 활동 실적 (障害芸術家および芸術団体活動実績)
 - 4. 문화체험형 장애인인식개선 법정교육 (文化体験型障害者認識改善法定教育)
- Ⅳ. 문화예술활동의 효과 (文化芸術活動の効果)
 - 1. 개인적 관점에서의 효과 (個人的観点からの効果)
 - 2. 사회적 관점에서의 효과 – 다양성, 통합, 포용 (社会的観点からの効果 – 多様性, 統合, 包容)
- Ⅴ. 제언 및 향후 과제 (提言および今後の課題)



1. 한국 장애인 유형

1. 韓国の障害者類型

총 15개 장애 유형이 있으며, 장애 인구는 2,645,000명으로 전체 인구의 5.1%를 차지합니다. 이는 OECD 평균 장애 출현율 24.5%에 비해 낮은 수치입니다.

計15の障害類型があり、障害者人口は2,645,000人で全人口の5.1%を占めます。これはOECD平均の障害出現率24.5%に比べて低い数値です。

2. 발달장애인이란?

2. 発達障害者とは？

① 발달장애(developmental disability): 해당하는 나이에 이루어져야 할 발달이 성취되지 않은 상태로, 발달 선별검사에서 해당 연령의 정상 기대치보다 25%가 뒤쳐져 있는 경우를 말합니다.

発達障害(developmental disability): 該当する年齢で達成されるべき発達が成し遂げられていない状態で、発達スクリーニング検査で該当年齡の正常期待値より25%遅れている場合を指します。

정의

전체 장애 유형 중 지적장애인과 자폐성장애인을 의미합니다. 통상적인 발달이 나타나지 않거나 크게 지연되어 일상생활이나 사회생활에 상당한 제약을 받는 사람입니다.

定義

全障害類型の中で知的障害者と自閉性障害者を意味します。通常の分化が起こらないか、大幅に遅延し、日常生活や社会生活に相当な制約を受ける人です。



발달장애인 권리보장 및 지원에 관한 법률

発達障害者の権利保障及び支援に関する法律

제정 이유

制定理由

발달장애는 특징을 명확히 정의하거나 발달의 진행 방향과 속도를 예측하기 어려워 다른 장애와 명확히 구분됩니다. 이로 인해 전체 장애 유형 중 유일하게 개별 단독법인 「발달장애인 권리보장 및 지원에 관한 법률」(2014년 제정, 2015년 시행)이 마련되었습니다.

発達障害は、特徴を明確に定義したり、発達の進行方向と速度を予測したりすることが難しく、他の障害とは明確に区別されます。このため、全障害類型の中で唯一、個別単独法である「発達障害者の権利保障及び支援に関する法律」(2014年制定、2015年施行)が設けられました。



법률의 목적과 의의

法律の目的と意義

제정 목적

制定目的

발달장애인의 인권 보장, 자립생활 지원, 사회참여 확대를 위한 국가와 지자체의 책무를 규정하고, 인간으로서의 존엄과 가치를 보장받으며 사회 구성원으로 살아갈 수 있는 제도적 기반을 마련하는 것입니다.

発達障害者の人権保障、自立生活支援、社会参加拡大のための国と地方自治体の責務を規定し、人間としての尊厳と価値を保障され、社会の一員として生きていける制度的基盤を設けることです。

의의

意義

- 발달장애인을 단순한 보호 대상이 아닌 권리의 주체로 규정합니다.
- 자립과 사회참여를 돕는 종합지원 체계의 법적 근거를 마련합니다.
- 발달장애者を単なる保護対象ではなく、権利の主体として規定します。
- 自立と社会参加を支援する総合支援システムの法的根拠を設けます。

3. 장애 문화예술 활동 지원 법률 및 제도

3. 障害者の文化芸術活動支援に関する法律及び制度

국내 장애인 예술활동은 헌법, 기본법, 진흥법 등 다양한 법률과 조례를 통해 문화권 보장, 차별금지, 참여 권리 등을 규정하고 있습니다.

国内の障害者芸術活動は、憲法、基本法、振興法など様々な法律と条例を通じて、文化権の保障、差別の禁止、参加の権利などを規定しています。

법률法律	관련 조항関連条項	주요 내용主な内容
헌법 (憲法)	전문, 제9조, 11조, 31조	문화권 보장, 차별금지, 권리 명시文化権の保障、差別の禁止、権利の明示
문화기본법 (文化基本法)	제2조, 제4조, 제5조	
문화예술진흥법 (文化芸術振興法)	제15조 2	
문화예술교육지원법 (文化芸術教育支援法)	제3조, 제24조	
문화산업진흥기본법 (文化産業振興基本法)	제3조의 3	
문화다양성법 (文化多様性法)	제3조, 제4조	
장애예술인 문화예술활동지원법 (障害芸術家文化芸術活動支援法)	제5조, 제8조 1항	실태조사, 국가 및 지자체 지원 책무実態調査、国及び地方自治体の支援責務

4. 장애예술인 문화예술 활동 지원 방향

4. 障害芸術家の文化芸術活動支援の方向性

활동 활성화

장애예술인의 문화예술활동 활성화

活動の活性化

창작 지원

창작, 전시, 공연 활동 지원

創作支援

교육 및 고용

문화예술 교육 및 고용 지원

教育及び雇用

유통 활성화

생산물 홍보 및 유통 활성화

流通の活性化



3. 발달장애 예술 교육

3. 発達障害者の芸術教育

발달장애인 문화예술교육의 구조는 일반 문화예술교육과 크게 다르지 않지만, 몇 가지 강조되어야 할 내적 구성 요소가 있습니다.

発達障害者の文化芸術教育の構造は、一般の文化芸術教育と大きく異なりませんが、いくつか強調されるべき内的構成要素があります。



정체성 기반 창의력

アイデンティティに基づく創造力



관계 중심 통합 활동

関係中心の統合活動



문화다양성 수용성

文化的多様性の受容性



자기 치유와 효능감

自己治癒と自己効力感

장애예술 지원 체계

障害者芸術支援システム

복지부, 문화체육관광부, 지자체를 중심으로 다양한 산하 기관들이 협력하여 장애예술인을 지원합니다.

福祉部、文化体育観光部、地方自治体を中心に、様々な傘下機関が協力して障害芸術家を支援します。

출처: 2024 장애예술인 문화예술 활동 실태조사 및 분석연구 (문화체육관광부, 2024)

出典: 2024年 障害芸術家文化芸術活動実態調査及び分析研究 (文化体育観光部, 2024)

예술 분야 입문 및 전문 교육 기관

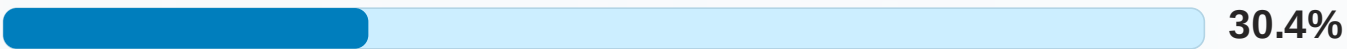
芸術分野の入門及び専門教育機関

장애예술인들은 다양한 경로를 통해 예술 교육을 받고 있습니다.

障害芸術家は多様な経路を通じて芸術教育を受けています。

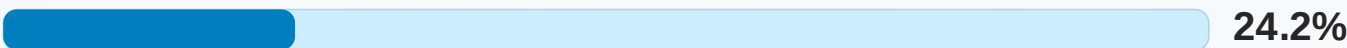
입문 교육

入門教育



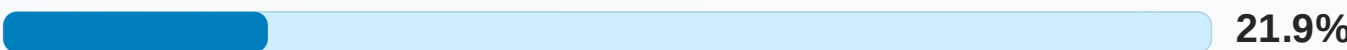
장애인복지시설

障害者福祉施設



개인 레슨

個人レッスン



예술전문학교

芸術専門学校

전문 교육

専門教育



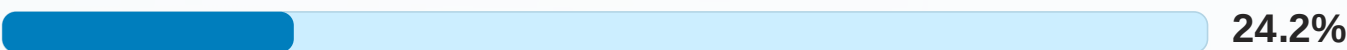
개인 레슨

個人レッスン



예술전문학교

芸術専門学校



장애인복지시설

障害者福祉施設

① 복지기관 예술교육 지원

① 福祉機関の芸術教育支援



'한국장애인복지관협회'와 협력하여 장애인복지시설을 대상으로 예술강사를 파견하고 사업 운영을 지원합니다.

「韓国障害者福祉館協会」と協力し、障害者福祉施設を対象に芸術講師を派遣し、事業運営を支援しています。

① 2020년 기준, 국악, 무용, 미술 등 6개 분야에서 279개소, 369개 반에 175명의 예술강사를 파견했습니다.

2020年基準、国楽、舞踊、美術など6分野で279施設、369クラスに175人の芸術講師を派遣しました。

② 한국장애인문화예술원을 통한 문화예술교육

② 韓国障害者文化芸術院を通じた文化芸術教育

장애예술인의 성장을 위해 다양한 맞춤형 교육 과정을 운영합니다.

障害芸術家の成長のため、多様なオーダーメイドの教育課程を運営しています。

대학교 예술교육 과정

1

장애예술인 수요 기반의 대학 협력 과정을 통해 다양한 예술 접근 기회를 제공합니다.

大学芸術教育課程: 障害芸術家の需要に基づいた大学協力課程を通じて、多様な芸術へのアクセス機会を提供します。

매개자 과정

3

장애인의 특성과 표현방식을 이해하고 지원하는 장애예술 매개자를 양성합니다.

媒介者課程: 障害者の特性と表現方法を理解し支援する障害者芸術の媒介者を養成します。

4

창작자 과정

국내외 예술단체와 협력하여 공동창작 프로젝트 및 협업 프로그램을 운영합니다.

創作者課程: 国内外の芸術団体と協力し、共同創作プロジェクト及び協業プログラムを運営します。

접근성 과정

예술 현장에서의 접근성 적용 방법과 실천 방안을 탐구하는 과정을 운영합니다.

アクセシビリティ課程: 芸術現場でのアクセシビリティ適用方法と実践方案を探究する課程を運営します。



③ 발달장애인을 위한 학교예술교육

③ 発達障害者のための学校芸術教育

학교 시스템 내에서도 다양한 형태의 예술 교육이 이루어지고 있습니다.

学校システム内でも多様な形態の芸術教育が行われています。

향유 체험 교육

문화예술 수업, 자유학기제 위탁 예술학교 등

享受体験教育：文化芸術授業、自由学期制委託芸術学校など

교육 지원

공립 특수 예술학교(대구 예아람학교), K-pop 클래스 등

教育支援：公立特殊芸術学校(大邱イエアラム学校)、K-popクラスなど

평생 교육

서울시평생교육센터 '주인공학교' 등

生涯教育：ソウル市生涯教育センター「主人公学校」など

향유 지원

특수학교 학생 박물관/미술관 무료 관람 지원

享受支援：特殊学校の生徒の博物館/美術館無料観覧支援

사례: 서울시 발달장애 학생 미술 교육

事例：ソウル市の発達障害学生美術教育



'장애청소년 미술교육 지원사업'은 예술적 재능이 있는 발달장애 청소년에게 맞춤형 미술 수업을 지원합니다.

「障害青少年美術教育支援事業」は、芸術的才能のある発達障害の青少年にオーダーメイドの美術授業を支援します。

주요 성과 (최근 3년)

主な成果（過去3年間）

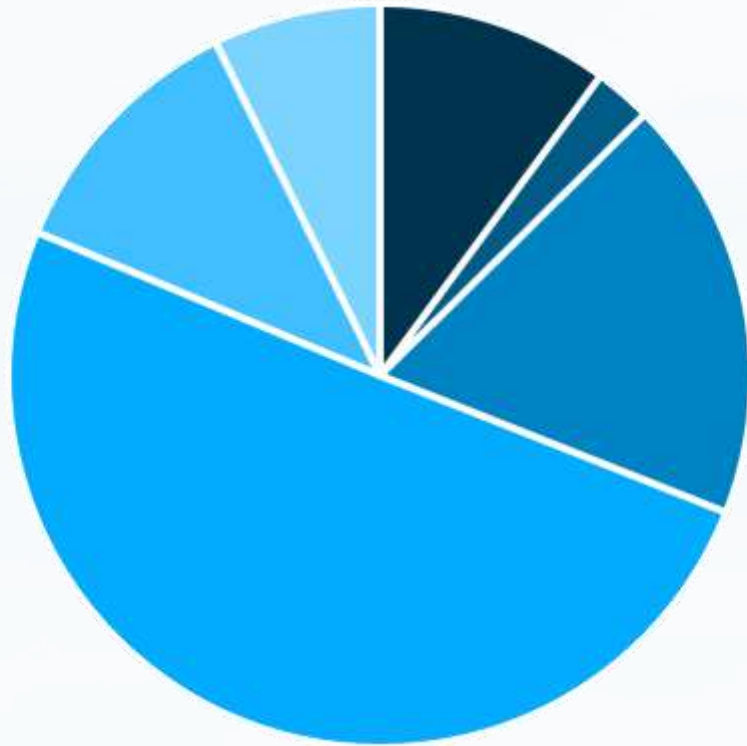
- 수료생 208명
- 상급학교 진학 및 전업작가 10명
- 각종 대회 62회 수상
- 전시 109회 참여
- 修了生 208名
- 上級学校への進学及びプロ作家 10名
- 各種大会で62回受賞
- 展示会に109回参加

④ 평생교육원을 통한 장애 문화예술 교육

④ 生涯教育院を通じた障害者文化芸術教育

한국 발달장애인 평생교육 체계에서 문화예술 프로그램은 매우 높은 비중을 차지합니다.

韓国の発達障害者生涯教育システムにおいて、文化芸術プログラムは非常に高い割合を占めています。



■ 기초문해 ■ 학력보완 ■ 직업능력 ■ 문화예술 ■ 인문교양 ■ 시민참여

평생교육 프로그램 운영 현황

生涯教育プログラムの運営現況

평생교육 프로그램 중 문화예술 프로그램이 50.3%로 가장 높은 비율을 차지하며, 이는 발달장애인의 삶에서 문화예술 활동의 중요성을 보여줍니다.

生涯教育プログラムの中で文化芸術プログラムが50.3%と最も高い割合を占めており、これは発達障害者の人生における文化芸術活動の重要性を示しています。

⑤ 장애 예술의 포용적 예술(Inclusive Arts) 관점

⑤ 障害者芸術のインクルーシブ・アーツ（Inclusive Arts）の視点

서구 사회에서는 기존과 다른 표현 방식의 예술을 새로운 영역으로 간주해왔습니다.

西欧社会では、従来とは異なる表現方法の芸術を新しい領域と見なしてきました。



미국

아웃사이드 아트 (Outsider Art)

アメリカ: アウトサイダー・アート

프랑스

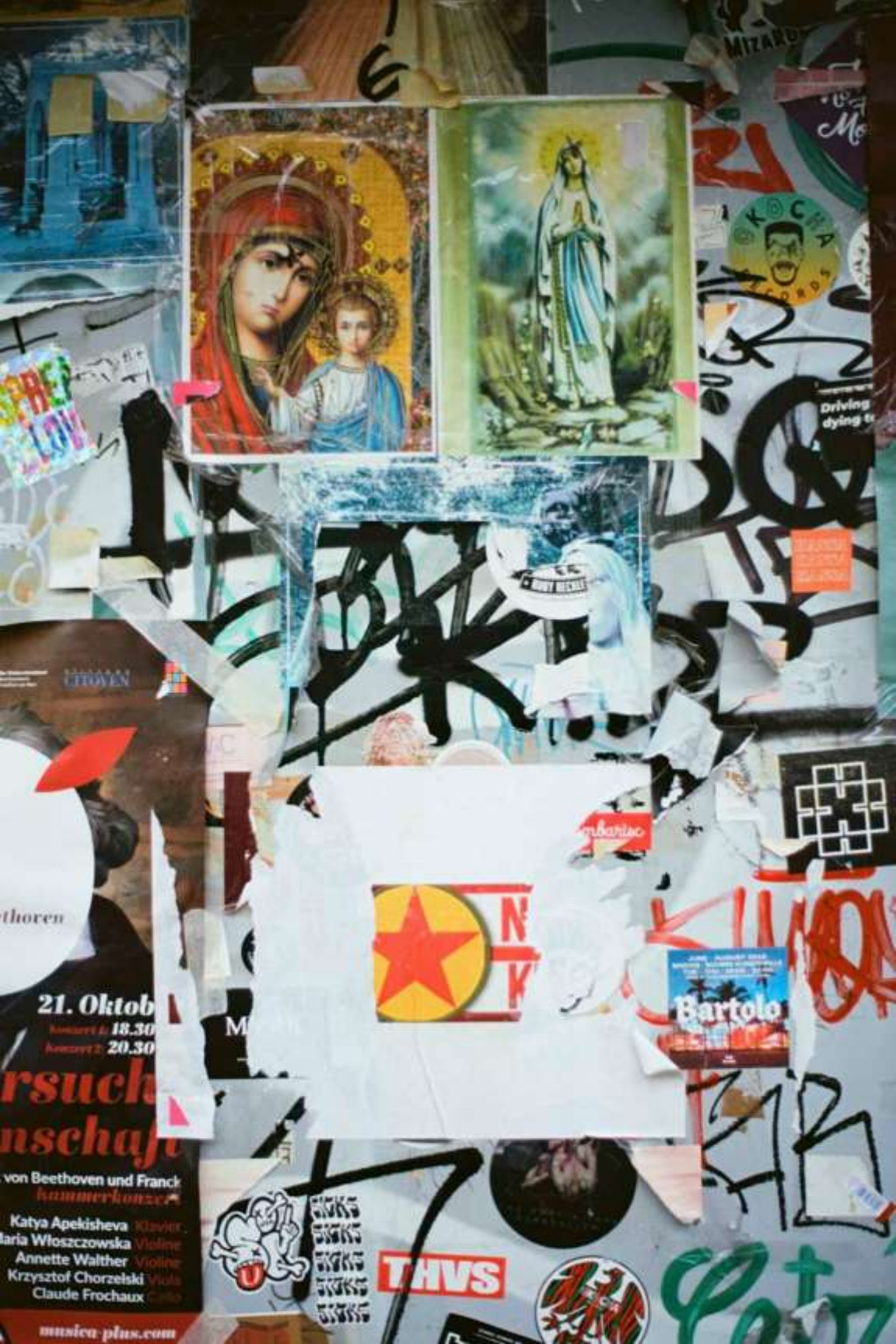
아르 브뤼 (Art Brut)

フランス: アール・ブリュット

영국

포용적 예술 (Inclusive Arts)

イギリス: インクルーシブ・アーツ



⑥ 발달장애 문화예술교육의 한계

⑥ 発達障害者の文化芸術教育の限界

발달장애인은 사회적 소통에 어려움이 있으며, 주변 환경과 관계의 질이 주체적 활동에 큰 영향을 미칩니다.

発達障害者は社会的コミュニケーションに困難があり、周囲の環境と関係の質が主体的活動に大きな影響を与えます。

ⓧ 주요 과제

主な課題

현재 연구나 정책 사업이 보편적 장애인을 대상으로 하는 수준에 머물러 있어, 발달장애인의 고유한 표현방식과 소통방식을 이해하고 그에 맞는 맞춤형 문화예술교육 프로그램 개발이 시급합니다.

現在の研究や政策事業は、一般的な障害者を対象とするレベルにとどまっており、発達障害者固有の表現方法とコミュニケーション方法を理解し、それに合ったオーダーメイドの文化芸術教育プログラムの開発が急務です。



4. 발달장애 예술 활동

4. 発達障害者の芸術活動

발달장애인의 예술 활동은 취미 활동부터 직업 활동까지 다양하게 나타납니다.

発達障害者の芸術活動は、趣味活動から職業活動まで多様に現れます。

취미로 하는 예술 활동

趣味としての芸術活動

여가스포츠, 문화예술향유, 문화예술숙련 등 다양한 분야에서 활동합니다.

レジャースポーツ、文化芸術享受、文化芸術熟練など、多様な分野で活動します。

- 미술, 노래, 공예, 사진 교실
- 문화예술관람, 영화감상
- 美術、歌、工芸、写真教室
- 文化芸術鑑賞、映画鑑賞



직업 예술인으로서의 활동

職業芸術家としての活動

정부는 장애예술인의 자립 기반 조성을 위해 창작 지원을 강화하고 공공 및 민간 영역에서 일자리를 확대하는 정책을 추진하고 있습니다.

政府は障害芸術家の自立基盤を造成するため、創作支援を強化し、公共及び民間領域で雇用を拡大する政策を推進しています。

창작지원 강화 創作支援の強化

공모사업 지원 확대 (2026년 200억 원 목표), 창작준비금 지원 확대, 온라인 유통 플랫폼 구축 등을 통해 창작 활동을 지원합니다.

公募事業支援の拡大（2026年200億ウォン目標）、創作準備金支援の拡大、オンライン流通プラットフォームの構築などを通じて創作活動を支援します。

일자리 기반 조성 雇用基盤の造成

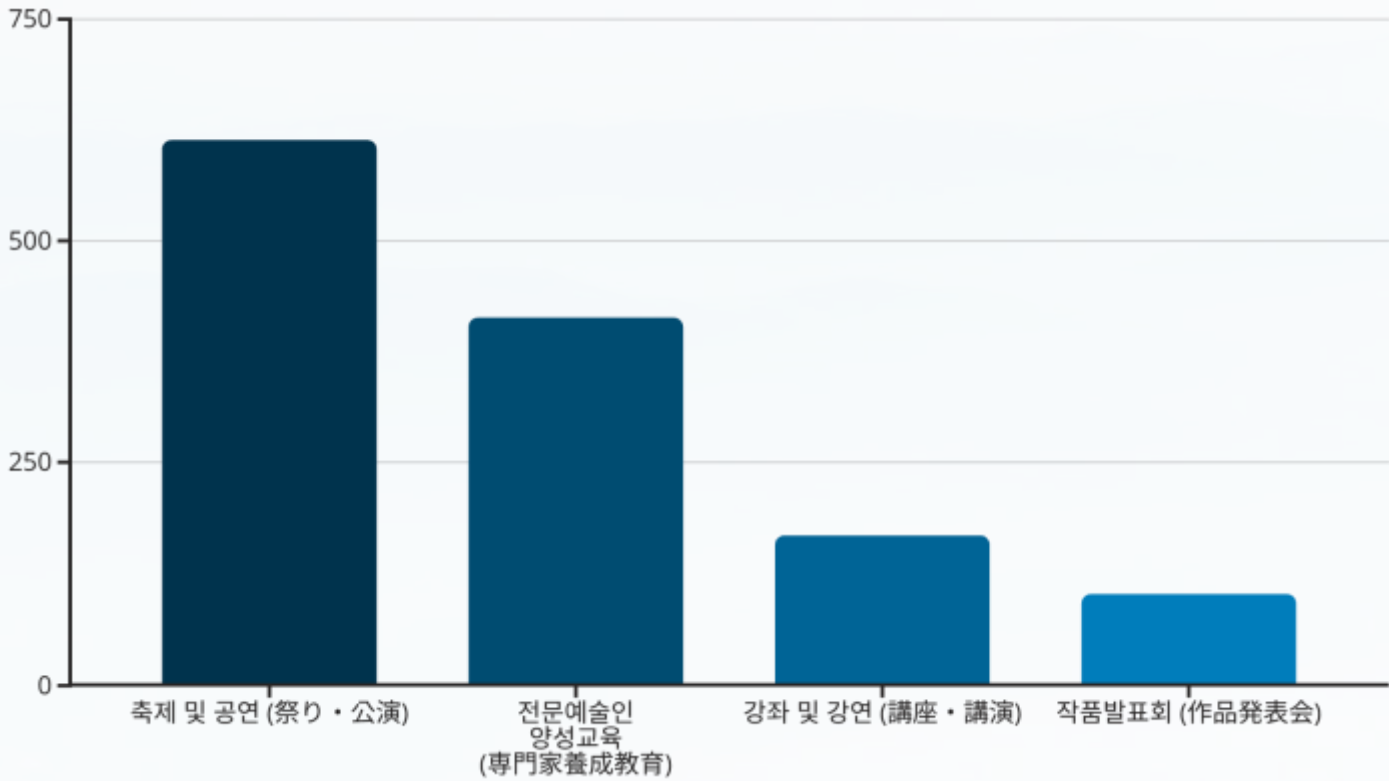
공공기관 연계 일자리 창출, 장애예술인기업 창업 지원, 맞춤형 훈련과정 개발 등을 통해 안정적인 직업 활동을 돕습니다.
公共機関連携の雇用創出、障害芸術家企業の創業支援、オーダーメイドの訓練課程開発などを通じて、安定した職業活動を支援します。

장애예술인 및 예술단체 활동 실적 (최근 3년)

障害芸術家及び芸術団体の活動実績（過去3年間）

최근 3년간 장애예술인 및 단체의 활동은 축제 및 공연이 가장 활발했으며 , 전문 인력 양성을 위한 교육 활동도 중요한 비중을 차지했습니다.

過去3年間、障害芸術家及び団体の活動は、祭りや公演が最も活発であり、専門人材養成のための教育活動も重要な割合を占めました。



④ 문화체험형 장애인인식개선 법정교육

④ 文化体験型障害者認識改善法定教育

문화예술을 연계한 체험형 교육은 장애인식개선에 높은 효과를 보이며, 정부와 기업에서 적극적으로 도입하고 있습니다.

文化芸術と連携した体験型教育は、障害者認識改善に高い効果を示し、政府や企業で積極的に導入されています。

추진 효과 ('23년 대비 '24년)

推進効果 ('23年比'24年)

- 교육 기관: 8개소 → 11개소
- 교육 횟수: 199회 → 257회
- 교육 인원: 28,161명 → 36,637명
- 教育機関: 8ヶ所 → 11ヶ所
- 教育回数: 199回 → 257回
- 教育人員: 28,161名 → 36,637名

주요 사례

主な事例

중앙부처(세종정부청사), 대한민국정부박람회, 삼성전자, LG디스플레이 등에서 시각장애인 오케스트라, 발달장애인 앙상을 공연 등을 활용한 교육을 성공적으로 실시했습니다.
中央省庁(世宗政府庁舎)、大韓民国政府博覧会、サムスン電子、LGディスプレイなどで、視覚障害者オーケストラ、発達障害者アンサンブル公演などを活用した教育を成功裏に実施しました。

서울대학교 다양성위원회

장애 인식 개선 주간

“ 세상을 바꾸는 작은 시작, 당신의 마음 ”

2024.09.30 ~ 10.04

서울대학교와 한국장애인고용공단이 9월 12일 '장애 친화적 환경 조성을 통한 다양성 가치 실현'을 목적으로 업무협약을 체결하였습니다. 이에 다양성위원회와 장애인고용공단이 공동으로 다음과 같이 장애 인식 개선 주간 행사를 개최합니다.

09/30 월
PM 3:00 (90분)

발달장애인
창작뮤지컬 **드리머스**



공연팀
극단 라하프

관객사(900동) 가온홀

10/02 수
AM 10:30 (90분)

시각장애인
클래식 콘서트
- 수어 통역 제공 -



공연팀
한빛예술단

관객사(900동) 가온홀

10/04 금
AM 10:00 ~ PM 4:00

장애인식개선홍보,
직업능력평가 부스



사업팀
한국장애인고용공단

자하연 앞

국내 최초 발달장애인 극단 라하프의 창작 뮤지컬 드리머스는 세종문화회관 공연 매진.
2024 대구국제뮤지컬페스티벌 특별초청작입니다.

한빛예술단은 세계 유일의 시각장애인 전문 연주단으로 전원 시각장애인들로 구성되어 있으며 지휘자와 악보 없이 서로 호흡을 맞춰 합주를 펼칩니다.

서울대 모든 구성원의 많은 관심과 참여를 부탁드립니다.

라하프와 한빛예술단 공연 관람 시, 직할 내 장애인 인식개선 교육 이수 인정


참석자
사전 조사

공동주최

서울대학교 다양성위원회
Seoul University Council

한국장애인고용공단

5. 문화예술활동의 효과 (개인적 관점)

5. 文化芸術活動の効果（個人的視点）

문화예술활동은 발달장애인의 삶에 다방면으로 긍정적인 영향을 미칩니다.

文化芸術活動は、発達障害者の人生に多方面で肯定的な影響を与えます。



심리·정서적 측면 心理・情緒的側面

자아존중감 향상, 정서적 안정, 스트레스 감소
自己尊重感の向上、情緒的安定、ストレスの減少



사회성 및 의사소통 社会性及びコミュニケーション

대인관계 기술 향상, 의사소통 능력 증진, 사회적 통합 촉진
対人関係技術の向上、コミュニケーション能力の増進、社会的統合の促進



인지 및 신체적 발달 認知及び身体的発達

집중력 및 문제해결 능력 향상, 감각 통합, 소근육 및 대근육 발달
集中力及び問題解決能力の向上、感覚統合、小筋及び大筋の発達

6. 문화예술활동의 효과 (사회적 관점) – ① 다양성

6. 文化芸術活動の効果（社会的視点） – ① 多様性



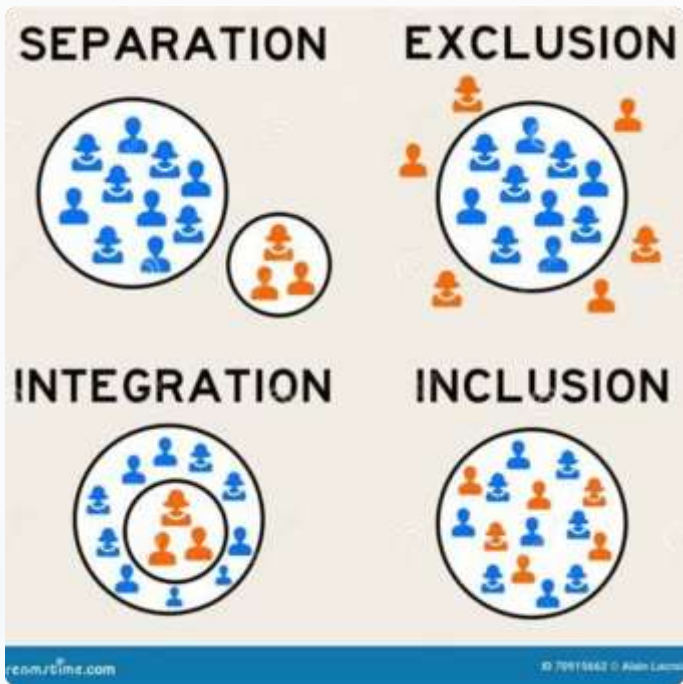
발달장애인의 문화예술활동은 사회에 독창적인 관점과 창의성을 제공하여 문화적 스펙트럼을 확장시킵니다.

発達障害者の文化芸術活動は、社会に独創的な視点と創造性を提供し、文化的スペクトルを拡大させます。

- 다양한 예술적 표현과 시각 제공
- 서로의 다름을 인정하고 존중하는 문화 형성
- 사회 구성원들이 다양성의 가치를 체험하고 내면화할 기회 제공
- 多様な芸術的表現と視点の提供
- 互いの違いを認め、尊重する文化の形成
- 社会の構成員が多様性の価値を体験し、内面化する機会の提供

문화예술활동의 효과 (사회적 관점) - ② 통합과 ③ 포용

文化芸術活動の効果（社会的視点） - ② 統合と ③ 包容



② 통합사회 구현

② 統合社会の実現

문화예술은 장애인과 비장애인이 함께 소통하는 플랫폼을 제공하여 사회적 장벽을 허물고 공동체 의식을 형성합니다. 장애인에 대한 긍정적 인식을 확산시키고, 사회의 일원으로서 그들의 가치를 가시화합니다.

文化芸術は、障害者と非障害者が共にコミュニケーションするプラットフォームを提供し、社会的障壁を取り払い、共同体意識を形成します。障害者に対する肯定的な認識を広め、社会の一員としての彼らの価値を可視化します。



③ 인크루시브(Inclusive) 사회 실현

③ インクルーシブ社会の実現

모든 사람이 차별 없이 참여하는 포용적 문화 환경을 조성합니다. 장애인이 수동적 수혜자가 아닌 능동적 창작자로서 활동하게 함으로써, 장애를 개인의 문제가 아닌 사회적 환경의 문제로 보는 '사회적 모델'을 실천합니다.

すべての人が差別なく参加する包容的な文化環境を造成します。障害者が受動的な受益者ではなく、能動的な創作者として活動させることにより、障害を個人の問題ではなく社会環境の問題と見る「社会的モデル」を実践します。

7. 제언 및 향후 과제

7. 提言及び今後の課題

발달장애인의 의미 있는 문화예술 활동을 위해 지속적인 정책적 노력이 필요합니다.

発達障害者の意味ある文化芸術活動のため、持続的な政策的努力が必要です。

	제도 및 시설 확충 장애예술교육을 위한 전반적인 제도, 시설, 지원 확대 制度及び施設の拡充
	전문가 양성 발달장애인 맞춤 교육 및 예술활동을 위한 전문가 양성 専門家の養成
	국민 인식 개선 장애 예술에 대한 국민적 인식 개선 캠페인 필요 国民の認識改善
	안정적 지원 확대 안정적 창작 활동을 위한 공간 및 재정 지원 확대 安定的支援の拡大

감사합니다!

발달장애인의 문화예술 활동을 통해 더 포용적이고 풍요로운 사회를 만들어 나갑시다.

発達障害者の文化芸術活動を通じて、より包容力があり豊かな社会を築いていきましょう。

話題 2 주제 2

知的障害者の芸術文化活動が美術館と学びを変える：
「教育」からエンゲージメントへ

지적장애인의 예술문화활동이 미술관과 배움을 바꾸다:「교육」에서
참여로

「知的障害者の文化芸術と生涯学習」学術シンポジウム 1

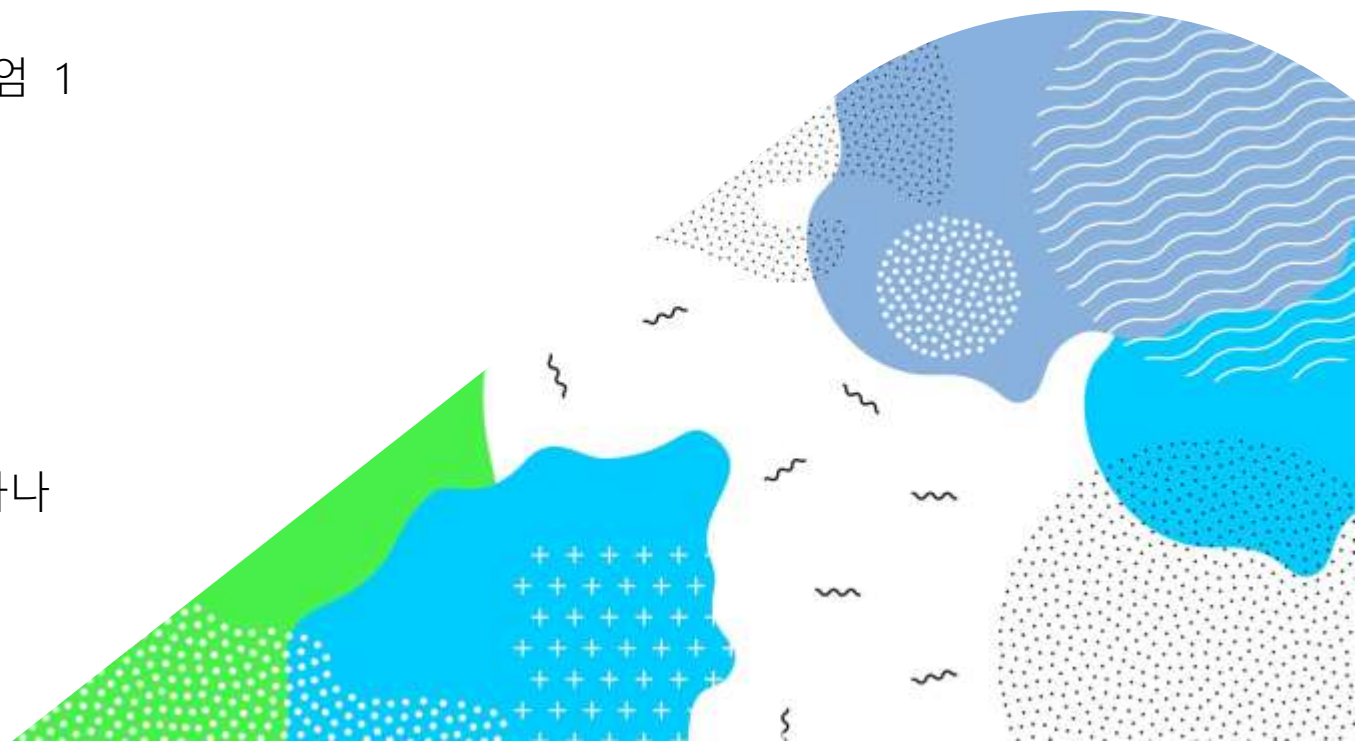
「지적장애인의 문화예술과 평생학습」학술 심포지엄 1

会場 神戸大学百年記念館六甲ホール

장소 고베대학 백년기념관 롯코홀

2025年 9月15日 鎌倉女子大学 久保内加菜

2025년 9월 15일 가마쿠라여자대학 쿠보우치 카나



話題 2 주제 2

知的障害者の芸術文化活動が美術館と学びを変える：
「教育」からエンゲージメントへ

지적장애인의 예술문화활동이 미술관과 배움을 바꾸다:「교육」에서 참여로

1. はじめに：日韓芸術祭の感想と自己紹介を含めて
서문: 한일예술제 소감과 자기소개를 포함하여
2. 日本において知的障害者の芸術文化活動が美術館に与えた影響
일본에서 지적장애인의 예술문화 활동이 미술관에 미친 영향
3. 知的障害者の芸術文化活動が「エンゲージメント」を進める
지적 장애인의 예술 문화 활동이 '참여'를 촉진한다
4. おわりに：芸術文化活動を連携して豊かにしていくために
결론적으로: 참여를 통해 예술 및 문화 활동을 풍요롭게 하기 위하여

1 .

はじめに：日韓芸術祭の感想と自己紹介を含めて
서문: 한일예술제 소감과 자기소개를 포함하여 서문:
한일 예술제 소감과 자기소개

- 鎌倉女子大学（神奈川県鎌倉市の私立大学）で学校教員や博物館学芸員の養成課程の授業を担当しています。
가마쿠라 여자대학(가나가와현 가마쿠라시의 사립대학)에서 학교 교원 및 박물관 학예원 양성 과정의 수업을 담당하고 있습니다.
- 博物館・美術館の制度や教育事業、青少年の文化芸術活動を豊かにするための調査研究を続けています。
박물관·미술관의 제도와 교육 사업, 청소년의 문화 예술 활동을 풍요롭게 하기 위한 조사 연구를 계속하고 있습니다.
- 知的障害のあるきょうだい（兄）がいます。
지적 장애가 있는 형제가 있습니다.
- 韓国のアートシーンに関心があります。
よろしくお願いいたします！
한국의 아트씬에 관심이 있습니다. 잘 부탁드립니다!

参考：日本の「美術館」について 참고: 일본의 「미술관」에 대해

- 「美術館」は「博物館」の種類の一つです。
- 図書館や体育館などとともに社会教育施設として定義されています。
- 公立美術館は原則的に都道府県や市町村の教育委員会の管轄に置かれます。
- 国の動向では、文部科学省の外局にあたる文化庁（京都市）が博物館行政を担当することになり、2022年の博物館法の改正によってより幅広い種類・設置者の博物館が登録・認可されることとなりました。

- 「미술관」은 「박물관」의 한 종류입니다.
- 도서관이나 체육관 등과 함께 사회교육시설로 정의됩니다.
- 공립미술관은 원칙적으로 도도부현이나 시정촌의 교육위원회의 관할에 놓입니다.
- 국가 동향으로는 문부과학성의 외국에 해당하는 문화청(교토시)이 박물관 행정을 담당하게 되었으며, 2022년 박물관법 개정에 따라 더 다양한 종류와 설치자의 박물관이 등록·인가되게 되었습니다.

2 .

日本において知的障害者の芸術文化
活動が美術館に与えた影響

일본에서 지적장애인의 예술문화
활동이 미술관에 미친 영향

2 (1) 障害者が制作した「作品」の発見：山下清 지적 장애인이 창조한 '예술 작품' 발견하기: 야마시타 기요시.

- 福祉施設で育った山下清 (1922-1971) は放浪の天才画家、「日本のゴッホ」と呼ばれる。1958年に放浪記が映画化される。
야마시타 키요시(1922-1971)는 복지 시설에서 자란 방랑의 천재 화가로, '일본의 고흐'라 불린다. 1958년 방랑기가 영화화된다.
- 主な手法は色紙をちぎる「貼絵」や紙皿の「皿絵」、フェルトペンで描く「ペン画」。
주요 기법은 색종이를 찢어 붙이는 '붙임 그림'이나 종이 접시의 '접시 그림', 펠트펜으로 그리는 '펜 그림'이다.



「長岡の花火」出典：artwiki（花田美術）「山下清」
「나가오카의 불꽃놀이」
출처: artwiki(하나다 미술) 「야마시타 기요시」

2 (2) 山下清はなぜ芸術家として評価され、愛されたか 야마시타 키요시는 왜 예술가로서 평가받고 사랑받았는가

- 1937年に早稲田大学で開かれた児童画の展覧会で美術や文芸の作家、また医師に絶賛された。
→学術的、社会的に高く評価された。
1937년 와세다 대학에서 열린 어린이 그림 전시회에서 그는 화가, 소설가, 의사들로부터 높은 평가를 받았다.
→ 그는 학계와 사회에서 높은 인정을 받았다.
- 素朴な手法の具象絵画で親しまれた。
소박한 기법의 구상화로 사랑받았다.
- 大正期・敗戦後に「自由」や「自然」を求める機運があった。例：自由画、白樺派
다이쇼 시대와 패전 후에는 '자유'와 '자연'을 추구하는 기운이 있었다. 예: 자유화, 백화파



「戒橋にたたずむ山下清」
出典：ウィキペディア「山下清」
「에비스 다리에 서 있는 야마시타 키요시」
출처: 위키백과 「야마시타 키요시」

参考：小説家・武者小路實篤による「ゴッホ」評価

참고: 소설가 무샤코지 미츠아츠의 「고흐」 평가

バン・ゴッホよ

燃えるごとき意力をもった汝よ

汝を思う度に我に力わく

ゆきつくす處までゆく力わく

ああ

ゆきつくす處までゆく力わく

満75歳誕生日 實篤

(1911年の雑誌『白樺』に掲載)

반 고흐.

오, 불타는 의지를 지닌 그대여!

그대를 생각할 때마다 나는 더욱 강해진다

길의 끝까지 갈 힘이 생겨난다.

오, 그렇다.

내 여정의 끝까지 갈 힘이 생겨난다

사네아쓰 75세 생일

(1911년 시라카바 잡지에 게재)

2 (3) 「障害者アート」の国公立の美術館への波及 “장애인 예술”의 국립 및 공공 미술관으로의 확산

- 1958年に東京国立博物館でゴッホ展が開かれる。
武者小路實篤や精神科医・式場隆三郎も関わる。
1958년 도쿄국립박물관에서 고흐전이 열린다.
무샤코지 미츠아츠와 정신과 의사 시키바
다카사부로도 참여한다.
- 1986年に世田谷美術館（東京都世田谷区）が特別
展で「アール・ブリュット」を紹介する。
1986년 세타가야미술관(도쿄도 세타가야구)이
특별전에서 '아르 브뤼'를 소개한다.
- 2016年より滋賀県立美術館（滋賀県大津市）の収
集方針に「アール・ブリュット」が入る。
2016년부터 시가현립미술관(시가현 오쓰시)의
수집 방침에 '아르 브뤼'가 포함된다.



図録「フィンセント・ファン・ゴッホ展」
1958年 出典：「日本の古本屋」Webサイト
도록「빈센트 반 고흐 전」
1958년 출처: 「일본의 고서점」 웹사이트

2 (4) 福祉分野における「障害者アート」の広がり 복지 분야에서의 '장애인 예술'의 확산

- 2005年成立の障害者総合支援法で、市町村の地域生活支援事業に創作的活動の提供が含まれる。2005년 제정된 장애인종합지원법에 따라 시·군·구의 지역생활지원사업에 창작활동 제공이 포함된다.
- 2007年に障害者の作品売買の権利処理を行う「エイブルアート・カンパニー」が創設される。2007년 장애인 작품 매매 권리 처리를 담당하는 '에이블아트 컴퍼니'가 설립된다.
- 一般財団法人たんぽぽの家（奈良県奈良市）、しょうぶ学園（鹿児島県鹿児島市）などが展開。일반재단법인 민들레의 집(나라현 나라시), 창포학원(가고시마현 가고시마시) 등 전국적으로 운영된다.



画像提供：アトリエそらのいろ（神奈川県鎌倉市）
이미지 제공: 아뜰리에 소라노이로(가나가와현 가마쿠라시)

3.

知的障害者の芸術文化活動が「エンゲージメント」を進める

지적 장애인의 예술 문화 활동이
'참여'를 촉진한다



画像提供：アトリエそらのいろ
이미지 제공: 아틀리에 소라노이로

3 (1) 美術館における 「教育」の限界 미술관에서 '교육'의 한계

- 「障害者アート」などの多様で魅力的なアーティストや団体が増え、「正統な美術・専門家」による「大衆の教育」という枠組みが成り立たなくなった。「장애인 아트」등 다양하고 매력적인 아티스트와 단체가 증가하면서 「정통 미술·전문가」에 의한 「대중 교육」이라는 틀이 성립되지 않게 되었다.
- 教育プログラムと普及事業（アウトリーチ）の他に、地域の様々な団体との対話により築かれる、長期的な「エンゲージメント」が模索されている。교육 프로그램과 보급 사업(아웃리치) 외에도 지역 내 다양한 단체와의 대화를 통해 구축되는 장기적인 「참여(엔게이지먼트)」가 모색되고 있다.
- 音楽や演劇の要素があるパフォーマンスやデジタルアートも含める必要がある。음악이나 연극의 요소가 있는 퍼포먼스와 디지털 아트도 포함할 필요가 있다.

3 (2) イギリスにおける「エンゲージメント」の模索 영국에서의 '참여' 추구

- 博物館協会 (2020) 「博物館の学びと連携のためのマニフェスト」、アーツカウンシル・イングランド (2006) 「芸術へのパブリック・エンゲージメント」が公表される。
박물관 협회(2020)는 「박물관에서의 학습과 협력에 관한 선언문」을 발표했으며, 잉글랜드 예술 위원회(2006)는 「예술과의 공공 참여」를 발간했다.
- 文化へのアクセスの権利、地域の団体との連携、アクティビズムなどが模索される。
문화 접근권, 지역 단체와의 협력, 그리고 활동주의가 탐구되고 있다.





Mark Robinson, *An Introduction to the Learning from Creative People and Places: 10 years of learning from creative people and place*, London: ACE, 2022

3 (3) アーツカウンシル・イングランドの事例 영국 예술 위원회 사례 연구

助成金プログラム「創造的な人々と場所」は、地域の芸術活動の醸成のために活動を支援する。社会から疎外された団体に耳を傾け、長期的な協力関係を築く目的。창의적인 사람과 장소 지원 프로그램은 지역 예술 참여를 촉진하는 활동을 지원합니다. 이 프로그램의 목적은 소외된 집단의 목소리를 경청하고 장기적인 협력 관계를 구축하는 데 있습니다.

2012年に開始。2026–2029年度はイングランドの142地域が対象。

2012년에 시작되었습니다. 2026–2029 회계연도 기준, 잉글랜드 전역 142개 지역을 대상으로 합니다.

GOAL

2

STRENGTHEN COMMUNITY ENGAGEMENT

Museums, libraries, and archives are places where people come together. They are where people learn about themselves in a culture inspired by nature, and where they find support. These institutions support these experiences and members and experiences of education.

Institute of Museum and Library Services,
FY 2022–2026 STRATEGIC PLAN, 2022

3 (4) アメリカ博物館・図書館 サービス機構 (IMLS) の計画例 박물관 및 도서관 서비스 연구소(IMLS)의 계획 사례

- 2024–2026年度の計画の目標2に、地域社会との連携の強化が掲げられた。
2024–2026년 계획의 목표 2는 지역 사회와의 협력 강화입니다.
- 目標2-1は多様な観衆の包摂と、インクルージョンをめぐる対話の強化。
목표 2-1은 다양한 관객의 포용과 포용성 관련 대화의 강화입니다.
- 目標2-2は地域社会の対話を育み、博物館への市民参加や地域団体との連携を支援する。
목표 2-2는 지역 사회 내 대화를 촉진하고, 박물관에서의 시민 참여 및 지역 단체와의 협력을 지원하는 것입니다.

3 のまとめ 「教育」からエンゲージメントへ

요약 3: "교육"에서 참여로

- 市民参加と、地域の多様な団体との連携のため、積極的行動と対話が進む。시민들과 적극적으로 소통하고 다양한 지역 단체들과 협력하기 위해서는 선제적인 행동과 대화가 필요합니다.
- 長期的な連携と支援（助成金）が計画・評価される。장기적인 참여 및 지원(보조금)은 계획되고 평가됩니다.
- 欧米の美術館の「教育部」は、名称が「学習・連携部」に変わってきている！서양 박물관의 "교육부"는 점점 더 "학습 및 참여부"로 명칭이 변경되고 있습니다!

4 .

**おわりに：芸術文化活動を連
携して豊かにしていくために**
결론적으로: 참여를 통해 예술
및 문화 활동을 풍요롭게 하기
위하여

4 (1) 芸術文化活動の展望：美術館ができること 예술 및 문화 활동의 전망: 미술관이 할 수 있는 일

- 美術館と活動グループ、施設とのエンゲージメントを強化する。
미술관, 활동 그룹 및 시설 간의 연계 강화.
- 絵画 (平面) 以外のスタイルも柔軟に取り入れ、展開する。
회화(2차원 미술)를 넘어선 다양한 스타일을 유연하게 도입하고
발전시키기.
- 特別支援学校高等部における窯業、織物等の作業学習を活かす。
특수학교 고등부에서의 도예, 직물 등 작업 학습 활용.

4 (2) エンゲージメントのための課題 참여를 위한 과제

- 長期的な活動のために収益事業を取り入れる必要があるが、美術館の非営利性とのジレンマが生じる。
장기 운영을 위한 수익 창출 활동의 필요성은 박물관의 비영리 지위와 딜레마를 초래합니다.
- パフォーマンスやデジタルアートなどの多様な形態・組織の芸術文化活動を、どのように支援できるか。
공연과 디지털 아트 등 다양한 형태의 예술·문화 활동과 조직을 어떻게 지원할 수 있을까요?
- 「障害者アート」を扱う美術館を、博物館法で指定される博物館にできるか。
'장애 예술'을 다루는 박물관이 박물관법에 따른 박물관으로 지정될 수 있을까요?



ありがとうございました！
정말 감사합니다!

画像提供：アトリエそらのいろ

이미지 제공: 아틀리에 소라노이로

한국의 발달장애인 평생교육 현황과 과제

韓国における発達障害者の生涯教育の現状と課題

- 충청남도천안교육지원청(忠清南道天安教育支援庁)
- 특수교사 김미진(特別支援学校教員, キム・ミジン)

목차(目次)

1. 발달장애인 평생교육의 필요성 発達障害者の生涯教育の必要性
2. 연구 문제 研究課題
3. 연구 방법 研究方法
4. 연구 결과: 법률 및 정책, 현황, 선행연구 분석
研究結果：法律および政策、現状、先行研究の分析
5. 결론: 요약 및 과제 제안 結論：要約および課題提案

I

발달장애인 평생교육의 필요성

発達障害者の生涯教育の必要性

1

시대적 배경 時代的背景

○ 4차 산업혁명, 인공지능 등 신기술 혁신이 급속하게 발전하고 있는 시대

- 일, 학습 및 삶에 대한 통합이 지속적으로 요구되는 세상에 살고 있음

-> 삶의 질 개선과 삶에 필요한 다양한 능력 및 역량 개발을 위해 생애에 걸친
지속적인 학습을 해야 함 => 평생교육의 역할 중요

○ 第4次産業革命、人工知能などの新技術革新が急速に発展している時代

- 仕事、学習および生活に対する統合が持続的に求められる社会に生きている

→ 生活の質の向上と、生活に必要な多様な能力および力量開発のために、生涯にわたり継続的に
学習する必要がある ⇒ 生涯教育の役割が重要

2

평생교육 生涯教育

○ 평생교육의 정의(「평생교육법」 제2조) 生涯教育の定義（「生涯教育法」第2条）

- 평생교육이란 학교의 정규교육 과정을 제외한 학력보완교육, 성인문자해독, 직업능력 향상 교육, 인문교양교육, 문화예술교육, 시민참여교육 등을 포함하는 모든 형태의 조직적인 교육 활동
- 生涯教育とは、学校の正規教育課程を除いた学力補完教育、成人識字教育、職業能力向上教育、人文教養教育、文化芸術教育、市民参加教育などを含む、あらゆる形態の組織的な教育活動を指す。

2

평생교육 生涯教育

- 이념적 성격: 모든 이를 대상으로 일생에 걸친 학습이 가능하도록 국가적인 차원에서 기존의 교육체제를 개편
- 생애 범주 차원: '요람에서 무덤까지' 지속해서 이루어지는 모든 형식적·비형식적 학습활동 포함 => 행복한 삶, 질적으로 향상된 삶 추구
- 理念的 성격: すべての人を対象に、生涯にわたる学習が可能となるよう、国家的な次元で既存の教育体制を改編。
- 生涯範圍の次元: 『揺りかごから墓場まで』持続的に行われるあらゆる形式的・非形式的学習活動を含む => 幸福な生活、質的に向上した生活を追求。

○ 평생교육(UNESCO, 2015) 生涯教育 (UNESCO, 2015)

- 모든 사람이 평생교육을 통해 포용적이고 지속 가능한 사회에 기여할 수 있어야 함

☞ 장애인 평생교육 역시 이와 같은 철학에 기반하여 실행될 것을 제안함

- すべての人が生涯教育を通じて、包摂的で持続可能な社会に貢献できなければならない。

☞ 障害者の生涯教育もまた、このような哲学に基づいて実行されるべきであることを提案。

3

장애인과 평생교육 障害者と生涯教育

○ 2024년 기준 한국의 등록 장애인은 약 265만 명(전체 인구의 약 5.1%)

2024年基準、韓国の登録障害者は約265万人（全人口の約5.1%）

- 이 중 성인 장애인 96.6%

このうち成人障害者は96.6%

○ 장애인 평생교육(국립특수교육원, 2024) 障害者生涯教育(国立特殊教育院, 2024)

- 의미: 생애 전반에 걸쳐 잠재력 실현 및 사회 통합을 위해 이루어지는 교육 활동

意味：生涯全般にわたり潜在力の実現および社会統合のために行われる教育活動

- 범위: 직업적 성장과 사회적 참여를 포함 範囲：職業的成長と社会的参加を含む

- 역할: 교육을 통해 사회적 장벽 극복, 평등한 기회 보장

役割：教育を通じて社会的障壁を克服し、平等な機会を保障

⇒ 다양한 학습 기회를 통해 삶의 질 향상과 사회적 통합 증진

⇒ 多様な学習機会を通じて、生活の質の向上と社会的統合を促進

4

평생교육의 필요성: 장애인 生涯教育の必要性：障害者

○ 장애인 평생교육의 필요성 障害者生涯教育の必要性

- 다수의 장애인이 기본학력 부족 및 생활중심 교육이 불충분한 상태로 성인기로 전환 -> 지역사회 자립을 위해서는 생애주기에 따른 지속적, 특별한 교육적 지원 요구(정연수, 2017)
- 多くの障害者が基礎学力の不足や生活中心の教育が不十分な状態で成人期に移行
→ 地域社会での自立のためには、ライフサイクルに応じた持続的かつ特別な教育的支援が必要である(鄭然洙, 2017)

○ 発達障害者生涯教育の必要性

- 持続的な教育的支援が提供されない場合、それまで培った社会的スキルや自立生活に必要な機能が失われる危険がある
→ 義務教育以降の生涯教育の必要性（李漢雨・廉東文, 2024）
- 成人期への円滑な移行が困難であり、高校卒業後に社会から孤立する危険性が高い（奇成妍・張東烈, 2017).

実際、発達障害を持つ学生の就業率や進学率は、特別支援教育対象者全体の平均と同程度、またはそれ以下の水準である（キム・ジヨン、ハン・グンシク、ユン・ジョンウク, 2024).

→ 進学・就業における排除、自立の機会喪失などにより、発達障害者にとって生涯教育はさらに必要
（徐洪蘭・鄭昭娟, 2025）

- 発達障害者の社会適応および自己開発のために、生涯教育の必要性を強調（韓俊相, 2001）

6

장애인 평생교육 실제 障害者生涯教育の実際

- 生涯教育の現場において、障害者と非障害者の間の教育格差および不平等が持続している

全国5,367の生涯教育機関のうち、障害者が参加可能な機関は1%未満
(国家障害者生涯教育振興センター, 2023)

→ 障害者全体の0.13%のみが生涯教育に参加（保健社会研究院, 2023）

=> 教育の不平等による就労など社会参加における不平等が、障害当事者の生活に及ぼす影響を考慮すると、障害者生涯教育を強化するための特別な対策が必要である

II

연구 문제

研究課題

- 한국의 발달장애인 평생교육 관련 법과 정책의 주요 내용은 무엇인가?
韓国の発達障害者生涯教育に関する法律と政策の主な内容は何か?
- 한국의 발달장애인 평생교육 관련 운영 현황은 어떠한가?
韓国の発達障害者生涯教育に関する運営の現況はどうか?
- 한국의 발달장애인 평생교육 관련 선행 연구에서 드러난 현황은 어떠한가?
韓国の発達障害者生涯教育に関する先行研究において示された現況はどうか?
- 한국의 발달장애인 평생교육 운영 개선을 위한 과제는 무엇인가?
韓国の発達障害者生涯教育運営の改善のための課題は何か?

Ⅲ

연구 방법 研究方法

○ 문헌 분석: 법률·정부 정책자료, 선행 연구자료 등 검토·분석

- 법률 法律

文献分析：法令・政府政策資料、先行研究資料などの検討・分析

- ▶ 장애인정책의 기본 틀 제공하는 법: 「장애인복지법」, 「장애인차별금지 및 권리구제 등에 관한 법률」

障害者政策の基本的な枠組みを提供する法律：『障害者福祉法』、『障害者差別禁止及び権利救済等に関する法律』

- ▶ 평생교육 관련 법: 「평생교육법」, 「발달장애인 권리보장 및 지원에 관한 법률」

生涯教育関連法：『生涯教育法』、『発達障害者の権利保障及び支援に関する法律』

- ▶ 고등교육 관련 법: 「고등교육법」, 「장애인 등에 대한 특수교육법」

高等教育関連法：『高等教育法』、『障害者等に対する特殊教育法』

- ▶ 부수연계 법령: 「지방자치법」, 「교육기본법」, 「문화예술교육지원법」, 「직업교육훈련촉진법」

連携法令：『地方自治法』、『教育基本法』、『文化芸術教育支援法』、『職業教育訓練促進法』

Ⅲ

연구 방법 研究方法

○ 문헌 분석 文献分析

2. 정부 부처 정책자료 政府部処の政策資料

- ▶ 제6차 장애인정책종합계획(2023~2027)(관계부처 합동, 2023. 3.)
- ▶ 제6차 특수교육발전 5개년 계획(2023~2027)(교육부, 2022. 12.)
- 第6次障害者政策総合計画(2023～2027)(関係部処合同, 2023年3月)
- 第6次特殊教育発展5カ年計画(2023～2027)(教育部, 2022年12月)

Ⅲ

연구 방법 研究方法

○ 문헌 분석 文献分析

3. 연구 및 조사자료 研究および調査資料

- ▶ 교육부 국립특수교육원 국가장애인평생교육진흥센터 발간 자료: 2024 장애인 평생교육 현황조사 통계 자료집(2024), 장애인 평생학습도시 운영 활성화 방안 연구(2023), 2022년 장애유형별 평생교육 프로그램 개발(2022), 발달장애인 평생교육과정·프로그램 운영 사례집 발간 연구(2021), 발달장애인 평생교육과정(2019) 등 총 21건
- ▶ 2024~2025년 발표된 논문 총 13편(발달장애인 평생교육 관련 10편, 장애인 평생교육 관련 3편)
- ▶ 教育部 国立特殊教育院 国家障害者生涯教育振興センター発刊資料: 2024 障害者生涯教育現況調査統計資料集(2024)、『障害者生涯学習都市運営活性化方案研究』(2023)、『2022年 障害類型別生涯教育プログラム開発』、『発達障害者生涯教育課程・プログラム運営事例集発刊研究』(2021)、『発達障害者生涯教育課程』(2019) など計21件
- ▶ 2024~2025年に発表された論文 計13編 (発達障害者生涯教育関連10編、障害者生涯教育関連3編)

IV

연구 결과 研究結果

1

발달장애인 평생교육 관련 법률

1 発達障害者の生涯教育に関する法令

- 평생교육 관련 기본 법률 生涯教育に関連する基本法令
 - ▶ 「헌법」, 「교육기본법」 『憲法』、『教育基本法』

조문	원문 요약	해설
「헌법」 제31조	- 모든 국민은 능력에 따라 균등하게 교육받을 권리 - 국가는 평생교육을 진흥하여야 함	国家は生涯教育を振興しなければならない
「교육기본법」 제3조 (학습권) 및 제4조 (교육의 기회균등 등)	- 모든 국민은 평생에 걸쳐 학습하고 능력과 적성에 따라 교육받을 권리 - 모든 국민은 성별, 종교, 신념, 인종, 사회적 신분, 경제적 지위 또는 신체적 조건 등을 이유로 교육에서 차별받지 아니함	평생교육의 헌법적·법률적 근거 조항. 全ての国民は生涯にわたり学習し、能力と適性に応じ

すべての国民は生涯にわたり学習し、
て教育を受ける権利を有する

▶ 「장애인차별금지 및 권리구제 등에 관한 법률」 「障害者差別禁止および権利救済等に関する法律」

조문	원문 요약	해설
제13조(차별금지)	- 교육책임자는 장애인의 입학 지원 및 입학을 거부할 수 없고 교육기관의 장은 「장애인 등에 대한 특수교육법」 제17조(특수교육대상자 배치 및 교육)를 준수하여야 함 - 교육책임자는 장애를 이유로 교내외 활동에서 참여를 제한, 배제, 거부하여서는 안됨	대학·평생교육시설에서 장애인의 교육 접근권 보장
제14조(정당한 편의제공 의무)	- 교육책임자는 장애인의 교육활동에 불이익이 없도록 각종 이동용 보장구의 대여 및 수리, 교육보조인력 배치, 보조공학기기 대여, 정보접근 지원 등 적극적으로 강구·제공	장애인 교육활동을 위한 편의 제공의 근거

条文	原文要約	解説
第13条 (差別禁止)	- 教育責任者は障害者の入学支援および入学を拒否してはならず、教育機関の長は「障害者等に対する特別教育法」第17条（特別教育対象者の配置および教育）を遵守しなければならない - 教育責任者は障害を理由に校内外の活動において参加を制限・排除・拒否してはならない	大学・生涯教育施設における障害者の教育アクセス権の保障
第14条 (合理的配慮提供の義務)	- 教育責任者は障害者の教育活動に不利益がないよう、各種移動用補助具の貸与および修理、教育補助人員の配置、補助工学機器の貸与、情報アクセス支援などを積極的に提供しなければならない	障害者の教育活動のための合理的配慮提供の根拠

- 평생교육 관련 핵심 법률 生涯教育に関する核心法令

▶ 「평생교육법」『生涯教育法』

조문 条文	원문 요약 原文要約	해설 解説
제5조(국가와 지방자치 단체의 임무) 第5条 (国家および地方自治団体の義務)	- 모든 국민에게 평생교육 기회 부여되도록 평생교육 진흥정책과 평생교육사업 수립·추진 - 장애인 평생교육 정책 수립·시행 및 체계적·지속적 실시를 위한 유기적인 협조체제 구축	모든 국민의 평생교육권 보장을 위한 국가와 지방자치 단체의 임무 규정 및 장애인 평생교육의 근거
제19조의2(국가장애인 평생교육진흥센터) 第19条の2 (国家障害者生涯教育振興センター)	- 국가는 장애인의 평생교육진흥에 관한 업무* 지원을 위해 국가장애인평생교육진흥센터를 둬 * 평생교육진흥을 위한 지원 및 조사, 장애유형별 평생교육프로그램 개발 지원 및 평생교육 교재·교구 개발·보급, 발달장애인의 평생교육과정 개발, 발달장애인의 의사소통 도구 개발·보급, 기관 간 연계 체제 구축, 장애인 평생교육 종사자 양성·교육 등	국가 차원의 장애인 평생교육 정책 기획, 연구, 자료 개발, 종사자 양성 등 지원 근거
제20조의2(장애인평생 교육시설 등의 설치) 第20条の2 (障害者生涯教育施設等の設置)	- 국가지방자치단체 및 시·도교육감은 장애인 대상 평생교육프로그램 운영과 기회 제공을 위해 장애인 평생교육시설을 설치 또는 운영·지정 - 위 외의 자가 설치하고자 하는 때에는 시설과 설비 갖추어 교육감에게 등록	장애인평생교육시설 설치·운영의 법적 근거

- **すべての国民**に生涯教育の機会が与えられるよう、生涯教育振興政策および生涯教育事業を樹立・推進
 - **障害者生涯教育政策の樹立・施行**および体系的・持続的実施のための**有機的協力体制の構築**

- **国家**は障害者の生涯教育振興に関する業務を支援するため、**国家障害者生涯教育振興センター**を設置

- **国家・地方自治団体**および**市・道教育庁**は、障害者対象の生涯教育プログラム運営および機会提供のため、**障害者生涯教育施設**を設置または運営指定

▶ 「발달장애인 권리보장 및 지원에 관한 법률」 「発達障害者の権利保障及び支援に関する法律」

조문	원문 요약	해설
제26조(평생교육 지원)	- 국가와 지방자치단체는 발달장애인에게 평생교육 기회가 충분히 부여되도록 시·군·구별로 평생교육기관 지정하여 발달장애인을 위한 교육과정 운영, 운영에 필요한 경비의 전부 또는 일부 지원 - 기관 지정 기준과 절차, 발달장애인 교육과정 기준, 교육 제공인력 요건 등은 교육부장관이 보건복지부장관과 협의 하여 결정	발달장애인 전용 평생교육 기관 지정·운영, 교육과정 운영, 교육제공인력 요건, 운영비 지원 등 근거

条文	原文要約	解説
第26条(生涯教育支援)	- 国家および地方自治体は、発達障害者に生涯教育の機会が十分に与えられるよう、市・郡ごとに生涯教育機関を指定し、発達障害者のための教育課程を運営し、運営に必要な経費を全部または一部支援する。 - 機関指定の基準および手続き、発達障害者教育課程の基準、教育提供人材の要件などは、教育部長官が保健福祉部長官と協議して決定する。	発達障害者専用の生涯教育機関指定・運営、教育課程運営、教育提供人材の要件、運営費支援などの根拠

▶ 「장애인 등에 대한 특수교육법」 「障害者等に対する特別教育法」

조문 条文	원문 요약 原文要約	해설 解説
제5조(국가 및 지방자치 단체의 임무) 第5条 (国家および地方自治団体の義務)	- 국가와 지방자치단체는 특수교육대상자에게 적절한 교육을 제공하기 위해 다음 각 호의 업무를 수행해야 함: 10. 장애인에 대한 고등교육 방안의 강구 - 업무를 수행하는데 드는 경비를 예산의 범위 안에서 우선적으로 지급	국가와 지방자치단체의 장애인 고등교육에 대한 임무 규정
제5장 고등교육 제29조(특별지원위원회), 제30조(장애학생지원센터), 제30조의2(개인별 교육 지원계획), 제31조(편의 제공 등), 제32조(학칙 등의 작성), 제33조(장애인고등교육지원센터) 第5章 高等教育 第29条、第30条、第30条の2、第31条、第32条、第33条	- 대학의 장은 장애학생 지원 계획과 지원을 위해 대통령령으로 정하는 사항 등을 심의·결정하기 위해 특별지원위원회 설치·운영 및 장애학생의 교육 및 생활에 관한 지원을 총괄·담당하는 장애학생지원센터를 설치·운영 - 장애학생지원센터의 장은 매학기마다 장애학생에 대한 개인별 교육지원계획을 작성하여 대학의 장에게 보고 - 장애학생의 교육활동 편의를 위하여 인적·물적 지원, 취학편의 지원, 정보접근 지원 등 적극적으로 강구·제공 - 학습지원, 입학전형 관리에 관한 사항, 편의제공 등에 관한 사항을 학칙에 규정 - 교육부장관은 대학에 재학하는 장애학생에 대한 통합적 지원(연구, 자료 개발·보급, 진로·취업 지원 등)을 위해 장애인고등교육지원센터를 설치·지정	장애대학생 학습권 보장, 보조공학기기·학습 자료 등 편의 제공의 법적 근거

国家および地方自治団体は、特別教育対象者に適切な教育を提供するため、次の各号の業務を遂行しなければならない：

10. 障害者に対する高等教育方策の強化

大学の長は、障害学生支援計画および支援のために大統領令で定める事項を審議・決定するため、**特別支援委員会を設置・運営**し、障害学生の教育および生活に関する支援を総括する**障害学生支援センター**を設置・運営する。

障害学生の教育活動の便宜を図るため、**人的・物的支援、就学支援、情報アクセス支援**等を積極的に提供する。

- 学習支援、進学関連の事項、合理的配慮の提供等については学則で規定する。

- 教育部長官は、大学に在学する障害学生に対して研究、教材開発・普及、就職支援等を含む**統合的支援**を行うため、**障害人高等教育支援センター**を設置・指定する。

2

발달장애인 평생교육 관련 정책

発達障害者の生涯教育に関する政策

- 제6차 장애인정책종합계획(2023~2027)(관계부처 합동, 2023. 3.)

▶ 9대 정책 분야, 30대 중점 과제, 74개 세부 추진과제 발표

-> 세 번째 정책 분야: 생애단계별 맞춤형 교육 지원체계 고도화

☞ 중점 과제: 장애 조기발견 및 영유아 교육지원 강화, 장애학생 맞춤형 특수교육
지원 강화, **장애인 고등·평생교육 기회 확대**

- 第6次障害者政策総合計画（2023～2027）（関係部処合同、2023年3月）

▶ 9大政策分野、30大重点課題、74個の細部推進課題を発表

→ 第3の政策分野：ライフステージ別に対応した教育支援体制の高度化

☞ 重点課題：障害の早期発見および乳幼児教育支援の強化, 障害学生に対応した特別教育
支援の強化, **障害者の高等・生涯教育の機会拡大**

○ 추진과제 推進課題

▶ 장애인 고등교육 지원체계 강화 障害者高等教育支援体制の強化

- 장애대학생 지원을 위한 '장애인고등교육지원센터' 설치·운영 및 '장애학생지원 거점대학' 확대 추진을 통해 고등교육 기회 확대
- 장애학생 고등교육 기회 확대 및 학습권 보장
 - 발달장애인 대상 교육과정 모델을 개발하고, 특성화 대학을 발굴하여 장애인 중심의 교육 기회 확대
 - 장애학생 대상 대학생활 체험 기회를 제공하고 대학 적응 추진
- 障害大学生支援のための「障害人高等教育支援センター」の設置・運営および「障害学生支援拠点大学」拡大推進を通じて、高等教育の機会を拡大する。
- 障害学生の高等教育機会拡大および学習権の保障
 - 発達障害者対象の教育課程モデルを開発し、特性化大学を育成して障害者中心の教育機会を拡大する.
 - 障害学生を対象に大学生生活体験の機会を提供し、大学適応を推進する.

○ 추진과제 推進課題

▶ 장애인 평생교육 활성화 기반 조성 障害者生涯教育活性化の基盤構築

- 시군구 단위로 장애인 평생학습도시 단계적으로 확대 추진하여('23. 53개 -> '27. 100개), 지역별 장애인 평생학습 기반 조성 지원
- 장애인학습자가 자기주도적으로 원하는 평생교육 프로그램을 이수할 수 있도록 평생교육 이용권 지원
- 다양한 평생교육 프로그램 모델 개발, 확산하여 장애인의 평생교육 참여 확대
- 市・郡・区単位で障害者生涯学習都市を段階的に拡大推進（2023年：53箇所 → 2027年：100箇所）、地域別障害者生涯学習基盤の構築を支援。
- 障害学習者が自主的に希望する生涯教育プログラムを履修できるよう、生涯教育利用権を支援
- 多様な生涯教育プログラムモデルを開発・拡散し、障害者の生涯教育参加を拡大。

2

발달장애인 평생교육 관련 정책

発達障害者の生涯教育に関する政策

- 제6차 특수교육발전 5개년 계획(2023~2027)(교육부, 2022. 12.)

▶ 4개 정책 영역, 11개 추진 과제 발표

-> 네 번째 정책 영역: 장애인 고등·평생교육 기회 확대

☞ 중점 과제: 장애인 고등교육 지원체계 강화, 장애인 평생교육 활성화 기반 조성

- 第6次特別教育發展5か年計画（2023～2027）（教育部、2022年12月）

▶ 4大政策領域、11個の推進課題を発表

→ 第4の政策領域：障害者の高等・生涯教育の機会拡大

重点課題：障害者高等教育支援体制の強化, 障害者生涯教育活性化の基盤構築

장애인 고등교육 지원체계 강화

障害者高等教育支援体制の強化

- 장애인 고등교육 기회 확대를 위한 기반 조성 障害者高等教育機会拡大のための基盤構築

- ▶ 障害大学（院）生に対する統合的支援のため、中央単位の「障害人高等教育支援センター」を運営
- ▶ 「障害学生支援拠点大学」の拡大推進：（2027年までに）15校
- ▶ すべての大学に障害学生支援センターまたは支援部署を設置

- 장애학생 고등교육 기회 확대 및 학습권 보장 障害学生高等教育機会拡大および学習権の保障

- ▶ 発達障害者対象の教育課程（学位・非学位）モデルを開発し、文化芸術特性化大学を育成
- ▶ 障害学生に大学生活体験の機会を提供し、大学生活適応のための**プログラム開発**を推進
- ▶ 大学の障害学生支援センター事業を通じて、**支援人材・補助機器支援**を継続的に推進

3

발달장애인 평생교육 현황

発達障害者の生涯教育の現状

- 2024 장애인 평생교육 현황조사 결과

★ 조사 기준일: 2023. 1. 1. ~ 2023. 12. 31.

★ 조사 주체: 교육부 국립특수교육원 국가장애인평생교육진흥센터

- 2024年 障害者生涯教育現況調査の結果

• 調査基準日：2023年1月1日 ～ 2023年12月31日

• 調査主体：教育部 国立特殊教育院 国家障害者生涯教育振興センター

▶ 장애인 평생교육 운영기관 현황

障害者生涯教育運営機関の現状

장애인 평생교육 운영기관 현황					
구 분 区分	기관수(개)	프로그램수(개)	학습자수(명)	교·강사수(명)	행정인력수(명)
	기관 수(개)	프로그램 수(개)	학습자 수(명)	교·강사 수(명)	행정인력 수(명)
전체 全体	1,311	15,053	199,338	19,110	5,772
장애인 평생교육시설 障害者生涯教育施設	131	2,324	8,972	2,136	241
일반 평생교육기관 一般生涯教育機関	242	2,211	40,255	6,186	816
장애인 복지시설 障害者福祉施設	766	9,437	145,048	9,730	4,301
장애인 직업·고용시설 障害者職業・雇用施設	162	985	4,875	933	326
기타(특수교육기관) その他(特殊教育機関)	10	94	187	126	89

장애인 평생교육시설	교육청 인가·등록	(87)	-	-	10 (0.2)	8 (0.1)	1,077 (16.9)	2,552 (40.0)	150 (2.3)	173 (2.7)	61 (1.0)	142 (2.2)	6,386
	지자체 지정·위탁	(6)	-	-	3 (0.3)	-	210 (20.0)	225 (21.4)	12 (1.1)	12 (1.1)	36 (3.4)	51 (4.9)	1,050
	발달장애인평생교육센터	(38)	-	-	-	2 (0.1)	560 (36.4)	434 (28.2)	344 (22.4)	79 (5.1)	-	-	1,537

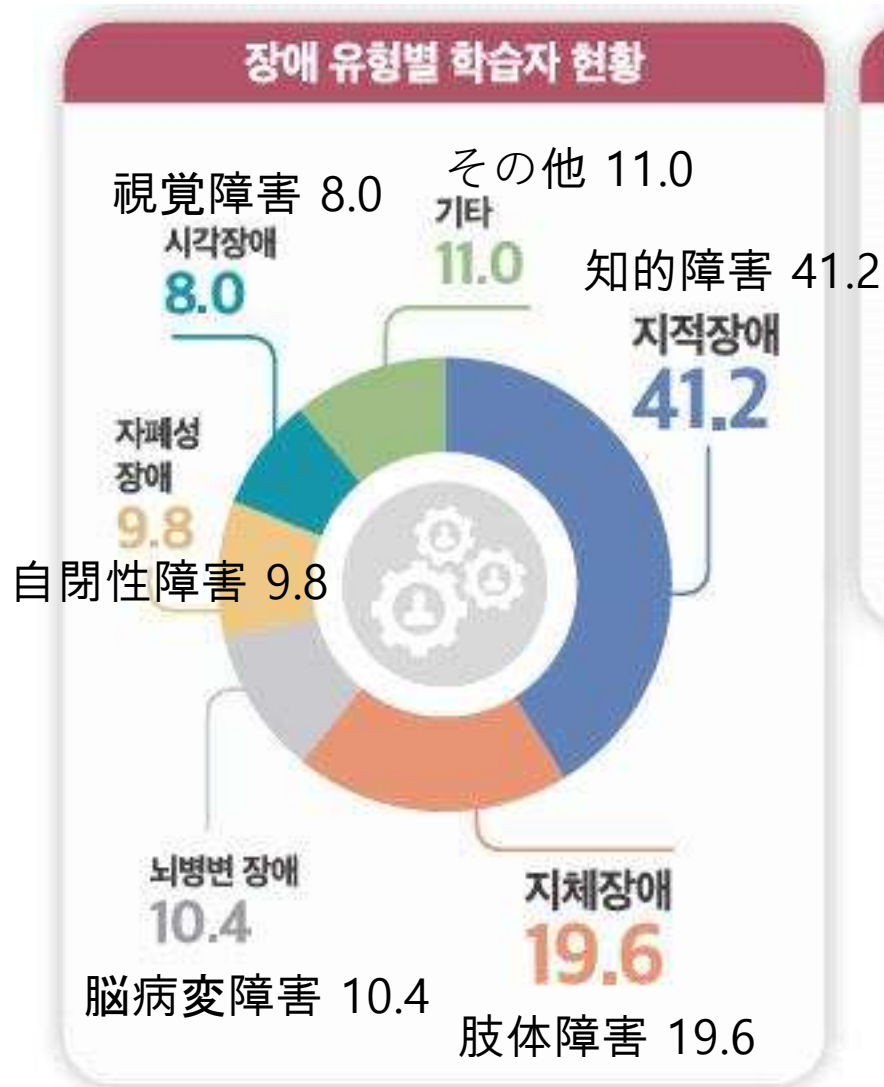
障害者生涯教育施設

発達障害者生涯教育センター

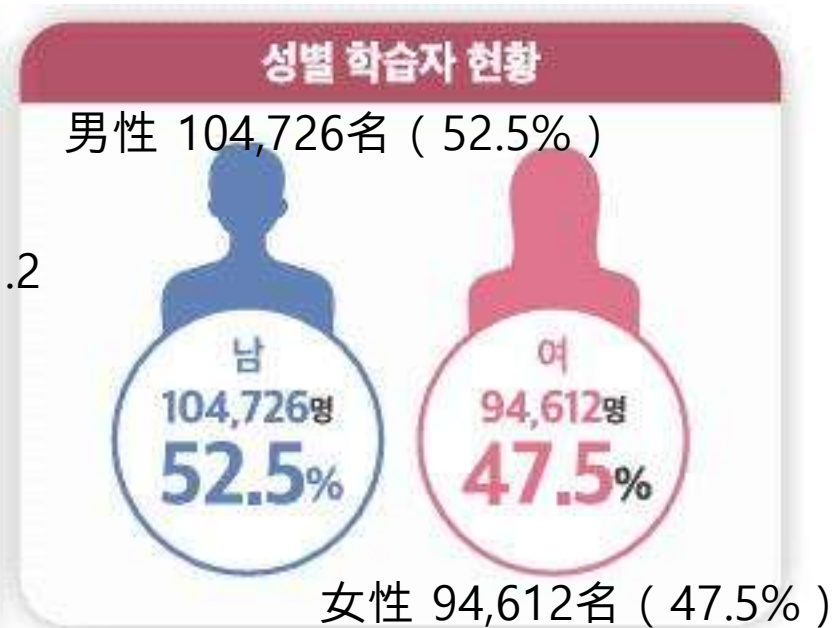
▶ 학습자 현황

学習者の現状

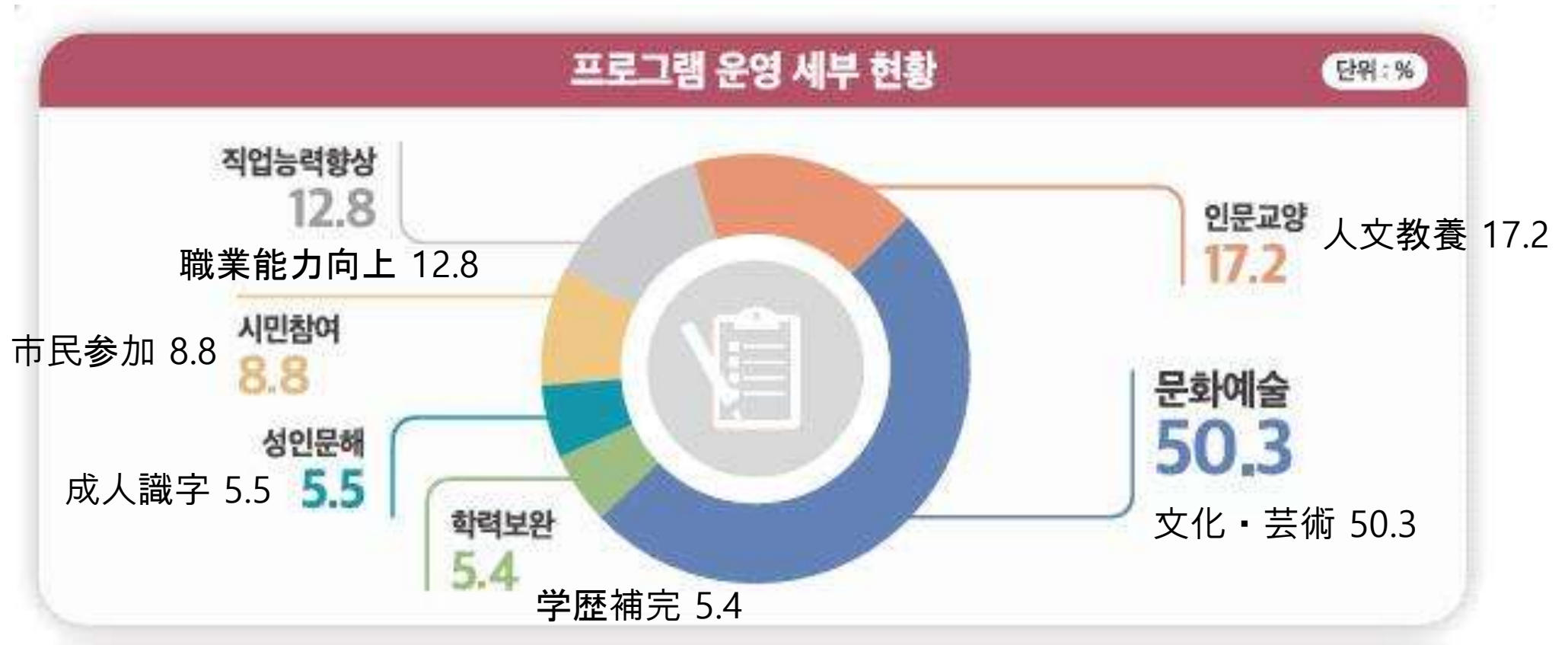
障害の種類別 学習者の現状



性別 学習者の現状



▶ 프로그램 운영 세부 현황 프로그램運営の詳細現況



▶ 기관별 프로그램 운영 세부 현황 機関別プログラム運営の詳細現況

- 文化・芸術 40.2
- 人文教養 17.4
- 職業能力向上 12.2
- 市民参加 8.7
- 成人識字 12.7
- 學歷補完 8.8



- 文化・芸術 60.5
- 人文教養 22.2
- 職業能力向上 5.6
- 市民参加 2.8
- 成人識字 4.2
- 學歷補完 4.8

구분 区分		全体	學歷補完	成人識字	職業能力向上	人文教養	文化・芸術	↓, (%)
		전체	학력 보완	성인 문해	직업능력향상	인문교양	문화예술	시민참여 市民参加
장애인 평생교육시설	교육청 인가등록	(1,191)	159 (13.3)	179 (15.0)	131 (11.0)	163 (13.7)	474 (39.8)	85 (7.1)
	지자체 지정·위탁	(177)	9 (5.1)	18 (10.2)	30 (16.9)	39 (22.0)	75 (42.4)	6 (3.4)
	발달장애인평생교육센터	(957)	39 (4.1)	98 (10.3)	122 (12.7)	201 (21.0)	386 (40.3)	111 (11.6)

障害者生涯教育施設

発達障害者生涯教育センター

▶ 기관별 프로그램 운영 세부 현황 機関別プログラム運営の詳細現況

障害者福祉施設

- 文化・芸術 54.2
- 人文教養 16.9
- 職業能力向上 8.9
- 市民参加 10.6
- 成人識字 4.4
- 學歷補完 5.0



障害者職業・雇用施設

- 文化・芸術 19.1
- 人文教養 9.0
- 職業能力向上 60.2
- 市民参加 6.4
- 成人識字 3.1
- 學歷補完 2.2

		全体	學歷補完	成人識字	職業能力向上	人文教養	文化・芸術	개, (%)
구분 区分		전체	학력 보완	성인 문해	직업능력향상	인문교양	문화예술	시민참여
장애인 직업·고용시설	보호작업장	(802)	16 (2.0)	26 (3.2)	497 (61.9)	65 (8.1)	161 (20.1)	38 (4.7)
	직업적응훈련시설	(177)	6 (3.4)	5 (2.8)	90 (50.8)	24 (13.6)	27 (15.3)	26 (14.4)
	발달장애인훈련센터	(6)	-	-	6 (100.0)	-	-	-

障害者職業・雇用施設

発達障害者訓練センター

▶ 기관별 프로그램 운영 세부 현황 機関別プログラム運営の詳細現況

プログラム授業方式

オン・オフライン
1.5

オンライン 1.8

기관별 프로그램 운영 세부 현황

단위: %

프로그램 강의 방식



온·오프라인
1.5

온라인
1.8

오프라인
96.7

오프라인 96.7



(단위: 개, (%))

구분		전체	온라인	오프라인	온·오프라인
			온라인	오프라인	온·오프라인
장애인 평생교육시설	교육청 인가·등록	(1,191)	37 (3.1)	1,119 (94.0)	35 (2.9)
	지자체 지정·위탁	(177)	-	177 (100.0)	-
발달장애자 평생교육센터	발달장애자평생교육센터	(957)	22 (2.3)	934 (97.7)	-
장애인 직업· 고용시설	보호작업장	(802)	16 (2.0)	749 (93.3)	38 (4.7)
	직업적응훈련시설	(177)	-	177 (100.0)	-
	발달장애자훈련센터	(6)	-	6 (100.0)	-

発達障害者生涯教育センター

発達障害者訓練センター

機関別プログラム運営の詳細現況－教育期間

▶ 기관별 프로그램 운영 세부 현황-교육 기간

〈표 4-1-40〉 프로그램 운영 세부 현황－교육 기간

		全体	3か月未満	3か月～6か月未満	6か月～9か月未満	(%)
구분		전체	3개월 미만	3개월~6개월 미만	6개월~9개월 미만	9개월~12개월 9か月～12か月未満
障害者 生涯教育施設	장애인 평생교육시설					
	교육청 인가 등록 教育庁人気登録	(1,191)	102 (8.6)	182 (15.3)	246 (20.6)	660 (55.5)
	지자체 지정 위탁 自治体指定委託	(177)	9 (5.1)	9 (5.1)	117 (66.1)	42 (23.7)
	발달장애이평생교육센터 発達障害者生涯教育センター	(957)	107 (11.2)	50 (5.3)	49 (5.1)	750 (78.4)
	보호작업장 保護作業場	(802)	87 (10.8)	66 (8.2)	60 (7.5)	590 (73.5)
障害者 職業・ 雇用施設	장애인 직업· 고용시설					
	직업적응훈련시설 職業適應訓練施設	(177)	-	21 (11.9)	5 (2.5)	152 (85.6)
	발달장애이훈련센터 発達障害者訓練センター	(6)	-	3 (50.0)	3 (50.0)	-

機関別プログラム運営の詳細現況－受講料

▶ 기관별 프로그램 운영 세부 현황-수강료

〈표 4-1-44〉 프로그램 운영 세부 현황－수강료

		約 2,170円 約 4,350円 約 6,520円 約 8,700円 約 10,870円 約 21,740円 未滿 未滿 未滿 未滿 未滿 未滿 (%)								
구분		전체 全体	없음 (무료) 無し	2만원 미만	2만원 이상 ~ 4만원 미만	4만원 이상 ~ 6만원 미만	6만원 이상 ~ 8만원 미만	8만원 이상 ~ 10만원 미만	10만원 이상 ~ 20만원 미만	20만원 이상 約 21,740円 以上
장애인 평생교육시설	교육청 인가·등록	(1,191)	1,093 (91.8)	41 (3.4)	15 (1.3)	5 (0.4)	17 (1.4)	10 (0.8)	8 (0.7)	2 (0.2)
	지자체 지정·위탁	(177)	177 (100.0)	-	-	-	-	-	-	-
	발달장애이평생교육센터	(957)	571 (59.7)	287 (30.0)	29 (3.0)	6 (0.6)	1 (0.1)	-	28 (2.9)	35 (3.6)
장애인 직업· 고용시설	모호·직업성	(802)	750 (93.5)	2 (0.3)	5 (0.6)	2 (0.3)	1 (0.2)	-	11 (1.4)	31 (3.8)
	직업적응훈련시설	(177)	134 (75.4)	-	3 (1.7)	-	-	2 (0.8)	29 (16.1)	11 (5.9)
	발달장애인훈련센터	(6)	6 (100.0)	-	-	-	-	-	-	-

約 21,740円
以上

障害者
生涯教育施設

障害者
職業・
雇用施設

発達障害者生涯教育センター

発達障害者訓練センター

프로그램 운영의詳細現況－障害者・非障害者の統合教育の有無

▶ 프로그램 운영 세부 현황-장애인, 비장애인 통합교육 여부

〈표 4-1-45〉 프로그램 운영 세부 현황－장애인, 비장애인 통합교육 여부

非障害者と一緒の授業 障害者のみの授業

障害者
生涯教育施設

障害者
職業・
雇用施設

구분 区分		전체 全体	비장애인과 함께 수업	장애인만 수업
장애인 평생교육시설	교육청 인가등록	(1,191)	125 (10.5)	1,065 (89.5)
	지자체 지정·위탁	(177)	6 (3.4)	171 (96.6)
	발달장애이평생교육센터	(957)	18 (1.9)	939 (98.1)
장애인 직업· 고용시설	보호작업장	(802)	65 (8.1)	738 (91.9)
	직업적응훈련시설	(177)	-	177 (100.0)
	발달장애인훈련센터	(6)	-	6 (100.0)

発達障害者生涯教育センター

発達障害者訓練センター

障害者生涯教育の活性化のために最も緊急な課題

▶ 장애인 평생교육 활성화를 위해 가장 시급한 과제

3. 障害者生涯教育専門人材の養成および配置

〈표 4-1-48〉 장애인 평생교육 활성화를 위해 가장 시급한 과제

2. 機関施設運営費（人件費を含む）支援

(단위: 개소, (%))

1. 障害者生涯教育プログラム運営費支援

구분	전체	장애인 평생교육 프로그램 운영비 지원	기관 시설 운영비 (인건비 포함) 지원	장애인 평생교육 전문인력 양성 및 배치	편의시설 개선 지원	장애인 평생교육 프로그램 개발 및 교재 보급	편의제공 개선 지원	종사자들 에 대한 체계적인 장애인 인권교육 지원	기타
전체	(1,311)	437 (33.3)	261 (19.9)	258 (19.7)	146 (11.1)	140 (10.7)	26 (2.0)	18 (1.4)	25 (1.9)
기관 유형	장애인평생교육시설	32 (24.8)	57 (43.7)	11 (8.0)	14 (10.4)	10 (7.8)	-	2 (1.8)	5 (3.5)
	일반평생교육기관	46 (18.8)	28 (11.5)	74 (30.4)	60 (24.8)	22 (8.9)	8 (3.2)	2 (0.8)	4 (1.6)
	장애인복지시설	309 (40.4)	144 (18.7)	139 (18.1)	58 (7.6)	85 (11.0)	12 (1.5)	6 (0.8)	13 (1.8)
	장애인직업·고용시설	44 (27.3)	32 (19.5)	34 (21.1)	12 (7.7)	23 (14.5)	6 (3.8)	7 (4.5)	2 (1.5)
	기타	(10)	6 (55.6)	1 (11.1)	1 (11.1)	-	-	-	1 (11.1)

障害者生涯学習都市の現況

▶ 장애인 평생학습도시 현황



障害者生涯学習都市の活性化のための考慮事項

▶ 장애인 평생학습도시 활성화를 위한 고려사항

2. 障害の種類を考慮したカスタマイズ型生涯学習プログラムの開発
3. 障害者専門の生涯教育人材の養成・配置

1. 障害者生涯教育のための行政的・財政的支援基盤の整備 (단위: 개소, (%))

구분 区分	전체 全体	장애인 평생교육을 위한 행정적· 재정적 지원기반 마련	장애 유형을 고려한 맞춤형 평생학습 프로그램 개발	장애인 전담 평생교육사 양성·배치	지역 내 유관기관과 장애인 평생교육 네트워크 강화	장애인 평생학습을 위한 교육시설 확충	장애인 평생교육 관련 다양한 교수·학습 자료 개발
전체 全体	(58)	35 (60.3)	27 (46.6)	13 (22.4)	9 (15.5)	9 (15.5)	7 (12.1)

4

발달장애인 고등교육 현황 発達障害者高等教育の現況

- 2026학년도 장애인 등 대상자 특별전형 2026学年度 障害者等対象者特別選抜
 - ▶ 2026학년도 장애인 등 대상자 특별전형(정원외)은 122개 대학에서 1,790명(2025년 대비 ▼170명)을 선발 예정이며, 수시모집에서 108개 대학 1,639명, 정시모집에서 60개 대학 151명 선발
 - ▶ 2026学年度の障害者等対象特別選抜（定員外）は、122校の大学で1,790名（2025年度比 ▼170名）を選抜する予定であり、随時募集では108校で1,639名、正規募集では60校で151名を選抜

- 2026학년도 발달장애인을 위한 학교,학과 2026学年度 発達障害者のための学校・学科

1) 나사렛대학교 재활자립학부: 모집인원 30명 나사레大学 리ハビリテーション学部:
募集定員 30名

2) 대구대학교 특수창의융합학과: 모집인원 30명 テグ大学 特殊創意融合学部: 募集定員 30名

3) 협성대학교 에이블아트,스포츠학과: 모집인원 36명
ヒョンソン大学 エイブルアート・スポーツ学科:

4) (전문대학) 안산대학교 에이블자립학과: 모집인원 30명 募集定員 36名
(專門大学) 안산大学 에이블自立学科:

5) (비학위(비인가)과정 대안대학) 호산나대학: 모집인원 미기재 募集定員 30名
(非学位〔非認可〕課程 大安大学) 호사나大学:

- 출처: 2026 특수교육대상학생 진학 자료집(경기도교육청, 2025) 募集定員 未定

出典: 2026 特殊教育対象学生 進学 資料集 (京畿道教育庁, 2025)

高等学校および専攻科卒業生の進路現況 (2025年2月1日卒業)(教育部, 2025)

* 고등학교 및 전공과 졸업생 진로 현황(2025. 2. 1. 졸업)(교육부, 2025)

구분 区分	졸업자 수 卒業者数	진학자 進学者				진학률 (%) 進学率(%)
		전공과 専攻科	전문 대학 專門大学	대학교 大学	계 計	
全体 전체	8,781	2,295	639	959	3,893	44.3
高等学校 고등학교	6,541	2,295	613	946	3,854	58.9
専攻科 전공과	2,240	-	26	13	39	1.7

구분 区分	졸업자 수 卒業者数	취업자 就業者					就業率	비진학·미취업 (비율)	未進学・未就業
		製造業 제품 제조	飲食サービス 식음료 서비스	청소·세탁 清掃・洗濯	그 외 その他	계 計	취업률 (%)		
전체 全体	8,781	382	264	221	897	1,764	20.1	3,124 (35.6)	
고등학교 高等学校	6,541	113	101	63	350	627	9.6	2,060 (31.5)	
전공과 専攻科	2,240*	269	163	158	547	1,137	50.8	1,064 (47.5)	

* 전공과: 특수학교(167교) 전공과 졸업자 수 2,157명 + 일반학교(16교) 특수학급 전공과 졸업자 수 83명
 高等部・特殊学校専攻科卒業者数 2,157名 + 一般高校（16校）特殊学級専攻科卒業者数 83名

※ 전체 고용률(15세 이상 인구 중 취업자 비율): 63.4%(통계청, 2025.7.)

全国就業率（15歳以上人口のうち就業者の割合）：63.4%（統計庁, 2025.7）

※ 장애인 고용률: 33.8%(장애인 경제활동실태조사, 2024. 5.)

障害者就業率:33.8%(障害者経済活動実態調査, 2024.5)

5

선행연구 분석 先行研究分析

成人発達障害者の生涯教育経験と満足度および大学基盤障害者生涯教育に対する保護者認識研究（宣容仁・河周憲, 2024）

1 성인 발달장애인의 평생교육 경험과 만족도 및 대학기반 장애인 평생교육에 대한 부모 인식 연구(선용인, 하주현, 2024)

- **研究目的:** 18歳以上の成人発達障害者の子を持つ保護者を対象にアンケート調査を実施
- **研究課題:** 子どもの生涯教育経験と満足度、大学基盤障害者生涯教育に対する保護者の認識および要求
- **研究結果:**
 - ▶ 成人発達障害者の保護者は、子どもの「日常生活の自立」に最も大きな関心を持つ事項
 - ▶ 全般的に母親・父親ともに生涯教育への関心度が高い
→ プログラムの多様性・専門性の不足、就労との連携不足を指摘
 - ▶ 「子どもがもっと生涯教育の必要性がある」として、大学生涯教育への参加意
志を積極的に示した → 大学生涯教育＝多様なプログラム・多様な機会の提供に肯定的
 - ▶ 教育体制: 「非障害者と共に行う混合教育方式」を選好、制限のない全般的な生涯教育課程や自立のための教育内容を志向
- **示唆点:** 大学基盤障害者生涯教育の必要性を提示し、これに関する追加研究の必要性を提案

発達障害者生涯教育の現況分析に基づいた発達障害者教育改善方案の研究
— コロナパンデミック期のG広域市を中心に — (李在浩・李宇眞, 2024)

2 발달장애인 평생교육 현황 분석에 기반한 발달장애인 교육 개선방안 연구 :
코로나 펜데믹 시기 G광역시를 중심으로(이재호, 이우진, 2024)

- 연구목적 및 방법: G광역시 평생교육의 현황을 기반으로 발달장애인의 참여 형태와 요구 조사
- 연구 결과
 - ▶ 응답자의 87.5%가 평생교육 프로그램 참여 의사 => 평생교육에 대한 높은 관심, 주요 참여 이유는 직업 기술 습득
 - ▶ 교육 프로그램의 다양성을 요구, 특히, 예체능 및 직업 기술 교육에 대한 높은 관심
- 시사점: 프로그램의 다양성과 특히 예술, 체육, 직업 기술 훈련에 대한 관심이 높아, 발달장애인을 위한 교육 프로그램 개발에 대한 필요성을 제시

- 研究目的および方法: G広域市生涯教育の現況を基盤に、発達障害者の参加形態と要求を調査
- 研究結果:
 - ▶ 回答者の87.5%が生涯教育プログラム参加の意思あり ⇒ 高い関心、主な参加理由は職業技術の習得
 - ▶ 教育プログラムの多様化を要求、特に芸術や職業技術教育への関心が高い
- 示唆点: プログラムの多様性、特に芸術・体育・職業技術訓練への関心が高く、発達障害者のための教育プログラム開発の必要性を提示

発達障害者生涯教育の成果と改善点に対する保護者の認識（徐洪蘭・鄭昭娟, 2025）

3

발달장애인 평생교육의 성과와 개선점에 대한 부모의 인식(서홍란, 정소연, 2025)

- 研究目的: 保護者の観点から成人発達障害者対象の生涯教育プログラムの成果・改善点を把握し、発展方向を模索
- 研究方法: 成人発達障害者の保護者13名を対象にフォーカスグループインタビュー（FGI）を実施
- 研究結果および提案:
 - ▶ 生涯教育の効果: 認知・心理・情緒・社会的能力など、発達障害者の全人的成長に寄与し、保護者や家族の負担軽減にもつながる。また、成人の回復と希望ある新たな旅立ちを可能にする機会を提供
 - ▶ 生涯教育プログラムの改善必要
 - 内容的側面: 自然体験と身体活動を強化する野外活動、日常生活訓練と自立準備を統合したプログラム強化、長期間繰り返しても興味を持ちにくい統合プログラムの改善を提案
 - 運営的側面: 多様なプログラムの導入・供給と不十分な解説を補う参加機会の拡大、総合的な運営期間の拡大、発達障害者の特性に合った差別化教育と教育的効果の強化を提案

4 발달장애학생을 위한 대학기반 중등이후교육의 유형별 운영모델 개발(이성아, 김유진, 박승희, 2024) 発達障害学生のための大学基盤中等以後教育の類型別運営モデル開発 (李成娥・金有珍・朴承姫, 2024)

- 연구목적: 국내 발달장애학생을 위한 대학기반 중등이후교육의 유형 구분 및 유형별 운영모델 제시
- 연구방법: 운영 사례 분석, 설문조사, 심층 면담 등
- 연구결과
 - ▷ 국내의 대학기반 중등이후교육 유형을 4가지 분류 기준에 따라 11가지 세부 유형으로 구분
 - ▷ 발달장애학생의 통합정도 기준에 의한 중등이후교육의 3가지 유형(일반학과, 별도학과(반), 대학기반 평생교육원)에 따른 운영의 주요 핵심요소 도출하여 유형별 운영모델 개발
- 의의: 3가지 유형별 운영모델 제시 (일반학과, 별도학과(반), 대학기반 평생교육원 유형)

研究目的: 国内発達障害学生のための大学基盤中等以後教育の類型区分および類型別運営モデルを提示

意義: 3つの類型別運営モデルを提示 (一般学科、別途学科、大学基盤生涯教育院類型)

成人発達障害者のための市民参加教育プログラム適合化および参加者経験質的事例研究
(朴信河・金元鎬, 2025)

5 성인 발달장애인을 위한 시민참여교육 프로그램 적합화 및 참여자 경험 질적 사례연구(박신하, 김원호, 2025)

研究目的および方法: 既に開発された市民参加教育プログラムを成人発達障害者に適用し、プログラム適合化に関する情報を提供し、参加者のプログラム参加経験を質的に分析(成人発達障害者6名に市民参加教育プログラムを適用)

研究結果および市民参加教育プログラム活性化のための議論:

- ▷ 保護者および講師の先入観の確認：発達障害者を市民としてではなく保護対象として認識
 - しかし発達障害者の社会参加は確認された（積極的参加、貢献する参加）
 - ⇒ 市民参加教育プログラムは地域社会への貢献と機会・支援を提供する方向で開発されるべきである
- ▷ 学習者の特性に応じたプログラム適用の困難 → プログラム適用のための適合化が必要
 - 開発されたプログラムを適合化した多様で具体的な事例が共有されるべき

成人発達障害者の生涯教育参加に影響を与える要因に関する分析

(李韓祐・廉東文, 2024)

6 성인 발달장애인의 평생교육 참여에 영향을 미치는 요인에 관한 분석(이한우, 엄동문, 2024)

- **研究目的:** 成人発達障害者の生涯教育参加に影響を与える要因を分析
- **研究方法:** 韓国保健社会研究院が実施した2020年障害者実態原資料を使用し、成人発達障害者500名を対象に生涯教育参加に影響を与える要因を分析
- **研究結果（成人発達障害者の生涯教育参加に影響を与える要因）**
 - ▶ 健康要因: 主観的健康状態が高いほど参加が高い
 - ▶ 日常生活要因: 他人の助けが必要な程度が低いほど参加が高い
 - ▶ 社会活動要因: 生涯教育参加経験や余暇活動経験、福祉館利用経験が参加を高める
- **提案（成人発達障害者の生涯教育参加を促進するための政策的方策）**
 - ▶ 健康関連プログラムの開発、日常生活における発達障害者の主体的な生活のための実際的な方法の提供
 - ▶ 余暇活動を通じた生涯教育参加、福祉館以外の多様な生涯教育機関の拡張および生涯教育参加機会を高めるための多様な方法の模索

学齡期以後の発達障害者対象の継続教育について: 自閉症障害保護者のナラティブを中心に
(徐成済・李文吾, 2025)

7 학령기 이후 발달장애인 대상 계속 교육에 대하여: 자폐성장애부모의 내러티브를
중심으로(서성제, 이문오, 2025)

- **研究目的:** 成人期自閉症障害者の経験を中心に、継続教育の必要性に関する要求確認および方向性の探索
- **研究方法:** 成人期自閉症障害者保護者5名へのインタビューに対するナラティブ分析を実施
- **연구결과 및 제언 研究結果および提案**
 - ▷ 成人期自閉症障害者の自立のための個別化された経験中心継続教育の必要性が確認された
 - ▷ 生涯教育施設および機関と特殊教育機関との連携を通じて、学齡期の教育と活動が生涯教育施設で途切れることなく継続教育として行われるように支援されるべきである
 - ▷ 経験中心の継続教育を基盤として、障害者と非障害者が共に参加する共同体的生涯教育プログラムを開発し、相互作用を促進し社会統合を助けなければならない

韓国発達障害者対象 大学基盤中等以後教育の運営および教育支援の現況

(金有珍・李成娥, 2024)

8 한국 발달장애인 대상 대학 기반 중등이후교육 운영 및 교육지원 현황(김유진, 이성아, 2024)

研究目的: 発達障害学生が在学中の大学を対象に、発達障害学生の在学現況と教育支援の現況を分析

研究方法: 発達障害学生が5名以上在学中の大学83校の障害学生支援センターおよび入学課職員を対象にアンケート調査を実施

研究結果

▶ 最終分析対象大学60校に在学中の全障害学生のうち発達障害学生は1,127名（19.5%）

▶ 家族・社会・福祉学関連学科に在学する比率が32.8%で最も高い

提案

▶ 選択機会およびアクセス性の拡大: 多様な形態の中等以後教育が一定の質的水準を持って活性化する必要があり、発達障害の特性を考慮した入試制度の実施、非学位課程の活性化が必要

▶ 内実化のための教育支援強化: 発達障害学生対象の教育支援人材制度の保障、発達障害学生が履修する科目の担当教員への支援強化

9 장애유형에 따른 장애인 평생교육에 대한 인식 및 요구(박미진, 허선주, 김기룡,
2024) 障害類型による障害者生涯教育に対する認識および要求
(朴美眞・許善珠・金基龍, 2024)

- **研究目的:** 障害類型による障害者生涯教育の認識・要求を分析し、障害者生涯教育活性化の方策を提示
- **研究方法:** 障害類型を身体障害と発達障害に区分し、合計8名を選定して深層面接を実施
- **研究結果:**
 - ▶ 身体障害: 希望する生涯教育が予算のために実施されなかったり、関連専門家が不足しており、生涯教育に参加しても未来が不透明。しかし困難を乗り越え、職業と連携した生涯教育プログラムを通じて生活の質が向上し、生涯教育が権利として保障されることを期待。
 - ▶ 発達障害: 生涯教育を通じて得た学びが日常生活に拡張される経験を持ち、学習の中で分かち合う人生を送りたいと望み、生涯教育機関が福祉機関ではなく教育機関として役割を果たすことを希望。
- **提案:** 1) 個別特性と要求を反映するためのニーズ調査実施
 - 2) 誰もが参加できるよう国家が十分な予算を確保し、補助金管理に関する法律を改正
 - 3) 障害者生涯教育が生活全般と連携できるよう関連部署の協力による支援方策を模索



결론 結論

1 요약 要約

현황 및 선행연구 분석 정리

現況および先行研究の整理

1. 평생교육 참여 生涯教育への参加

- 障害者生涯教育機関・生涯学習都市の拡大が推進中だが、参加率とアクセス性は依然として低い。
- 発達障害者の主な参加理由は職業技術の習得であり、プログラムの多様性（芸術・体育および職業）を求めている
- 保護者は生涯教育への参加必要性を認識しているが、支援体制の不足が問題となっている

2. 고등교육 현황 高等教育の現況

- 障害大学生の高等教育進学率は全体に比べて依然として低い。
- 発達障害者に対する高等教育支援は一部の大学や特化プログラムに限定されている
- 支援センターの人材・財政不足、教員の力量強化の必要性が指摘される

3. 선행연구 시사점 先行研究の示唆点

- **保護者認識の研究:** 発達障害者の大学基盤生涯教育の要求は高い。日常生活訓練と自立準備、専門性および就労連携、福祉と教育の統合的な接近の強化を提案
- **市民参加教育の研究:** 発達障害者を「市民」として認識し、地域社会への貢献機会を提供するプログラムの開発が必要
- **健康・社会活動要因の研究:** 健康状態、日常生活の自立、社会活動経験が生涯教育参加に直結する

2

과제 제안 課題提案

発達障害者 生涯教育・高等教育 運営改善のための課題提案

발달장애인 평생교육·고등교육 운영 개선 과제 제안

1. 법·제도 강화 法・制度の強化

- 運営活性化のための財政・人材支援拡大：専任教員・支援人材の養成および配置制度化、予算確保のための法律制定・改正、安定的な財源確保（国家・自治体予算、バウチャー拡大、民間協力モデル）
- 国家障害者生涯教育振興センターおよび障害者高等教育支援センターの機能拡大

2. 접근성·기회 확대 액세스性・機会の拡大

- 市郡区単位および地域別障害者生涯学習基盤における発達障害者特化プログラム運営の拡大
- 大学における発達障害者対象の学位・非学位課程の活性化

3. 교육 지원체계 개선 教育支援体制の改善

- 大学内障害学生支援センター機能の強化および支援人材の確保
- 学習者に合わせたプログラムと学歴機会や生涯教育課程との連携を支援するための連携・協力体制の構築

4. 사회통합 촉진 社会統合の促進

- 発達障害者と非障害者が共に参加する共同体型生涯教育プログラムの活性化
- 発達障害者の社会参加・市民的包摂のための教育モデル構築

감사합니다!

“ ありがとうございます ”

Thanks

김미진

キム・ミジン

한국에서 발달장애인의 문화·예술 활동 진흥의 의미와 효과

우주형(한국 나사렛대학교 교수)

I. 서론 : 문화예술은 발달장애인의 삶을 여는 문이다

발달장애인은 인지·의사소통 영역의 제약으로 인해 사회적 고립과 표현의 어려움을 겪는 경우가 많다. 이들에게 문화예술은 단순한 여가를 넘어, 감정 표현과 사회 참여, 자존감 회복의 통로로 작용한다. 특히 유엔장애인권리협약(CRPD)이 강조하듯, 문화예술은 인간다운 삶과 사회적 통합을 실현하는 기본권의 일부로 이해되어야 한다. 문화예술을 통한 자율적 참여는 복지 대상이 아닌 **능동적 시민**으로서의 권리를 실현하는 길이며, 이는 한국 사회가 지향해야 할 시민적 복지국가의 핵심 가치와 맞닿아 있다.

한국 사회는 점차 다양성과 포용성을 중시하는 방향으로 변화하고 있으며, 이러한 흐름 속에서 발달장애인의 문화·예술 활동에 대한 관심이 높아지고 있다. 과거에는 발달장애인의 문화·예술 참여가 치료나 재활의 수단으로 여겨졌지만, 이제는 문화적 권리로서 그 정당성이 인정되고 있다.

발달장애인은 인지, 의사소통, 사회적 상호작용 등에 어려움을 겪는 특성이 있지만, 예술은 언어와 논리를 넘어 감각과 감성으로 소통하는 수단이기 때문에 발달장애인에게 매우 적합한 표현의 장이라 할 수 있다. 본 발표에서는 발달장애인의 문화·예술 활동 진흥의 필요성과 그 효과를 살펴보고, 향후 한국 사회가 나아가야 할 방향에 대해 제언하고자 한다.

II. 발달장애인과 문화·예술 활동의 의미

1. 발달장애인의 정의 및 특성

발달장애는 자폐성 장애, 지적 장애 등 생애 전반에 걸쳐 발달상의 어려움을 겪는 장애를 포괄하는 개념이다. 이들은 언어, 인지, 감정 조절, 사회적 기능 등에서 차이를 보이며, 일상생활에서 다양한 지원이 필요하다. 하지만 장애는 결핍이 아닌 다른 표현이며, 문화 예술은 이러한 ‘다름’을 존중하고 표현할 수 있는 강력한 수단에 해당한다.

2. 문화·예술 활동의 의미

문화·예술 활동은 그림 그리기, 연극, 음악, 무용, 영화, 문학 등 다양한 장르를 통해 자기 표현과 소통, 창작을 실현하는 활동이다. 특히 발달장애인에게 문화 예술은 언어적 제약을 극복하고 내면세계를 표현할 수 있게 해주며, 자존감 향상과 사회 참여의 기회를 제공한다.

3. 문화·예술 활동 진흥의 필요성 및 효과

1) 문화적 권리의 관점

「대한민국 헌법」 제11조는 모든 국민은 법 앞에 평등하며, 차별받지 않아야 한다고 명시하고 있다. 「유엔 장애인권리협약」(UN CRPD) 제30조 또한 장애인의 문화·예술 활동 참여를 권리로 규정하고 있다. 따라서 발달장애인의 예술 활동은 시혜가 아니라 기본권의 보장으로 접근하여야 한다.

2) 사회통합과 다양성 존중

문화·예술은 사람 간 경계를 허무는 도구로, 발달장애인이 예술 활동에 참여함으로써 비장애인과 상호 이해와 공감의 가능성이 높아진다. 이는 결과적으로 장애에 대한 사회적 인식을 개선하고, 다양성을 존중하는 문화를 형성하는 데 기여하는 기능을 하게 된다.

3) 자아실현과 삶의 질 향상

문화 예술은 단지 ‘보여주기’ 위한 것이 아니라, 참여자 스스로가 창작을 통해 삶의 의미를 찾고, 자아를 실현하는 통로이다. 발달장애인은 예술을 통해 자신의 존재를 표현하고, 사회의 일원으로 존중받는 경험을 할 수 있다.

4) 심리·정서적 효과

- 스트레스 완화와 정서 안정: 미술, 음악, 무용 등은 감정을 표현하고 정서를 조절하는 데 긍정적인 영향을 준다.
- 자존감 향상: 자신의 작품이 전시되거나 공연 무대에 오르는 경험은 성취감과 자긍심을 높여준다.

5) 사회성 발달

- 의사소통 능력 향상: 예술 활동은 비언어적 소통 능력을 자극하며, 타인과의 상호작용 기회를 제공하게 된다.
- 협동과 책임감: 공동작업(예: 연극, 합주 등)을 통해 사회적 역할을 익히고 책임감을 기를 수 있다.

6) 교육적 효과

- 집중력 및 사고력 강화: 예술활동은 몰입을 유도하고, 창의적 사고를 자극한다.
- 개별 맞춤교육 가능성: 발달장애인의 특성에 맞춘 예술 교육은 전통적 교육방식보다 효과적일 수 있다.

7) 경제적 가능성

- 예술인으로서의 성장: 일정 수준 이상의 창작 능력을 지닌 발달장애인은 전문 예술인으로 활동할 수 있으며, 이는 직업적 자립으로 연결될 수 있다.
- 사회적 기업 모델: 발달장애인의 작품을 활용한 상품화, 전시회 운영, 문화 기획 등 다양한 경제적 모델이 가능하다.

Ⅲ. 발달장애인 문화·예술 활동의 제도적 기반

1. 「장애예술인 문화예술 활동 지원에 관한 법률」(약칭: 「장애예술인지원법」)

이 법은 장애예술인의 창작 활동, 교육, 유통, 고용, 시설 접근성 등을 종합적으로 지원하기 위해 2020년에 제정되었다. 특히 발달장애인의 경우 자발적 참여가 어려운 구조적 문제를 해소하고자, 국가와 지자체의 행정적·재정적 책무를 명문화하였다. 이 법은 발달장애인을 포함한 모든 장애예술인의 '권리 기반 창작 활동'을 제도적으로 보장하고자 한다. 이 법의 주요 내용은 다음과 같다.

○ 제1조(목적)

장애예술인의 문화예술 활동을 촉진하고 삶의 질 향상에 이바지함.

○ 제5조(국가 및 지자체의 책무)

종합적 시책 수립, 예산 확보, 행정·재정 지원의무 명시.

○ 제6~7조(기본계획 수립 및 지원위원회 설치)

5년 단위 기본계획 수립, 연도별 시행계획 의무화.

○ 제9조의2(장애예술인 창작물 우선구매)

장애예술인 창작물의 우선구매 제도 도입 → 창작의 직업화 기반 마련.

○ 제10조~12조(참여 확대 등)

문화시설 접근성 제고, 공연·전시 참여 확대, 문화예술 교육 및 고용 지원,
창작공간 조성 및 유통 지원, 중앙정부 및 지방자치단체의 재정·행정 책임 명시
문화시설 접근성 보장을 위한 비용 지원 조항 신설

2. 제6차 장애인정책종합계획(2023~2027)

제6차 종합계획은 발달장애인을 위한 ‘평생돌봄 체계’ 내에 문화예술 참여를 명시하고 있으며, 다음과 같은 정책들이 추진 중에 있다.

- 발달장애인 낮 활동 서비스에 문화예술 프로그램 포함
- 장애예술강좌 이용권 도입
- 창작공간 조성 및 창작물 유통 플랫폼 구축
- 장애예술 전문인력 양성체계 구축
- 문화향유 콘텐츠 개발
- 문화시설 접근성 매뉴얼 보급 및 시설 개선

이는 발달장애인이 단지 보호받는 존재가 아니라, 문화적 주체로 성장할 수 있는 기반을 마련하고자 하는 정책적 전환을 의미한다.

3. 한국장애인문화예술원

한국장애인문화예술원(Korea Disability Arts and Culture Center, 약칭 KAAD)은 2016년에 설립되어 단순한 지원기관이 아닌, ‘장애예술 생태계의 중심축’ 역할을 수행하고 있다. 이는 장애예술인을 ‘복지의 수혜자’에서 ‘문화 창작자’로 전환시키는데 중요한 역할을 하고 있으며, 발달장애인을 포함한 모든 장애인이 ‘예술로 말할 수 있는 사회’를 만드는 데 기여하고 있다.

이 기관의 설립목적은 다음과 같다.

- 장애예술인의 창작권 보장, 문화향유 확대, 문화예술 활동 기반 마련
- 장애인의 문화적 권리 실현과 문화 다양성 확대를 통한 포용사회 구축
- 장애예술에 대한 사회적 인식 개선과 예술로서의 가치 창출

< 한국장애인문화예술원의 기능 >

분야	설명
창작 지원	장애예술인의 작품 제작, 전시, 공연, 창작공간 운영
교육 및 인재 양성	장애예술 전문강사 양성, 발달장애 예술교육 운영
유통 및 홍보	창작물 유통 플랫폼 운영, 국내외 홍보, 언론 협업
정책·연구	실태조사, 정책개발, 유관기관 협력
국제교류	해외 장애예술기관과 교류, 국제 전시·포럼 개최

이 기관의 주요 성과를 살펴보면, 2023년 기준, 장애예술인 창작지원 400여 건 이상, 발달장애 예술강좌 수강자가 매년 증가하고 있으며, 국내 최초 장애예술 전문 유통플랫폼 시범 운영 시작, 지역 문화예술기관 150여 곳과 협업체계 구축 및 세계장애예술축제(WAF, World Disability Arts Festival) 개최 등 다양한 사업들을 수행하고 있음을 알 수 있다.

IV. 결론 및 제언

발달장애인의 문화예술 활동은 단지 여가가 아닌 삶의 핵심 영역이다. 정책적 기반은 마련되어 있지만, 실제 참여와 자립으로 이어지기 위해서는 현장 중심의 실행력과 문화적 감수성이 필수적이다.

발달장애인의 문화 예술 활동 진흥은 단지 예술 교육의 확대가 아니라, 사회가 장애를 바라보는 시선의 전환을 요구하는 과제이다. 문화 예술은 모든 인간이 누려야 할 기본 권리이며, 그 권리를 보장받는 사회야말로 진정한 문화국가라 할 수 있을 것이다. 한국 사회가 발달장애인의 문화 예술 참여를 적극적으로 지원하고, 이를 통해 포용과 공존의 문화를 확산시킬 때, 우리는 진정한 의미의 ‘다양성의 사회’를 실현할 수 있을 것이다.

우리는 이제 발달장애인을 ‘수혜자’로만 바라보는 시각을 넘어, 이들이 주체적으로 문화생태계에 기여하는 공동체의 일원으로 인식하고 지원해야 할 시점에 와 있다. 문화예술을 통한 발달장애인의 권리 실현은 곧 사회 전체의 품격을 높이는 일임을 강조하며, 이 발제를 마친다.

< 참고문헌 >

- 문화체육관광부. (2023). 『장애인 문화예술 정책 백서』.
- 한국장애인문화예술원. (2022). 『장애인 문화예술교육 실태조사 보고서』.
- 유엔장애인권리협약(UN CRPD), 제30조 문화생활·여가·체육에 대한 참여.
- 김선미 외. (2021). 「발달장애인의 문화예술 활동 참여와 사회 통합에 대한 연구」. 한국특수교육학회.
- 박은정. (2020). 「장애예술인의 창작 활동 지원에 관한 정책적 고찰」. 문화정책연구.

韓国における発達障害者の文化・芸術活動振興の意義と効果

ウ・ジュヒョン（韓国ナザレ大学教授）

I. 序論：文化芸術は発達障害者の人生を開く扉である

発達障害者は認知・意思疎通領域の制約により、社会的孤立や表現の困難を経験することが多い。彼らにとって文化芸術は単なる余暇を超え、感情表現と社会参加、自尊心回復の通路として機能する。特に国連障害者権利条約（CRPD）が強調するように、文化芸術は人間らしい生活と社会的統合を実現する基本権の一部として理解されるべきである。文化芸術を通じた自律的な参加は、福祉の対象ではなく能動的な市民としての権利を実現する道であり、これは韓国社会が目指すべき市民的福祉国家の核心的価値と通じるものである。韓国社会は次第に多様性と包摂性を重視する方向へ変化しており、こうした流れの中で発達障害者の文化芸術活動への関心が高まっている。過去には発達障害者の文化・芸術参加が治療やリハビリの手段と見なされていたが、今では文化的権利としてその正当性が認められている。

発達障害者は認知、意思疎通、社会的相互作用などに困難を抱える特性があるが、芸術は言語と論理を超え感覚と感性でコミュニケーションする手段であるため、発達障害者にとって非常に適した表現の場と言える。本発表では発達障害者の文化・芸術活動振興の必要性和効果を検討し、今後韓国社会が進むべき方向について提言したい。

II. 発達障害者と文化・芸術活動の意味

1. 発達障害者の定義及び特性

発達障害は自閉性障害、知的障害など生涯を通じて発達上の困難を経験する障害を包括する概念である。これらは言語、認知、感情調節、社会的機能などで差異を示し、日常生活において多様な支援が必要である。しかし障害は欠如ではなく差異の表現であり、文化芸術はこうした「差異」を尊重し表現できる強力な手段に該当する。

2. 文化・芸術活動の意味

文化・芸術活動は、絵画、演劇、音楽、舞踊、映画、文学など多様なジャンルを通じて自己表現とコミュニケーション、創作を実現する活動である。特に発達障害者にとって文化芸術は、言語的制約を克服し内面世界を表現することを可能にし、自尊心の向上と社会参加の機会を提供する。

3. 文化・芸術活動の振興の必要性及び効果

1) 文化的権利の観点

大韓民国憲法第 11 条および UN CRPD 第 30 条に基づき、発達障害者の芸術活動は基本権として保障されるべきである。

2) 社会統合と多様性の尊重

芸術参加は健常者との相互理解を深め、社会的認識を改善する。

3) 自己実現と生活の質向上

創作を通じ人生の意味を見出し、社会の一員として尊重される。

4) 心理・情緒的效果

ストレス緩和、情緒安定、自尊心の向上。

5) 社会性の発達

コミュニケーション能力、協調性、責任感の向上。

6) 教育的効果

集中力・思考力の強化、特性に合わせた教育の可能性。

7) 経済的可能性

職業的自立、作品の商品化や文化企画への参画。

III. 発達障害者の文化・芸術活動の制度的基盤

1. 障害芸術家支援法（2020 年制定）

この法律は、障害芸術家の創作活動、教育、流通、雇用、施設へのアクセシビリティなどを総合的に支援するために 2020 年に制定された。特に発達障害者の場合、自発的な参加が困難な構造的問題を解決するため、国と自治体の行政的・財政的責務を明文化した。この法律は発達障害者を含む全ての障害芸術家の「権利に基づく創作活動」を制度的に保障しようとするものである。本法の主な内容は以下の通りである。

○ 第 1 条（目的）

障害芸術家の文化芸術活動を促進し、生活の質向上に寄与すること。

○ 第 5 条（国及び自治体の責務）

総合的施策の立案、予算確保、行政・財政支援義務の明示。

○ 第 6～7 条（基本計画の立案及び支援委員会の設置）

5 年単位の基本計画策定、年度別実施計画の義務化。

○ 第 9 条の 2（障害芸術家の創作物優先購入）

障害芸術家の創作物優先購入制度導入 → 創作の職業化基盤整備。

○ 第 10 条～12 条（参加拡大等）

文化施設へのアクセシビリティ向上、公演・展示への参加拡大、文化芸術教育及び雇用支援、創作空間の整備及び流通支援、中央政府及び地方自治体の財政・行政責任を明示
文化施設へのアクセシビリティ確保のための費用支援条項を新設

2. 第 6 次障害者政策総合計画（2023～2027）

第 6 次総合計画は発達障害者のための「生涯ケア体系」内に文化芸術参加を明記しており、以下の政策が推進中である。

- 発達障害者昼間活動サービスへの文化芸術プログラム包含
- 障害芸術講座利用券導入
- 創作空間造成及び創作物流通プラットフォーム構築
- 障害芸術専門人材育成体系の構築
- 文化享受コンテンツの開発
- 文化施設アクセシビリティマニュアルの普及及び施設改善

これは、発達障害者が単に保護される存在ではなく、文化的主体として成長できる基盤を整えようとする政策的転換を意味する。

3. 韓国障害者文化芸術院（KAAD）

韓国障害者文化芸術院（Korea Disability Arts and Culture Center、略称 KAAD）は 2016 年に設立され、単なる支援機関ではなく、「障害芸術生態系の中心軸」としての役割を果たしている。これは障害芸術家を「福祉の受益者」から「文化創造者」へと転換させる上で重要な役割を果たしており、発達障害者を含む全ての障害者が「芸術で語れる社会」を創ることに貢献している。

この機関の設立目的は以下の通りである。

- 障害芸術家の創作権保障、文化享受の拡大、文化芸術活動の基盤整備
 - 障害者の文化的権利実現と文化多様性拡大を通じた包摂社会の構築
 - 障害芸術に対する社会的認識の改善と芸術としての価値創造

＜ 韓国障害者文化芸術院の機能 ＞

分野	説明
創作支援	障害芸術家の作品制作、展示、公演、創作空間運営
教育及び人材育成	障害芸術専門講師養成、発達障害芸術教育運営
流通及び広報	創作物流通プラットフォーム運営、国内外広報、メディア連携
政策・研究	実態調査、政策開発、関連機関協力
国際交流	海外障害芸術機関との交流、国際展示・フォーラム開催

IV. 結論及び提言

発達障害者の文化芸術活動は単なる余暇ではなく、生活の中核領域である。政策的基盤は整っているが、実際の参加と自立につなげるためには現場中心の実行力と文化的感受性が不可欠である。

発達障害者の文化芸術活動振興は単なる芸術教育の拡大ではなく、社会が障害を見る視線の転換を求める課題である。文化芸術は全ての人間が享受すべき基本的人権であり、その権利が保障される社会こそ真の文化国家と言えるだろう。韓国社会が発達障害者の文化芸術参加を積極的に支援し、これを通じて包容と共存の文化を拡散させる時、私たちは真の意

味での「多様性の社会」を実現できるであろう。

私たちは今や、発達障害者を「受益者」としてのみ見る視点を越え、彼らが主体的に文化生態系に貢献する共同体の一員として認識し支援すべき時点に来ている。文化芸術を通じた発達障害者の権利実現は、すなわち社会全体の品格を高めることであると強調し、本発表を終える。



2025.09

발달장애인의 문화예술 발전의 의미와 효과

発達障害者の文化芸術発展の意味と効果

최 유 경

チェ・ユギョン

목 차

1. 목적
2. 현황
3. 문제점
4. 대책
5. 기대효과
6. 직업재활 발전 효과
7. 향후 과제
8. 결론

もくじ

1. 目的
2. 現況
3. 問題点
4. 対策
5. 期待効果
6. 職業リハビリテーションの発展と評価
7. 今後の課題
8. まとめ

1. 목적

발달장애인의 문화적 권리 보장

発達障害者の文化的権利の保障

예술 참여를 기본적 인권으로 확립

芸術参加を基本的人権として確立

자기표현 · 정체성 확립

自己表現・アイデンティティーの確立

예술을 통해 자존감, 자기효능감, 삶의 의미 강화

芸術を通して、自尊心・自己効力感・生きる意味を強化

사회통합 실현

社会統合の実現

장애·비장애의 경계를 넘어선 공동체적 문화 경험 확대

障害の有無をこえた共同体的文化経験の拡大

국제적 연대

国際的なつながり

한·일 및 아시아 차원에서 포용적 문화예술 모델 공유·확산

日韓およびアジアレベルで包括的文化芸術モデルの共有・拡散

2. 현황 現況

① 발달장애인 문화예술활동의 의미와 효과 発達障害者の文化芸術活動の意味と効果

1	재능 발현 + 사회적 소통 단순 취미 → 전문 예술·직업 활동	才能の発現 + 社会的疎通 単なる趣味 → 専門的な芸術・職業活動
2	인권 · 자존감 향상 자기 효능감·존재감 회복	人權・自尊心 向上 自己効力感・存在感の回復
3	경제적 자립 공연·전시·고용 통한 소득 창출	経済的な自立 公演・展示・雇用による所得の創出
4	사회적 효과 장애 인식 개선, 포용적 문화 확산	社会的効果 障害認識の改善、包括的な文化の拡散

2. 현황 現況

② 법·제도 기반 法令・制度基盤

「발달장애인 권리보장법」(2015)
「発達障害者権利保障法」(2015)

생애주기별 지원
ライフサイクル別の支援

한국장애인문화예술원(이음센터, 2015~)
韓国障害者文化芸術院(i-eum센터、2015~)

전용 극장·아카데미·플랫폼 구축
専用の劇場・アカデミー・プラットフォームを構築

1

2

3

4

「장애예술인지원법」(2020, 세계 최초)
「障害芸術人支援法」(2020、世界初)

창작지원·일자리·접근성·발표 기회 보장
創作支援・仕事・アクセス・発表の機会を保障

제1차 장애예술인 기본계획(2022~)
第一次障害芸術人基本計画(2022~)

창작지원·일자리·접근성·인력양성
創作支援・仕事・アクセス・人材養成

2. 현황 現況

③ 예산 · 인프라 予算・インフラ

- 장애인예술인 지원예산 증가 추세:
障害芸術人 支援予算 増加の傾向

20억
約2億1200万円
2017年

67억
約7億1100万円
2023年

200억
約21億2200万円
2028年 목표
目標

전국 단위 지원센터 확충, 장애인예술 전용 무대·전시공간 확대
全国単位での支援センター拡充、障害芸術専用の舞台・展示空間の拡大

2. 현황 現況

④ 대표 단체 사례

代表団体の事例

持分・投資型、大韓航空・S-オイル・NH投資証券・
ハナ銀行など10社の企業投資、音楽初の標準事業場

発達障害音楽家40人企業連携・B2B公演・教育型
(多数企業)認識改善公演・教育、予備社会的企業

連携方式・企業/機関
연계 방식·기업/기관

지분·투자형, 대한항공·S-오일·NH투자
증권·하나은행 등 10개 기업 투자, 음악
최초 표준사업장

발달장애 음악인 40명 기업 연계·B2B
공연·교육형(다수 기업)인식개선 공연·
교육, 예비 사회적기업

골프존뉴딘그룹
Golfzon Newdin Group

団体名
단체명

雇用/連携形態・成果
고용/연계 형태·성과

하트하트 오케스트라
하트·하트·오케스트라

(주)하트하트아트앤컬처(2025), 발달장애
예술가 51명 정규 고용
(株)하트·하트·아트&カルチャー(2025)、
発達障害芸術家51名 正規雇用

아트위캔
Art We can

고용, 고용부 장관상(2024)
雇用、雇用部長官賞(2024)

골프존 파스텔합창단
골프존·파스텔합창단

합창단원·바리스타 15~20명 정규자회
사 직접고용형 표준사업장 고용
合唱団員・バリスタ 15~20名 正規子会社
直接雇用型 標準事業所 雇用

2. 현황 現況

④ 대표 단체 사례 代表団体の事例

団体名 단체명	雇用/連携形態・成果 고용/연계 형태·성과	連携方式・企業/機関 연계 방식·기업/기관
아르브뤼 코리아 art brut korea	발달장애 미술작가 9명 창작·렌탈·굿즈 発達障害美術作家9名 創作・レンタル・グッズ	시장연계·우선구매형(공공·민간) 市場連携・優先購入型(公共・民間)
라하프 뮤지컬 극단 라하프·뮤지컬 劇團	창작뮤지컬·아카데미, 인식개선 영상 제작 創作ミュージカル・アカデミー、認識改善映像制作	교육·캠페인형 한국장애인고용공단 협력 教育・キャンペーン型 韓国障害者雇用公団協力

⑤ 특징 및 시사점 特徴・示唆点

- "예술 = 직업": 정규 고용·자회사·사회적기업 모델 확산 「芸術=職業」: 正規雇用・子会社・社会的企業モデルの拡散
- 장르 다양화: 음악·미술·뮤지컬 등 전 영역 참여 ジャンルの多様化: 音楽・美術・ミュージカルなど全領域参加
- 민관 협력: 기업·공공기관이 직접 투자·운영 民官協力: 企業・公共機関が直接投資・運営
- 사회 통합: 발달장애인 예술가 → 자립 + 인식 개선 + 문화 다양성 기여 社会統合: 発達障害者アーティスト→ 自立+認識改善+文化多様性に貢献

2. 현황 現況

고용창출: 직업재활 연계 雇用創出: 職業リハビリテーション連携

직업훈련 職業訓練

공연·전시·합창·뮤지컬 활동을 통해 **근로습관, 협업능력, 시간관리** 습득 → 직업재활 단계에서 핵심 역량으로 전환

公演・展示・合唱・ミュージカル活動を通じて
勤労習慣、協調能力、時間管理習得 →
職業リハビリテーション段階で核心力量に転換

전문직 진출 가능성 専門職へ進出の可能性

음악가, 배우, 미술작가 등 **문화예술 직종**이
새로운 장애인 직업군으로 자리매김

音楽家、俳優、美術作家など、**文化芸術職種**が
新たな障害者職業群として位置づけられる

자립 기반 형성 自立基盤の向上

예술활동이 단순 체험을 넘어 **정규고용·소득창출**로 이어짐 → 경제적 독립 지원

芸術活動が単なる体験を超えて、**正規雇用・所得創出**につながる → 経済的独立支援

3. 문제점 問題点

접근성 한계 アクセスの限界

공연장·전시관의 물리적·정보적 장벽 여전 (수어·자막·쉬운언어 부족)

いまだに、公演場・展示館の物理的・情報的な障壁あり
(手語・字幕・わかりやすい言葉が不足)

전문인력 부족 専門人材の不足

발달장애 특성을 이해하는 예술교육자·매니저·프로듀서 부재

発達障害の特性を理解する芸術教育者・マネージャー・プロデューサーが不在

재정 구조 불안정 財政構造が不安定

단기 프로젝트 중심 → 지속가능성 미흡

短期プロジェクトが中心→持続可能性が不十分

사회적 편견 社会的偏見

여전히 "치료·재활" 중심으로 보는 인식 존재

いまだに、「治療・リハビリ」中心でみる認識が存在

국제 교류 미비 国際交流の不備

아시아 차원의 장애예술 네트워크·공동펀드 부족

アジアレベルの障害芸術ネットワーク・共同ファンド不足

4. 대책 対策

1) 정책 · 제도 政策・制度

- 문화예술 참여를 '권리'차원에서 제도화 → CRPD(유엔장애인권리협약) 제30조 실현
文化芸術参加を「権利」という次元で制度化 → CRPD(障害者の権利に関する条約) 第30条実現
- 한·일 공동 정책 연구, 아시아 네트워크·공동 펀드 구축
日韓共同政策研究、アジアネットワーク・共同ファンド構築

2) 인프라 · 접근성 インフラ・アクセス

- 배리어프리 공연장·전시장 전국 확충
バリアフリー公演場・展示場の全国拡充
- 정보접근성 패키지: 수어통역, 자막, 쉬운언어, 오디오 가이드 표준화
情報アクセシビリティパッケージ：手語通訳、字幕、わかりやすい言葉、オーディオガイドの標準化

4. 대책 対策

3) 인력 · 교육 人材・教育

- 예술+특수교육+복지 융합교육→ 발달장애인 예술교육 전문가 양성
芸術 + 特別教育 + 福祉融合教育 → 発達障害者 芸術教育専門家の養成
- 국제 공동연수/레지던시→ 글로벌 역량 강화
国際共同研修/レジデンス → グローバル能力強化

4) 지속가능한 자원 持続可能な財源

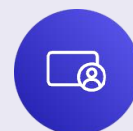
- 민관 협력기금 + 기업 ESG 연계지원
民官協力基金 + 企業ESG連携支援
- 창작 → 교육 → 공연/전시 → 유통 → 고용 선순환 생태계 구축
創作 → 教育 → 公演/展示 → 流通 → 雇用好循環生態系の構築

5. 기대효과 期待効果



개인 個人

- 자기표현력·자존감·자기효능감 강화
自己表現力・自尊心・自己効力感の強化
- 전문 예술가로서의 정체성 확립
専門アーティストとしてのアイデンティティを確立



사회 社会

- 장애 인식 개선 및 포용적 공동체 형성
障害認識の改善と包括的なコミュニティ形成
- 문화예술 다양성 증대, 사회적 통합 기여
文化芸術多様性の増大、社会的統合に貢献



정책 · 산업 政策・産業

- 문화산업 신시장 창출(공연·굿즈·아트렌탈 등)
文化産業 新市場創出(公演・グッズ・アートレンタルなど)
- 한국형 포용문화 모델의 국제 확산
韓国型 包容文化モデルの国際拡散



국제 国際

- 한·일 및 아시아 공동 페스티벌·정례 포럼 개최
日韓・アジア共同フェスティバル・定例フォーラム開催
- 글로벌 문화인권 모델 제시
グローバル文化人権モデルの提示

6. 직업재활 발전효과 職業リハビリテーションの発展効果

1

고용 다양화 雇用の多様化

단순 행정·보조 업무를 넘어, 예술가·강사·공연기획 등 **다양한 직무군**으로 확장
単純行政・補助業務を超えて、芸術家・講師・公演企画など**多様な職務群**に拡張

2

사회적 인식 개선 社会的認識の改善

장애예술가의 활동이 **기업 ESG, 사회공헌 활동**과 연결 → 고용 확대 선순환
障害芸術家の活動が**企業ESG、社会貢献活動**と連結 → 雇用拡大の好循環

3

지속 가능한 일자리 持続可能な仕事

공연·전시 → 굿즈·렌탈 → 교육·캠페인 → 고용으로 이어지는 **문화예술 생태계** 구축
公演・展示 → グッズ・レンタル → 教育・キャンペーン → 雇用につながる**文化芸術生態系**構築

4

자기효능감 향상 自己効力感の向上

직업재활을 통해 경제적 자립 + 사회적 인정 → **정체성 확립과 삶의 질 향상**
職業リハビリテーションを通じて**経済的自立 + 社会的認定** → **アイデンティティの確立と生活の質の向上**

5

지역사회 발전 地域社会の発展

문화예술단체와 기업 협력이 지역 단위에서 일자리·문화 서비스 동반 확산
文化芸術団体と企業協力が地域単位で雇用・文化サービス同伴の拡散

6. 향후 과제 今後の課題

1

국가 차원 国家レベル

중장기 예산 안정화, 기본계획 성과관리 제도화
中・長期予算の安定化、基本計画・成果管理の制度化

2

지역 차원 地域レベル

로컬 거점형 통합예술교육·생활문화 확산
ローカル拠点型 統合芸術教育・生活文化の拡散

3

학문 차원 学問分野

발달장애인 문화예술의 효과성에 대한 장기 추적연구 필요
発達障害者文化芸術の効果性に対する長期追跡研究が必要

4

국제 협력 国際協力

한·일 공동 페스티벌, 아시아 장애예술 네트워크 정례화
韓日共同フェスティバル、アジア障害芸術ネットワークの定例化

5

궁극적 과제 究極の課題

발달장애인의 문화예술활동을 인권·문화다양성·사회혁신의 축으로 확장
発達障害者の文化芸術活動を人権・文化多様性・社会革新の軸に拡張

7. 결론 まとめ

발달장애인의 문화예술 발전은,

- 예술가로서의 직업화를 가능하게 하여, **직업재활과 고용 창출의 새로운 장**을 열고,
- **기업과 사회**가 함께하는 **포용적 고용 생태계**를 형성하며
- **문화다양성과 사회적 통합**을 동시에 실현하는 전략적 의미를 가진다.

発達障害者の文化芸術の発展は、

- **アーティストとしての職業化**を可能にし、**職業リハビリテーションと雇用創出**の新たな章を開き、
- **企業と社会**がともに包括的な雇用生態系を形成し、
- **文化多様性と社会的統合**を同時に実現する戦略的意味を持つ。

どうもありがとうございます

**발달장애인의 문화예술 발전을 위한
노력은 계속됩니다**

**発達障害者の文化芸術発展のための
努力は続きます**

知的障害者の文化芸術活動振興の意味と効果

すそ野を広げることで共生社会に向かう

**지적장애인의
문화예술활동 진흥의 의미와 효과**

산 밑단을 펼치면 공생 사회로

津田英二 (神戸大学)

쯔다 에이지 (고베대학)

知的障害者の文化芸術活動振興の意味と効果

[すそ野を広げることで共生社会に向かう]

지적장애인의 문화예술활동 진흥의 의미와 효과

[산 밑단을 펼치면 공생 사회로]

津田英二 (神戸大学)
쯔다 에이지 (고베대학)

2010年代後半に動き出した障害者の文化芸術振興政策

2010년대 후반에 움직이기 시작한 장애인 문화예술진흥 정책

- **共生社会をうたう障害者基本法改正（2011年）**
공생사회를 노리는 장애인 기본법 개정(2011년)
- **障害者差別解消法制定（2013年）**
장애인 차별 해소법 제정(2013년)
- **地域共生社会実現に向けた社会福祉法改正（2017年）**
지역공생사회 실현을 위한 사회복지법 개정(2017년)
- **文化芸術基本法改正（2017年）**
문화예술 기본법 개정(2017년)
- **東京オリンピック・パラリンピック（2020年予定）**
도쿄 올림픽·패럴림픽(2020년 예정)

文化芸術基本法（2017年）のねらい

문화예술기본법(2017년)의 목표

日本語

- 文化芸術そのものの振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野における施策を本法の範囲に取り込む
- 高齢者及び障害者の創造的活動等への支援等の明記

한국어

- 문화예술 그 자체의 진흥에 그치지 않고 관광, 마을 만들기, 국제교류, 복지, 교육, 산업 및 기타 관련 분야의 시책을 본법의 범위에 도입
- 고령자 및 장애인의 창조적 활동 등에의 지원 등의 명기

障害者文化芸術活動推進法（2018年）

장애인 문화예술 활동 추진법(2018년)

日本語

第1条 障害者による文化芸術活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって文化芸術活動を通じた障害者の個性と能力の発揮及び社会参加の促進を図ることを目的とする。

한국어

제1조 장애인에 의한 문화예술활동의 추진에 관한 시책을 종합적이고 계획적으로 추진하고, 문화예술활동을 통한 장애인의 개성과 능력의 발휘 및 사회참여의 촉진을 도모하는 것을 목적으로 한다.

障害者文化芸術活動推進法が示す政策の方向性

장애인 문화 예술 활동 추진법이 나타내는 정책의 방향성

- ① 障害者による文化芸術活動の幅広い促進
장애인에 의한 문화예술 활동의 폭넓은 촉진
- ② 障害者による芸術上価値が高い作品等の創造に対する支援強化
장애인에 의한 예술상 가치가 높은 작품 등의 창조에 대한 지원 강화
- ③ 文化芸術活動を通じた交流等の促進
문화예술활동을 통한 교류 등의 촉진

障害者文化芸術活動振興政策の効果 장애인 문화 예술 활동 진흥 정책의 효과

2019年以降に障害者対象の事業を実施する美術館・博物館が増加（2023年文化庁調査）

2019년 이후 장애인 대상 사업을 실시하는 미술관·박물관 증가 (2023년 문화청 조사)



2019-2023년도에 실시
令和元年度から令和5年度の間に実施したことがある

27.5%

2015-2018년도에 실시
平成26年から平成30年度の間に実施したことがある。

8.2%

2014년도 이전에 실시
平成25年度以前に実施したことがある

62.1%

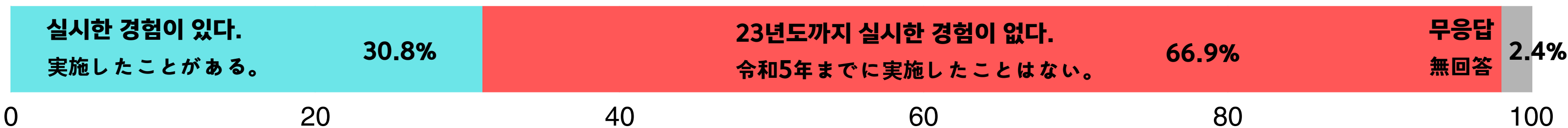
무응답
無回答

2.2%

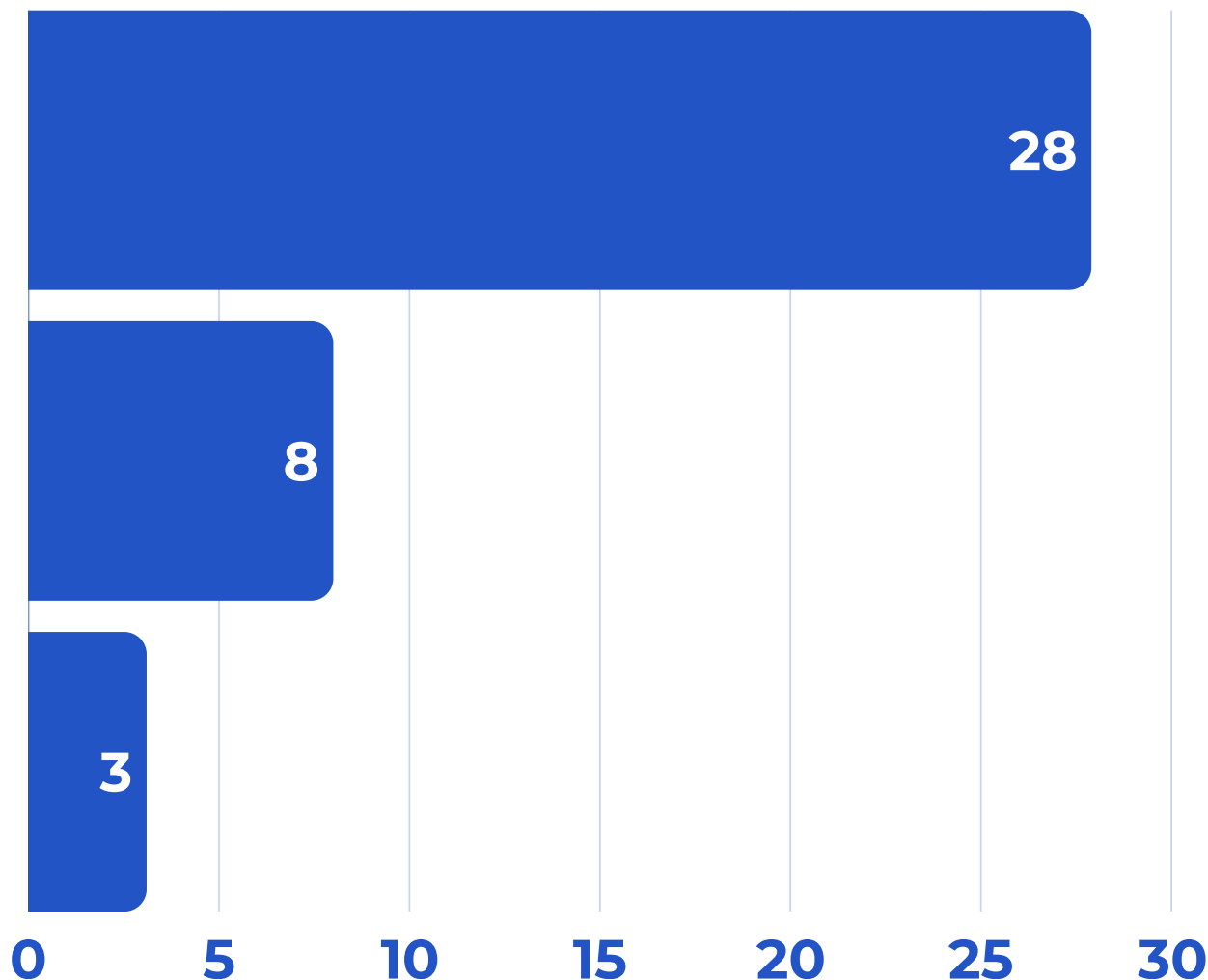
障害者文化芸術活動振興政策の効果 장애인 문화 예술 활동 진흥 정책의 효과

2019年から障害者対象の事業を実施する劇場、音楽堂が増加。内容の多くが鑑賞に関わるもの（2024年文化庁調査）

2019년부터 장애인 대상의 사업을 실시하는 극장, 음악당이 증가. 내용의 대부분이 감상에 관여하는 것. (2024년 문화청 조사)

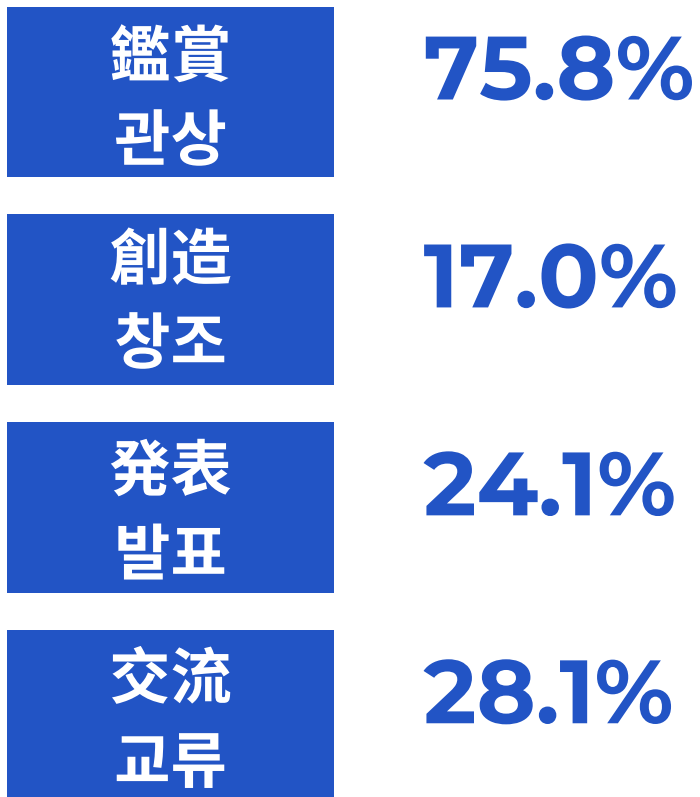


2019-2023년도에 실시
令和元年度から令和5年度の間に
実施したことがある



2015-2018년도에 실시
平成26年から平成30年度の間に
実施したことがある。

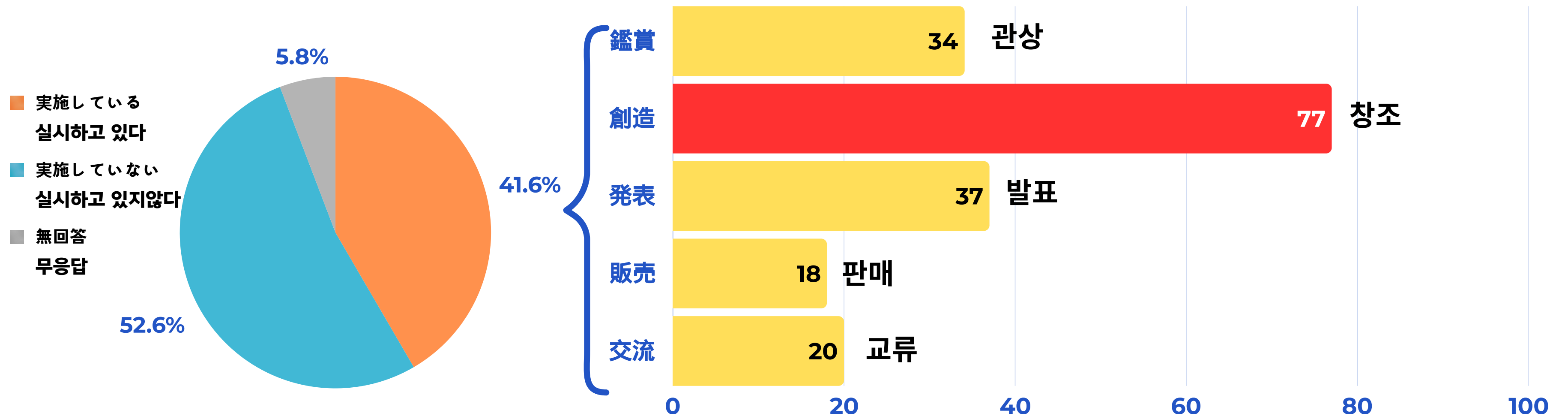
2014년도 이전에 실시
平成25年度以前に
実施したことがある



草の根の担い手は障害者福祉事業所 직접 실시하는 기관은 주로 장애인 복지 사업소

障害者福祉施設のうち41.6%が利用者による文化芸術活動を実施しており、そのうち創造活動を実施している施設は77.0%
(2000年厚生労働省調査)

장애인 복지시설 중 41.6%가 이용자에 의한 문화예술활동을 실시하고 있으며, 그중 창조활동을 실시하고 있는 시설은 77.0%
(2000년 후생노동성 조사)



障害者アートを扱う企業 장애인 예술을 다루는 기업

日本語

知的障害のある作家と契約を結び、その作家の作品に関心のある企業と協働して製品化するエージェント企業の台頭。

株式会社ヘラルボニー、Abeille合同会社、株式会社サーヴォ、株式会社パラリンアート、TOPPANホールディングス株式会社、エイブルアート・カンパニー……

한국어

지적 장애가 있는 작가와 계약을 맺고, 그 작가의 작품에 관심이 있는 기업과 협동하여 제품화하는 에이전트 기업의 대두.

주식회사 헤랄보니, Abeille 합동회사, 주식회사 서보, 주식회사 패럴린 아트, TOPPAN 홀딩스 주식회사, 에이블 아트 컴퍼니 등...

行政施策の中心は「すそ野を広げること」 행정 시책의 중심은 「산 밑단을 넓히는 것」

질 향상 경제효과를 낳다
質を高める
經濟効果を生む

芸術的価値の高い作品の評価・販売
예술적 가치가 높은 작품의 평가·판매

鑑賞、創造、発表の機会の拡大
관상, 창조, 발표 기회 확대

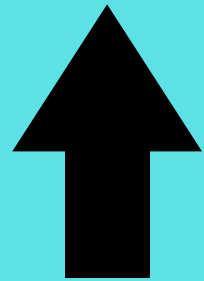
文化芸術活動を通じた交流
문화예술활동을 통한 교류

すそ野を広げる
산 밑단을 넓힌다

行政施策の中心は「すそ野を広げること」 행정 시책의 중심은 「산 밑단을 넓히는 것」

질 향상
경제효과를 낳다

質を高める
経済効果を生む



すそ野を広げる
산 밑단을 넓힌다

個人の創造力 + 企業の営業力
개인의 창조력 + 기업의 영업력

公共政策 + 数多くの障害者福祉事業所の取り組み
공공정책 + 수많은 장애인 복지 사업소의 실천



共生社会実現のための文化芸術振興
공생사회 실행을 위한 문화예술 진흥

知的障害者の文化芸術活動を阻む障壁

지적장애인의 문화예술 활동을 막는 장벽

兵庫県で2021年に実施した調査結果から
효고현에서 2021년에 실시한 조사 결과로부터

療育手帳所持者を主たる対象の調査とした。
有効回答数は811件。

성인 지적장애인을 대상
유효회답수 811



自由時間に活動を
したいと思っている
けど、実際には
活動に参加できて
いない人が、全体
の半分以上いる！

자유시간에 활동을
하고 싶지만
실제로는 활동에
참가할 수 없는
사람이
전체의 절반 이상 있다!

자유시간의 활동의욕이 높다
自由時間の活動への意欲が高い

現在、自由時
間に取り組ん
でいる活動が
ない

현재
자유시간에
하고있는
활동이 없다

活動高ニーズ群
453名
활동 욕구가
높은 그룹
453명

停滞群
98名
활동이 멈춘 그룹
98명

積極的活動群
246名
적극적으로
활동하는 그룹
246명

消極的活動群
14名
소극적으로
활동하는 그룹
14명

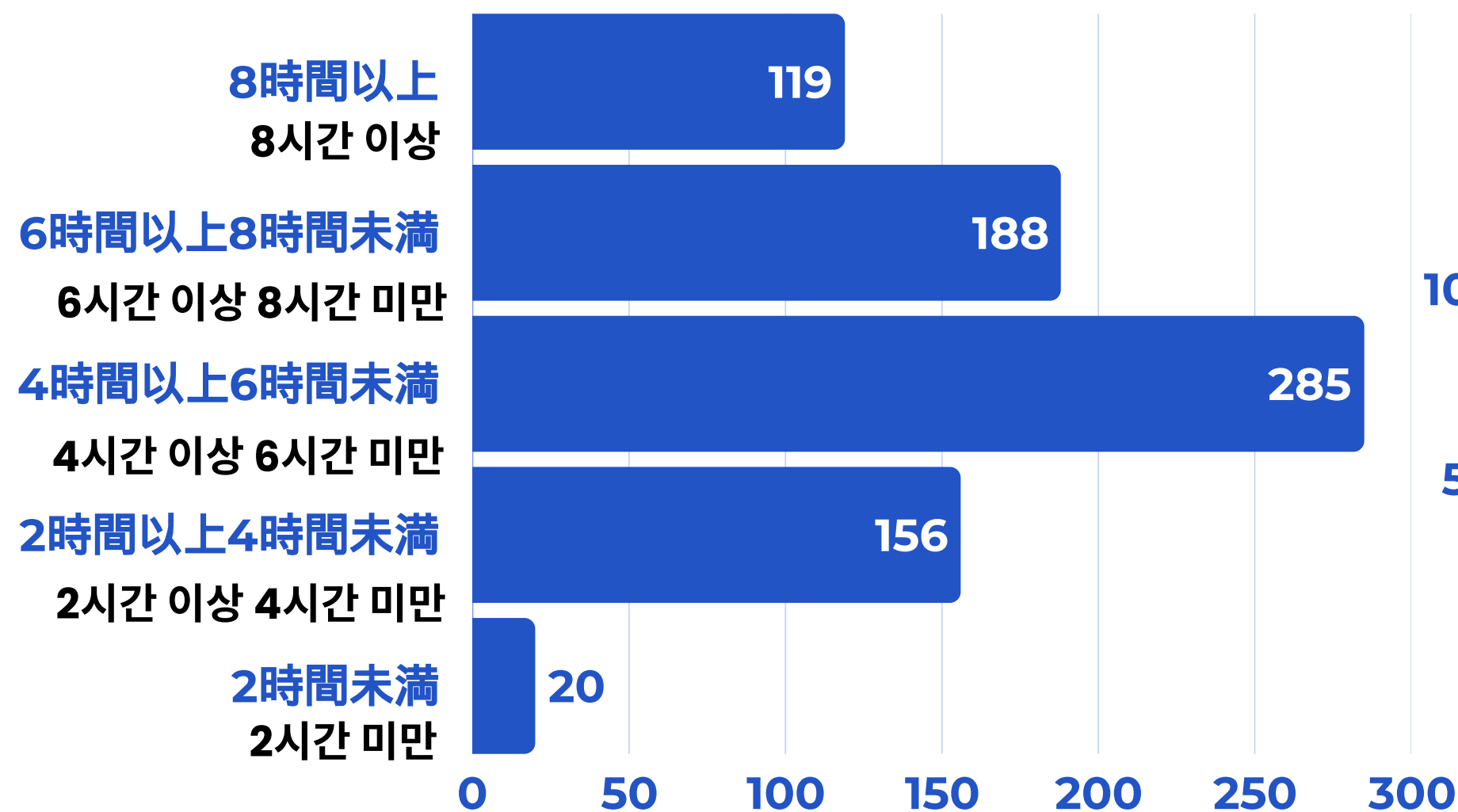
現在、自由時
間に取り組ん
でいる活動が
ある

현재
자유시간에
하고있는
활동이 있다

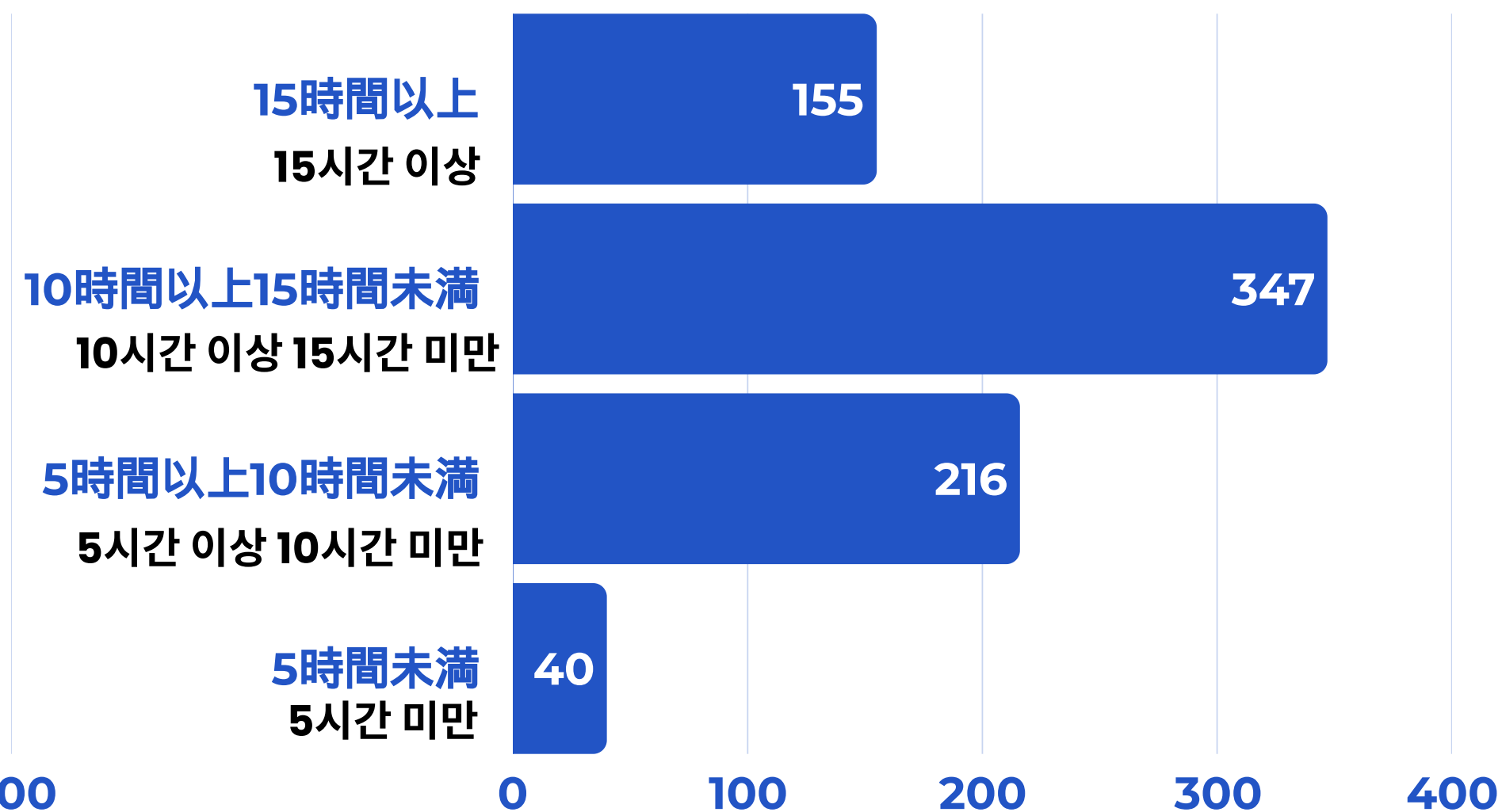
자유시간의 활동의욕이 낮다
自由時間の活動への意欲が低い

自由時間1 자유시간1

평일의 자유시간
平日の自由時間



휴일의 자유시간
休日の自由時間



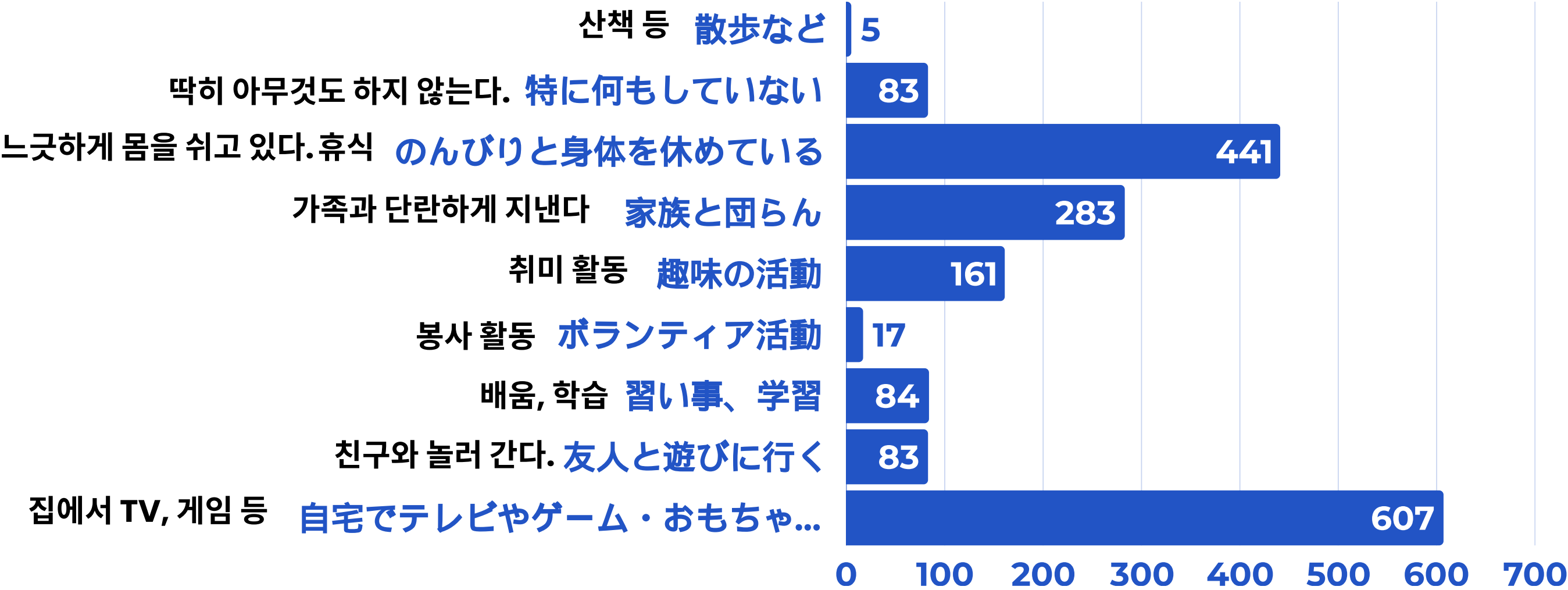
たくさんの自由時間があり、充実した時間にしたいという思いがあるのに、何もできていないという状態
많은 자유 시간이 있고, 충실한 시간으로 하고 싶다는 생각이 있는데, 아무것도 할 수 없는 상태

自由時間2

자유시간2

有効回答数 811
유효 응답수 811

자유 시간을 보내는 법 自由時間の過ごし方



障害者基本法が示す「共生社会」 장애인 기본법이 나타내는 「공생 사회」

日本語

全ての国民が、障害の有無によつて分け隔てられることなく、
相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現
(第1条)

한국어

모든 국민이 장애의 유무에 따라 분리되지 않고 상호 인격과 개성을 존중하면서 공생하는 사회를 실현
(제1조)

支援される障害者から、協働する障害者への転換 지원되는 장애인으로부터 협동하는 장애인으로의 전환

日本語

“制作の目的が説明的な私たちと異なっていて、創作（アート）というよりむしろ行為に対する私たちとは違う独自の目的を内面に持っているようだ。私たちはそういう制作者個人の価値観にできる限り近づき、行為や表現の理由を知ることが最も大切だと考えている。

知識や常識にとらわれずに私たちの考えている価値観とのギャップを知ることが重要であり、決して私たちの価値観に近づけることではないと思う。”

－（福森伸「介入～自己決定とパターナリズムの間で～」『創ってきたこと、創っていくこと ここには屈託のない笑いがある』（しょうぶ学園40周年記念誌）社会福祉法人太陽会、2013年、p.28）

한국어

“제작의 목적이 설명적인 우리와 다르고, 창작(아트)보다는 오히려 행위에 대한 우리와는 다른 독자적인 목적을 내면에 가지고 있는 것 같다. 우리는 그러한 제작자 개인의 가치관에 가능한 한 가까워지고, 행위나 표현의 이유를 아는 것이 가장 중요하다고 생각하고 있다. 지식이나 상식에 얽매이지 않고 우리가 생각하고 있는 가치관과의 격차를 아는 것이 중요하고, 결코 우리의 가치관에 접근하는 것이 아니라고 생각한다.”

－가고시마에 있는 쇼부학원의 원장님의 말씀

日本語

知的障害者がもたらす価値をもっと社会が享受するようになる必要。
そのためには、個々人が、知的障害者がもたらす価値に気づかなければならない。
→「個々人の認識変容をいかに惹き起こすか」という問いへ

한국어

지적장애인이 가져오는 가치를 더 사회가 즐길 수 있을 필요.
이를 위해서는 개인이 지적 장애인이 가져다주는 가치를 알아야 한다.
→「개인의 인식변용을 어떻게 유발하는가」라는 질문에

障害者の文化芸術作品を鑑賞する効果

장애인의 문화예술 작품을 감상하는 효과

2021年に実施したオンライン調査。有効回答数1644。
2021년에 실시한 온라인 조사. 유효 답변 1644.

	すべての障害者が 参加できる社会は よい社会だと思う	すべての障害者が 参加できる社会は よい社会だとは思 わない
障害者の芸術作 品に感動したこ とがある	880**	90**
障害者の芸術作 品に感動したこ とはない	496**	178**

*p<.05 **p<.01 数字は人数
클라메일V=.228

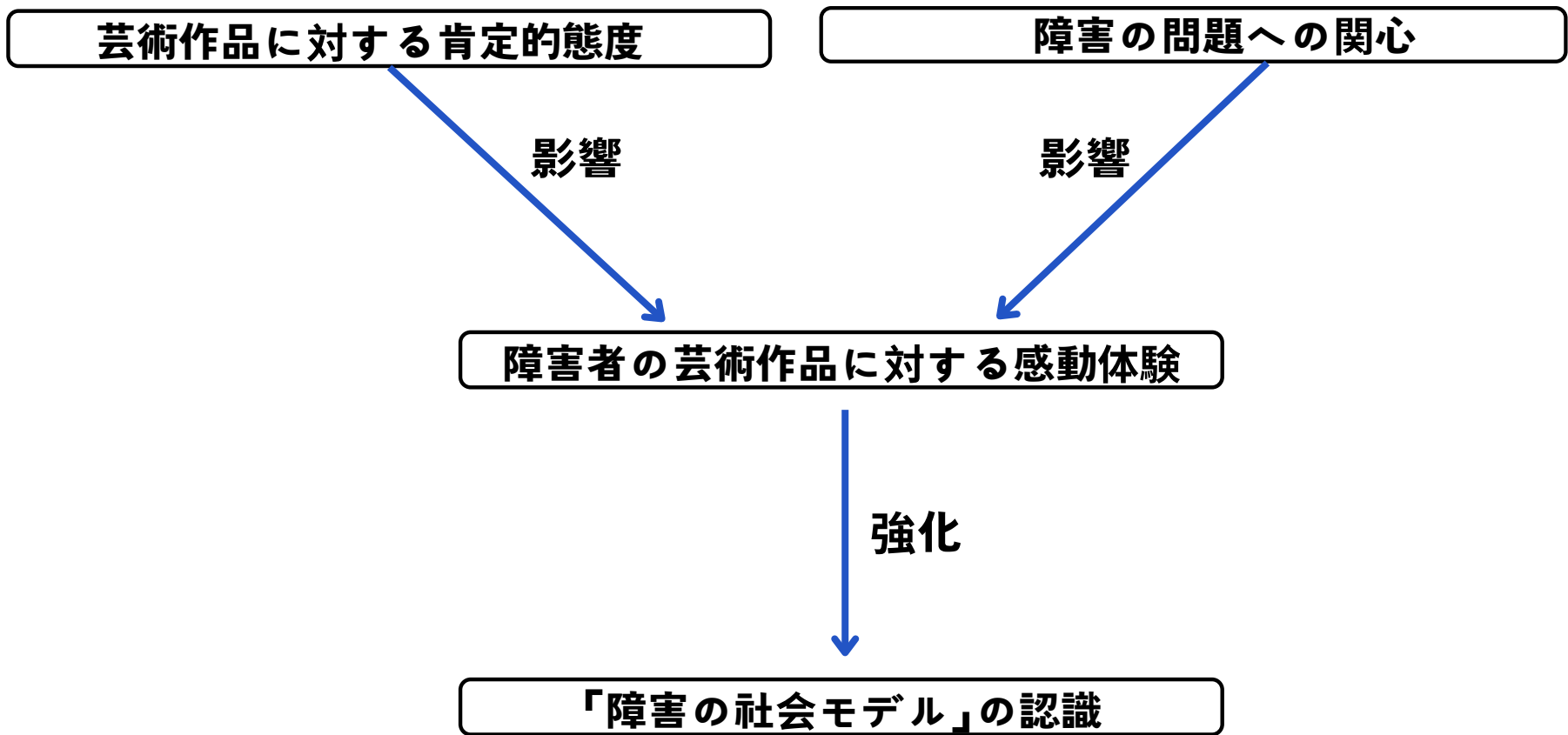
	모든 장애인이 참여할 수 있는 사회는 좋은 사회라고 생각한다.	모든 장애인이 참여할 수 있는 사회는 좋은 사회라 고 생각하지 않는다.
장애인의 예술 작품에 감동 한 적이있다.	880**	90**
장애인의 예술 작품에 감동 한 적이없다.	496**	178**

*p<.05 **p<.01 수차는 인수
크라메일V=.228

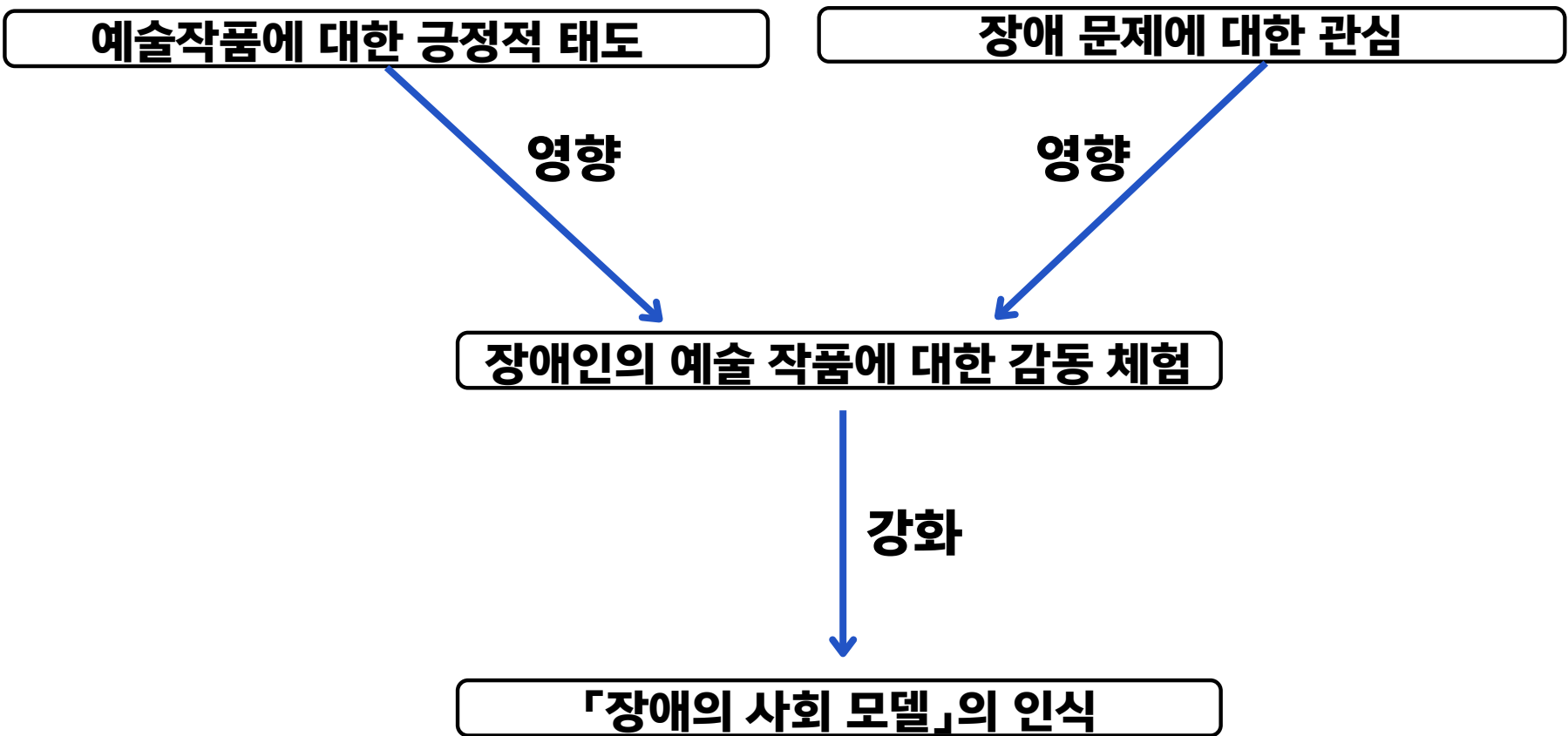
障害者の文化芸術作品を鑑賞する効果

장애인의 문화예술 작품을 감상하는 효과

장애인의 문화예술 작품을 감상하는 효과



장애인의 예술 작품 감상과 장애인식의 변화와의 관계



[おわりに] 政策推進の効果への期待

[결론] 정책 추진의 효과에 대한 기대

文化芸術のすそ野を広げることによって、
差異を楽しみ、異質な人どうしの協働が浸透し、
差異が豊かさを生み出す社会へと成長していく期待。

문화예술의 거짓말을 넓히는 것으로,
차이를 즐기고, 이질적인 사람끼리의 협동이 침투해,
차이가 풍요를 낳는 사회로 성장해 가는 기대.



ありがとうございます
감사합니다



The background features a faded city skyline with various skyscrapers. On the left side, there are large, abstract blue shapes: a curved band and a triangular shape pointing upwards.

Thank You

for Watching

Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur
adipiscing elit, sed do eiusmod tempor
incididunt ut labore et dolore magna aliqua. Ut
enim ad minim veniam

2025 年度日韓交流学術シンポジウム

「知的障害者の文化芸術と学び」

2025 年 9 月 14 日発行

神戸大学大学院人間発達環境学研究科
ヒューマン・コミュニティ創成研究センター

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲 3-11

TEL 078-803-7972 FAX 078-803-7971

発行責任者 津田 英二